



平成29年度調査研究報告書
特別支援教育担当
「特別支援学級の教育課程編成の在り方に
関する調査研究(1か年研究)」

特別支援学級ハンドブック



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」



埼玉県立総合教育センター

Saitama Prefectural Education Center

目次

第1章 調査研究編

I 研究の概要	1
1 研究主題設定の理由とその背景	2
2 研究の目的	2
3 研究の方法	3

II これは知っておこう	5
1 特別支援学級にかかわる法令等	6
（1）小学校及び中学校に置かれた特別支援学級及び標準人数	6
（2）特別の教育課程とは	6
（3）教科用図書の使用	7
（4）交流及び共同学習（共生社会の流れも含む）	7
2 特別の教育課程の基本	9
（1）特別の教育課程編成の流れ	9
（2）特別の教育課程の評価	9
（3）特別の教育課程の内容	10
3 特別支援教育コーディネーターの役割	14
4 特別支援学校のセンター的機能の活用	16

第2章 実務編

III 初めての特別支援学級担当の先生へ

1 特別支援学級の一年間（例）	19
2 教育課程編成の実際について	20

【具体的内容】

①児童生徒の実態の把握 ②指導目標の設定 ③指導内容の選択 ④指導の形態の採用
⑤交流及び共同学習の手立ての立案 ⑥日課表の作成 ⑦年間指導計画の作成
⑧個別の教育支援計画と個別の教育指導計画（埼玉県ではプランA・プランBとも言う）

（1）小学校	20
①知的障害特別支援学級	20
②自閉症・情緒障害特別支援学級	27
（2）中学校	35
①知的障害特別支援学級	35
②自閉症・情緒障害特別支援学級	42
☆ 教育支援プランA・Bの作成・活用について	50
3 学習指導案例	52
（1）教科別の指導（小：国語・中：音楽）	52
（2）自立活動（小・中）	62
（3）領域・教科を合わせた指導（小・中：「生活単元学習」）	70
☆ 学習指導案参考様式	80
4 就学支援・進路指導について	82
（1）小学校就学まで	82
（2）中学校進学に向けて	83
（3）中学校卒業後	84
（4）高等学校及び特別支援学校高等部卒業後	85

IV 講評

「特別支援学級の動向と専門性向上のための本ハンドブック活用への提案」

国立特別支援教育総合研究所 研修事業部研究員 神山 努 氏…… 87

V 研究のまとめ	89
-----------------	----

研究協力委員	91
---------------	----

第1章 調査研究編



I 研究の概要

第 1 章 調査研究編

I 研究の概要

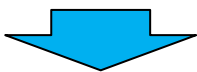
1 研究主題設定の理由とその背景

(1) 法令等の整備

- 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進(H24)
- ・同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備するために特別支援教育を推進することが必要である。
- 新学習指導要領の公示(H29. 3)
- ・全ての教科等の、「指導計画の作成と内容の取扱い」において、「障害のある児童（生徒）などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。」と明記。

(2) 特別支援教育に係る県の状況

- 特別支援学級の設置の促進（小：80.6% 中：75.2% H29.5.1 現在）
- ・特別支援学級の設置増加に伴い新担当者が増加している。
- ・市町村、学校内における事情で臨時的任用教員の担当者も依然として多い。市によっては半数以上の特別支援学級の担当者が経験3年未満及び臨時的任用教員の担当者となっている所もある。
- 指導者の不足
- ・ベテラン層の大量退職の影響もあり、特別支援教育に精通している教員や、「特別的教育課程」を作成したことがある教員が少なく、校内に相談ができる人がいない状況がある。
- ・管理職や市町村教育委員会指導主事が適切な指導助言を与えながら、特別支援学級担当者が学級経営をしているが、専門性の向上が難しいという現状がある。



- 特別支援学級新担当者の研修及び、初めて特別支援学級担任をする臨時的任用教員への研修の実施
- 特別支援教育推進専門員による巡回指導・支援
- 管理職等への特別支援教育に関する理解啓発・研修の実施

2 研究の目的

本研究の目的は以下の2点である。

特別支援学級の担当者等が「特別的教育課程」を理解し、その編成に資するために、

- (1) 特別支援学級の「特別的教育課程」編成上の課題等を整理する。

- (2) 整理した課題等をもとに、特別支援学級の教育課程編成のための手順やポイントを知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級に絞って「ハンドブック」にまとめ、それを広く教員等に発信する。

3 研究の方法

(1) 先行研究の収集・分析

○竹林地毅（2014）「小学校特別支援学級担任者の専門性向上に関する調査」

・特別支援学級担任になったらすぐに必要な研修

特別支援学級の教育課程の編成…70.1%	実態把握・アセスメント…51.9%
障害のある児童生徒の理解…69.3%	年間指導計画の作成…51.1%
授業作り…68.8%	個別の教育支援計画の作成と活用…49.8%
個別の指導計画の作成と活用 56.3%	

○全国特別支援学級設置学校長協会調査部（平成 23 年度）

・特別支援学級担当は教職経験 30 年目の教員が一番多く、平均すると 24.8 年である。

・特別支援学級を担当した経験年数は 2～3 年の教員が全国的には多く配置されている。

○特総研「特別支援学校及び特別支援学級の教育課程の編成に関する研究」（平成 26 年）

・小学校・中学校学習指導要領を踏まえた上で、「特別支援学校学習指導要領に定める事項を取り入れた教育課程を編成することができる。」と理解することが重要である。

・学級担任の専門性の確保・向上・維持、障害の程度や学年等が異なる児童生徒を対象とする特別支援学級の教育課程編成の在り方、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する知的な遅れのない児童生徒を対象とする教育課程編成の在り方が課題である。

・校内の指導体制整備、障害種に対応した専門性をどう担保するかが喫緊の課題と考えられる。このことから、特別支援学級について理解啓発を進めること、当該の児童生徒に対する適切な指導、支援を学校全体・教師全員の課題ととらえることが重要である。

(2) 市町村教委等への聞き取り調査より

各地区内で無作為に抽出した市町教委等の特別支援教育担当指導主事に、特別支援学級の教育課程編成に係る課題等を伺ったところ、以下のようなキーワードが浮かび上がった。

課題と感ずる事柄のキーワード

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| ・適切な障害種の特別支援学級への入級 | ・昨年度と同様の教育課程の編成 |
| ・複数名在籍しているのに皆同じ教育課程 | ・保護者の願いと子供の実態の差異 |
| ・臨時的任用教員や経験の少ない担当の増加 | ・自立活動、生活単元学習の理解不足 |
| ・知識や理解のある管理職の存在 | ・高校受験をする子の評価方法 |
| ・相談できる人の存在 | ・年度替わりでの担任間の引継 |
| ・合理的配慮 | ・参考資料の見つけ方 |
| ・実態把握に基づく目標設定、個別の指導計画の作成 | |

どの市町でも、教育課程作成にかかる課題があり、研修会を行ったり、専門員を派遣したりする

等の様々な工夫を実施しているものの、苦慮している様子が伺えた。

(3) 特別支援学級新担当者アンケートより

総合教育センターで実施する特別支援学級新担当教員研修会の受講者183名に、アンケートで特別支援学級の教育課程編成に係る課題や悩み等を抽出したところ、以下のようなキーワードが浮かび上がった。

課題や悩みのキーワード

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| ・時間割の作成 | ・系統立てた年間指導計画 |
| ・個別の指導計画の作成 | ・実態把握の仕方 |
| ・個人差がある中での一斉指導 | ・ステップアップするタイミング |
| ・卒業までにどこまで学習を進めるかの見通し | ・交流学級とのかかわり方 |
| ・行事への参加の仕方 | ・合同学習の進め方 |
| ・中学校への接続の仕方 | ・学び合いのさせ方 |
| ・自立活動、生活単元学習、作業学習の計画、活動の進め方 | |

新担当者については、1年間の見通しをもつこともそうであるが、一日一日をどうすればよいか模索している状況であり、道しるべとなるものが早急に必要であることが分かった。

(4) 「特別支援学級ハンドブック」を作成し広く教員等に発信

この「特別支援学級ハンドブック」は、初めて特別支援学級を担当する教員が「特別的教育課程」を作成する際に参考となるように、可能な限り具体的に示すように作成した。作成に当たっての研究の全体像を図式化して下に示す。

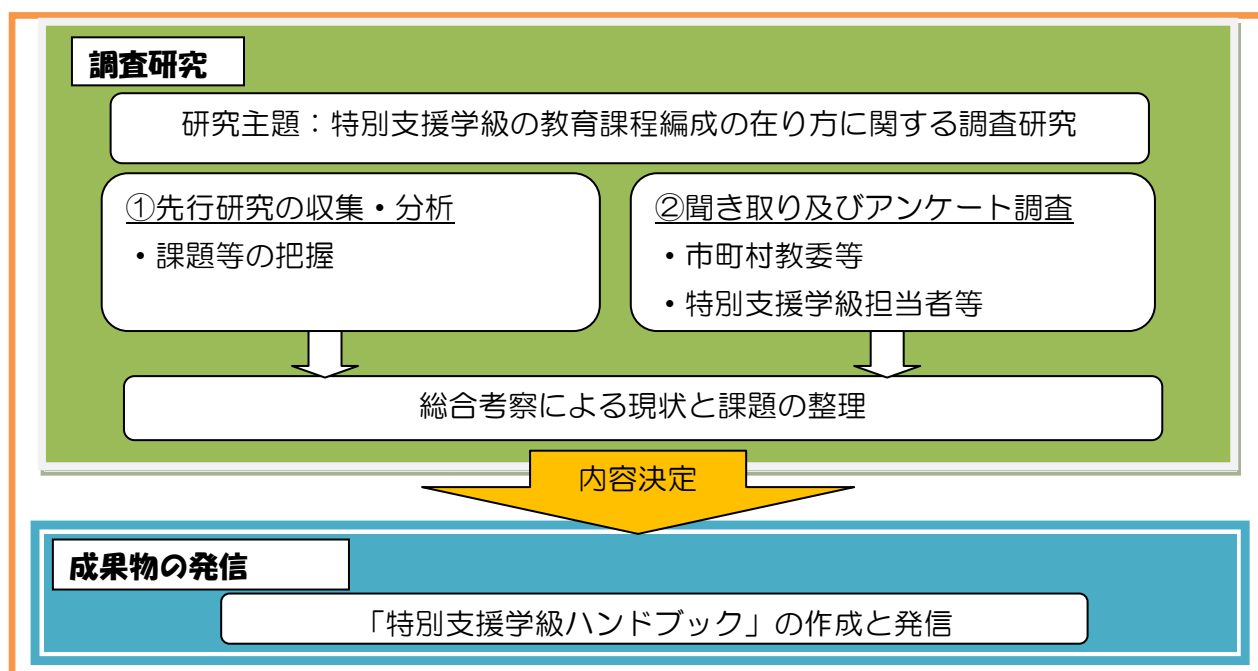


図1 本研究の全体像

Ⅱ

これは知っておこう

「Ⅱ これは知っておこう」では理論、「Ⅲ 初めての特別支援学級担当の先生へ」では実例が載せてあります。興味のあるところからお読みください。また、各パートの冒頭にポイントを示してあるので、それを参考に自校の教育課程編成や授業計画に役立ててください。

Ⅱ これは知っておこう

1 特別支援学級にかかわる法令等

特別支援学級は、少人数での学級編制などが認められている。また、基本的には、小学校・中学校の学習指導要領に沿って教育が行われるが、児童生徒の実態に応じて、特別支援学校の学習指導要領を参考として特別の教育課程を編成することも認められている。ここでは、特別支援学級について理解するために（１）～（４）について、法令に基づき説明する。

（１）小学校及び中学校に置かれた特別支援学級及び標準人数

・どんな学級があるの？ ⇒知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、自閉症・情緒障害の学級がある。

・学級編制の標準人数は？ ⇒８人。

（＊詳細は学校教育法第８１条第２項、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第３条第２項を参照）

（２）特別の教育課程とは

特別支援学級は、小・中学校に設置された学級なので、基本的には小・中学校の学習指導要領に沿って教育が行われる。しかし、障害の状態などに応じて「特別の教育課程」を編成することが可能である。

「特別の教育課程」は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考とし、以下のよう編成することができる（詳細は P.10 (3)特別の教育課程の内容を参照）。

- 「自立活動」を取り入れる
- 各教科の目標・内容を下学年の教科の目標・内容に替える
- 各教科を**特別支援学校（知的障害）の各教科・領域**に替える

＊特別支援学校の小学部（知的障害のある児童を教育する場合）は、生活、国語、算数、音楽、図画工作及び体育といった各教科を、特別支援学校の中学部（知的障害のある生徒を教育する場合）は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭といった各教科を、独自の目標・内容で構成している（＊学校教育法施行規則 126 条、127 条を参照）。

さらに、知的発達が未分化な児童生徒には、各教科等を合わせた指導である「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」を取り入れると効果的な場合がある（詳細は学校教育法施行規則第 138 条、P.10 「(3)特別の教育課程の内容」を参照）。

なお、「特別の教育課程」を編成する場合には次に掲げるものを教育委員会に届けることとしている（各市町村教育委員会の小・中学校管理規則）。

- 特別支援学級の教育目標及び指導の重点
- 学級編制、年間授業日数、日課表
- 児童生徒の障害の状況等、年間指導計画、個別の指導計画

＊特別の教育課程の編成の流れについては、P.8「(1)特別の教育課程編成の流れ」を参照。

(3) 教科用図書の使用

「特別の教育課程」を編成している特別支援学級では、児童生徒の実態から文部科学省検定済教科書を使用して学習を行うことが適当でない場合、他の適切な教科用図書を使用できることとなっている（学校教育法附則第9条、学校教育法施行規則第139条）。

教科用図書の採択について、ポイントをまとめると次のようになる。

- ①各教科の文部科学省検定済教科書の中から該当学年のものを選定
 - ②各教科の文部科学省検定済教科書の中から下学年のものを選定
 - ③文部科学省著作教科書（国語、算数・数学、音楽）の中から選定
（いわゆる^{ほしぼん}☆本）
 - ④上記①～③までの中で適当なものがない場合、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書（絵本等の一般図書）の中から選定
- *③、④は知的障害特別支援学級のみ

(4) 交流及び共同学習（共生社会の流れも含む）

特別支援学校や特別支援学級の児童生徒と、通常の学級の児童生徒や地域社会の人たちが、学校教育の一環として活動をとをすることを交流及び共同学習と呼んでいる。以下に挙げる法令のとおり、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が活動を共にする機会を積極的に設けるよう示されている。

* 詳細は、障害者基本法第16条第3項、平成29年3月小学校学習指導要領第1章総則第5の2イ、平成29年3月中学校学習指導要領第1章総則第5の2イ、平成29年4月特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第1章総則第6節2（2）を参照

交流及び共同学習は、障害のある児童生徒の経験を広げ、社会性を養い、好ましい人間関係を育てる上で重要な役割を担っている。一方、障害のない児童生徒や地域の人々にとっても意義深いものである。例えば、障害のある児童生徒に対する違和感や偏見がなくなったり、思いやりの心が育ったり、人間の多面的な価値に気付いたりする機会となる。

交流及び共同学習の推進は、障害のある児童生徒の自立と社会参加を促進するとともに、社会を構成する様々な人々と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会となり、ひいては共生社会の形成に役立つものといえる。

相互の触れ合いを通じて豊かな人間性をはぐぐむことを目的とする「**交流**」の側面

教科等のねらいの達成を目的とする「**共同学習**」の側面

この2つの側面を分かちがたいものとしてとらえ、推進していく必要があります。

交流及び共同学習

障害のある児童生徒

- 社会で自立できる自信と力を育む
- ・社会性を養う
- ・経験が広がる……など

障害のない児童生徒

- 「心のバリアフリー」を育む
- ・思いやる心が育つ
- ・偏見がなくなる……など

共生社会

多様な在り方を相互に認めあえる全員参加型の社会

知的障害特別支援学級の教育とは・・・

知的障害のある児童生徒の一般的な特徴や学習上の特性、さらにはどのような過程をたどって社会自立していくのかを踏まえた指導が大切である。

知的障害のある児童生徒の特徴や学習上の特性から、言語や思考活動を中心として働きかける指導方法よりも、具体的な生活を中心に題材として取り上げ、実際の生活の流れの中で必要な生活経験を通して学習していくことが必要になる。

自閉症・情緒障害特別支援学級の教育とは・・・

自閉症・情緒障害のある児童生徒の教育に当たっては以下の指導が大切である。

- ① 日常生活習慣の形成
- ② 運動機能、感覚機能を高める指導
- ③ 言葉の内容を理解するための指導
- ④ 人とのかかわりを深める指導

等を、自立活動として教育課程の中心におく。

障害種別の教育
について簡単に
まとめました。



肢体不自由特別支援学級の 教育とは・・・

四肢及び体幹の運動機能障害により、正常な運動が妨げられ、学習上及び生活上に困難のある児童生徒のための学級である。したがって、自立活動が教育課程の中心となる。

通常の小学校・中学校の教育課程に準じて編成することが基本となるが、自立活動については、特別支援学校学習指導要領に示された内容から必要な項目を選定し、指導を行うことになる。

病弱・身体虚弱特別支援学級の 教育とは・・・

この学級では、体の健康だけでなく、児童生徒の心理に与える影響にも常に配慮して教育を行うことが大切である。入院している児童生徒については、前籍校に戻るが多いため、前籍校との心理的つながりを維持するためや退院後の学習を補完するために、連携協力が必要である。

弱視特別支援学級の教育とは・・・

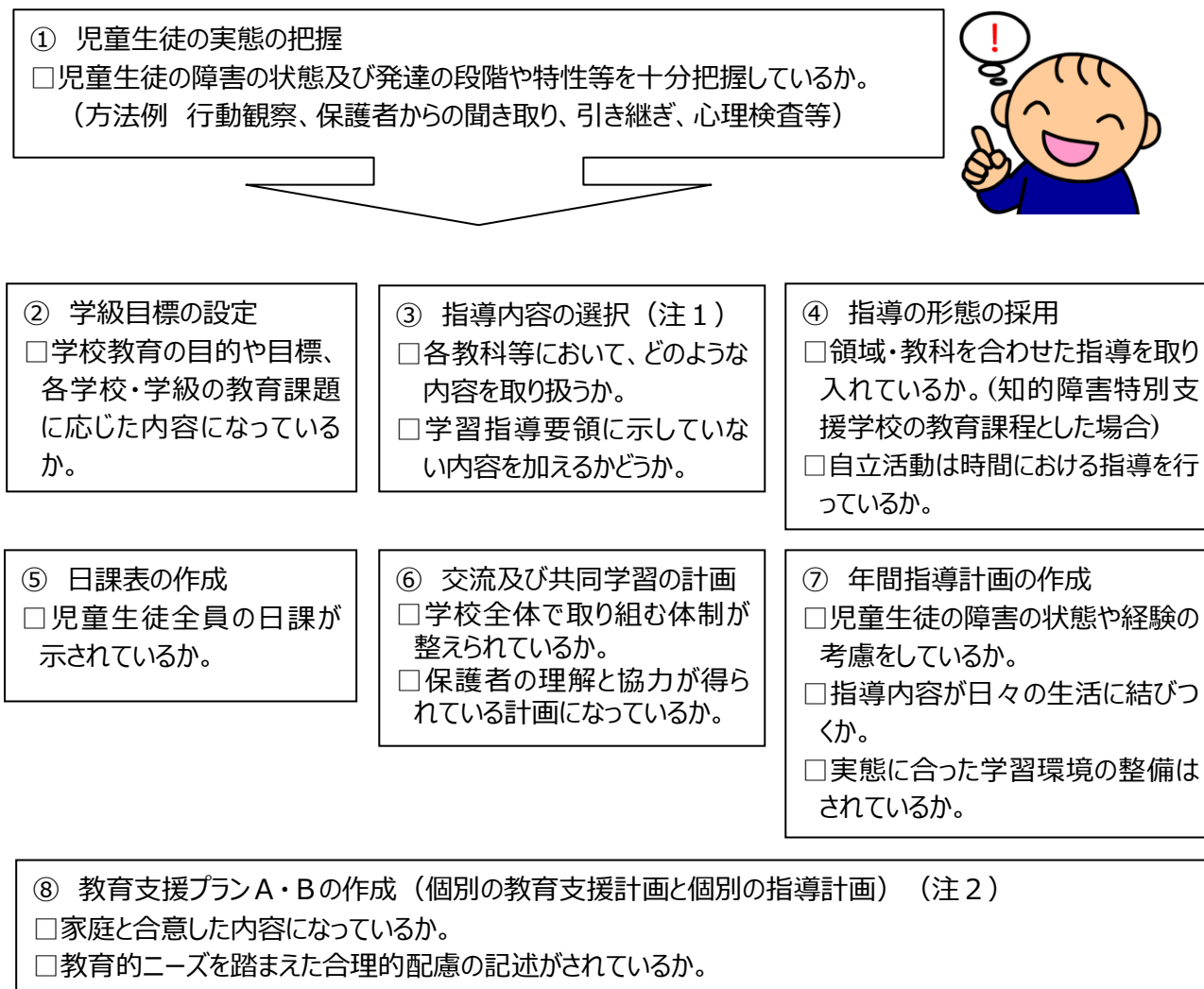
弱視のある児童生徒の見え方は様々であり、視力のほかに、視野の広さ、色覚障害の有無、眼振やまぶしさの有無などの影響を受ける。そのため、指導の効果を高めるためには、一人一人に適した大きさの文字や図の拡大教材や各種の弱視レンズ、拡大読書器などの視覚補助具を活用したり、机や書見台、照明器具等を工夫して見やすい環境を整えたりすることが大切である。

知的障害及び知的障害を併せ有する児童生徒については、教科を知的障害特別支援学校学習指導要領の各教科に替えて教育課程を編成することができる。

2 特別の教育課程の基本

(1) 特別の教育課程編成の流れ

特別の教育課程を編成する場合は、特別支援学校の小・中学部の学習指導要領を参考とし、実情にあった教育課程を編成する。特別の教育課程を編成する場合も、学校教育法に定める小・中学校の目的及び目標を達成するものでなければならない。そこで配慮事項等を中心にまとめた。



* 注1：知的障害特別支援学級では、特別の教育課程を組む場合、各教科、道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。

* 注2：個別の教育支援計画（教育支援プランA）は、家庭及び地域や医療、福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で幼児児童生徒への教育的支援を行うために作成する。個別の指導計画（教育支援プランB）は、各教科等の指導に当たって、個々の児童生徒の実態を的確に把握し、作成する。また、個別の指導計画に基づいて行われた学習の状況や結果を適切に評価し、指導の改善に努める。

(2) 特別の教育課程の評価

児童生徒のよい点や可能性、発達の様子などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにする。

(3)特別の教育課程の内容

各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部又は一部を合わせて指導を行う場合には、各教科、道徳、特別活動及び自立活動に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。なお、小・中学校の各教科と知的障害特別支援学校の各教科では「生活」のように同様の名称のものが多いが、内容及び示し方が異なることに留意する。また、各教科や領域等の内容の全てを扱わなければならないものではないことにも留意する。

教科別の指導

※知的障害のある児童生徒に実施

教科別に各教科の基礎的・基本的な内容を系統的、継続的に指導する指導の形態である。一般的に知的系統的要素の教科として、国語・算数（小）・数学（中）の学習があり、技術的要素の教科として、音楽、図工（小）・美術（中）、体育（小）・保健体育（中）等の学習がある。また生活的要素の教科として生活（小）、社会（中）、理科（中）、家庭（中）等の学習がある。



指導上の留意点

- ・児童生徒の実態等に即した指導内容を選択・組織する。
- ・児童生徒の生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え、生活に即した活動を十分に取り入れつつ段階的に指導する。
- ・児童生徒が習得したことを実際の生活に役立てるようにする。
- ・できる限り児童生徒の成功体験を豊富にするとともに、自発的・自主的な活動を大切にし、主体的活動を促す。
- ・他の教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動との関連、また、各教科等を合わせて指導を行う場合との関連を図る。

領域・教科を合わせた指導「日常生活の指導」

※知的障害のある児童生徒に実施

「児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するもの」である。日常生活の指導は、教科別の指導の生活の内容だけでなく、広範囲に、各教科等の内容が扱われる。例えば、衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など基本的生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ることなどの日常生活や社会生活において必要で基本的な内容である。



指導上の留意点

- ・日常生活の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で行う。
- ・毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図るものであり、くり返しながら、発展的に取り組む。
- ・できつつあることや意欲的な面を考慮し、適切な援助と段階的な指導ができるものを扱う。
- ・指導場面や集団の大きさ等、活動の特徴を踏まえ、個々の実態に則した効果的な指導ができるように計画する。

領域・教科を合わせた指導「遊びの指導」

※知的障害のある児童生徒に実施

「遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動をはぐみ、心身の発達を促していくもの」である。

遊びの指導は、生活の内容をはじめ、各教科等に関わる広範囲の内容が扱われ、場や遊具等が限定されることなく、児童が比較的自由に取り組むものから、期間や時間設定、題材や集団構成等に一定の条件を設定し活動するといった比較的制約性が高い遊びまで連続的に設定される。また、遊びの指導の成果が各教科別の指導等につながることもある。



指導上の留意点

- ・児童が積極的に遊ぼうとする環境を設定する。
- ・教師と児童、児童同士のかかわりを促すことができるよう、場の設定、教師の対応、遊具等を工夫する。
- ・身体活動が活発に展開できる遊びを多く取り入れるようにする。
- ・遊びをできる限り制限することなく、児童の健康面や衛生面に配慮しつつ、安全に遊べる場や遊具を設定する。
- ・自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びを促したり、遊びに誘ったりして、色々な遊びを体験できるようにして、遊びの楽しさを味わわせるようにする。

領域・教科を合わせた指導「生活単元学習」

※知的障害のある児童生徒に実施

「児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するもの」である。

生活単元学習では広範囲に各教科等の内容が扱われる。単元設定は学校行事、季節の行事、学校生活、社会生活、生活上の偶発的な事柄などをもとに設定する。学習活動は、生活的な目標や課題に沿って組織されることが大切である。



指導上の留意点

- ・単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
- ・単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであること。
- ・単元は児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動をも含んだものであること。
- ・単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるものであること。
- ・単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
- ・単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるよう計画されていること。

領域・教科を合わせた指導「作業学習」

※知的障害のある児童生徒に実施

「作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するもの」である。

作業学習の指導は、単に職業・家庭科の内容だけではなく、各教科等の広範囲の内容が扱われる。例えば、技術・家庭科や美術科などの内容を取り入れながら、園芸栽培や紙工芸、木工芸といった作業活動を、生徒の実態に応じて作業工程を整理して展開することが考えられる。特に、中学校の場合は、生徒が働いている自己の将来像を、肯定的にイメージできるようにするなど、進路指導と関連付けて取り組むことが大切である。

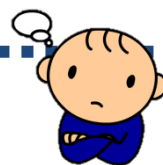


指導上の留意点

- ・生徒にとって教育的価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む喜びや完成の成就感が味わえること。
- ・地域性に立脚した特色をもつとともに、原料・材料が入手しやすく、持続性のある作業種を選定すること。
- ・生徒の実態に応じた段階的な指導ができるものであること。
- ・知的障害の状態等が多様な生徒が、共同で取り組める作業活動を含んでいること。
- ・作業内容や作業場所が安全で、衛生的、健康的であり、作業量や作業の形態、実習期間などに適切な配慮がなされていること。
- ・作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への流れが理解されやすいものであること。

自

閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程の編成は、原則的には小学校又は中学校の学習指導要領によることになります。しかし、学級の実態や児童生徒の障害の状態等を考慮の上で必要である場合、知的障害特別支援学級の教育課程に合わせて、各教科の目標・内容を踏まえながら合科的な授業を行う等の工夫が可能となっています。加えて道徳、特別活動及び自立活動を合わせて行うことのできる特例も規定（学校教育法施行規則 130 条 2）されています。個々の児童生徒の実態に即し、領域・教科を合わせた指導や教科別の指導を生活との結びつきを大切にしながら行っていくことが重要です。



領域別の指導「自立活動」

※障害のある児童生徒すべてに実施

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基礎を培う。



指導上の留意点

- ・個々の児童生徒の障害の実態等に応じて内容を設定する。(全てを扱うものではない)
- ・「自立活動」の授業時間を特設して行う指導と、各教科等（教育活動全体）の中で行う指導との関連を図りながら指導する。
- ・自立活動の指導計画は個別に作成されることが基本であり、最初から集団で指導することを前提とするものではない点に十分留意する。

＜自立活動の指導内容＞ 6 区分 2 6 項目

1 健康の保持	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること。 (3)身体各部の状態の理解と養護に関すること。 (4)健康状態の維持・改善に関すること。
2 心理的な安定	(1)情緒の安定に関すること。 (2)状況の理解と変化への対応に関すること。 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。
3 人間関係の形成	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること。 (2)他者の意図や感情の理解に関すること。 (3)自己の理解と行動の調整に関すること。 (4)集団への参加の基礎に関すること。
4 環境の把握	(1)保有する感覚の活用に関すること。 (2)感覚や認知の特性への対応に関すること。 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。
5 身体の動き	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 (3)日常生活に必要な基本動作に関すること。 (4)身体の移動能力に関すること。 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
6 コミュニケーション	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2)言語の需要と表出に関すること。 (3)言語の形成と活用に関すること。 (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること。

※新学習指導要領（平成29年4月）では「6区分27項目」となり、以下の部分が変更となる。

① 「1 健康の保持」の(4)が、「障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。」に変更。それに伴い(4)の「健康状態の維持・改善に関すること。」が(5)に変更。

② 線部分の文言が追加。

「4 環境の把握」の「(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。」

「(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。」

3 特別支援教育コーディネーターの役割

本県では、公立の特別支援学校はもちろん、幼稚園、小・中・高等学校すべての校種において、特別支援教育コーディネーターの指名率及び校内委員会設置率が共に100%となっています。これからは、整備された校内支援体制を活用し、実際の支援を進めていくことが求められます。

校内委員会では、特別な支援を必要とする児童生徒について、早期に気付き、実態把握を行い、今後の適切な指導と必要な支援について検討します。教職員間の共通理解のもと、協力して対応できるように校内の支援体制を整えていきます。その際、対象の児童生徒への個別的な対応のみを考えるのではなく、いじめや不登校、学級崩壊等の課題も含め、学級経営や生活指導の在り方について、教職員が一人で悩んだり抱え込んだりしないように具体的な支援について検討していくことが大切です。校内委員会をはじめ、校内支援体制の構築・充実の中核を担うのが特別支援教育コーディネーターです。

コーディネーターの仕事ってどんな仕事があるの？

①校内

- ◇校内委員会のための情報の収集・準備
- ◇保護者との相談窓口
- ◇担任への支援
- ◇校内研修の企画・運営

②外部の関係機関との連絡調整等

- ◇関係機関の情報収集
- ◇専門機関等への相談をする際の情報収集と連絡調整
- ◇専門家チーム、巡回相談員との連携

③小・中学校等への支援

幼稚園
小学校
中学校
高等学校
特別支援学校

特別支援学校



☆特別支援教育コーディネーターに求められる資質・技能

ア「コーディネーションの力」 (組織調整)	・学校内外の資源と子供の教育的ニーズを結びつける。
イ「コンサルテーションの力」 (助言)	・保護者や担任へのアドバイスや指導法について提案や助言等をする。
ウ「ファシリテーションの力」 (促進)	・必要な連絡調整を行い、校内の教員等の力を集めて、指導支援の取組を促進する。
エ「ネットワーキングの力」 (つながりを作る)	・地域の各種資源との間にネットワークを構築する。
オ「カウンセリングの力」 (悩みを持った人の相談・援助)	・保護者や担任への相談の窓口としての役割を担う。
カ「アセスメントの力」 (評価・計画の過程)	・子供と子供を取り巻く環境を含めて、問題の実態を把握し支援を組み立てる。

特別支援教育コーディネーターの 1 年（例）
（担任との連携・就学相談に関する連携）

	校内支援体制	本人・保護者支援	関係機関との連携 (管理職を通して連携)
1 学期	コーディネーターの指名 特別支援教育年間計画の提案 校内委員会の設置 実態把握 (『わたしたちにきづいて』： スクリーニング表) (『ほんとうのわたしを見つけて Version2』) 校内委員会の実施 ・実態把握の結果について ・特別な教育的ニーズのある 児童生徒の確認 ・個別の指導計画の作成 <u>巡回相談の申し込み・実施</u>	引継ぎ資料（個別の教育支 援計画・個別の指導計画）の 確認・整理 保護者への啓発 PTA 総会・懇談会等で特別な 教育的ニーズのある児童生徒 への支援体制の説明 特別な教育的ニーズのある 児童生徒の情報収集 ・学校生活の記録 ・保護者面談 ・資料の作成・整理 ・保護者・本人の面談等	地域の特別支援学校の コーディネーター・関 係機関の担当者の確 認 保幼小・小中連絡会 （1 年生について） 特別支援学校のコーデ イネーターとの打ち合わ せ・相談 スクールカウンセラーの 活用
夏休み	職員研修会の実施 （発達障害について等） 外部講師の招聘 各種研修会に参加	担任・本人への支援：全職員で	
2 学期	巡回相談の申し込み・実施 校内委員会の実施 ・個別の指導計画の評価・修正 ・巡回相談の結果報告・相談	保護者懇談会	外部機関との連携 ・特別支援学校 ・子育て支援室 ・医療機関 ・福祉機関 等
3 学期	校内委員会の実施 ・本年度の活動のまとめ ・個別の指導計画等の評価・提 示の仕方について ・次年度年間計画の作成・検討	引継ぎ資料の作成・確認・保管	保幼小・小中連絡会 （次年度新入生につ いて）

特別支援教育課ホームページ

・「わたしたちにきづいて」

<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2212/hattatu-siryuu/904-20091216-101.html>

県立総合教育センターホームページ

・「ほんとうのわたしを見つけて Ver. 2」

http://www.center.spec.ed.jp/?page_id=209

4 特別支援学校のセンター的機能の活用

特別支援学校では、地域におけるセンター的機能の役割（特別支援教育に関わる相談・支援の役割）を果たしています。

小・中学校において、初めて特別支援教育コーディネーターに任命されたとき、どこに相談しながら校内支援を進めていけばよいのか、悩む方も多いのではないのでしょうか。ぜひ、学区の特別支援学校のセンター的機能を活用し、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと連携を深めながら、校内における特別支援教育を推進してください。

センター的機能って？
特別支援学校に、どんな相談ができるの？



①小・中・高等学校等への支援

- ・通常の学級に在籍する児童生徒についての要請による相談（巡回相談）
＜行動観察とカンファレンス＞
児童生徒の実態把握をし、先生方との支援会議により、具体的な支援策を探ります。
「個」の相談をきっかけに、学級全体に対する支援について発展することもあります。
- ・特別支援学級に在籍する児童生徒についての相談
（行動観察とカンファレンス 授業づくりにおけるアドバイス）
- ・教材や教具の貸し出し
- ・医療、療育センター、保健、福祉、進路など他機関の紹介
- ・障害理解のための出前授業
- ・自立活動・進路など特別支援学校の紹介

②小・中・高等学校等に対する研修協力

- ・発達障害の理解と支援
- ・個別の指導計画の理解と作成について
- ・事例検討会
- ・ユニバーサルデザインの授業作り
- ・特別支援教育授業研究への支援

③その他

- ・保護者や当事者からの相談や、啓発のための公開講座も行っています。
- ・それぞれの特別支援学校において、地域の特徴に合わせながらセンター的機能に取り組んでいます。
- ・各校とも、常時情報発信しているので、まずは連絡をとってみることをおすすめします。

☆特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの立場から



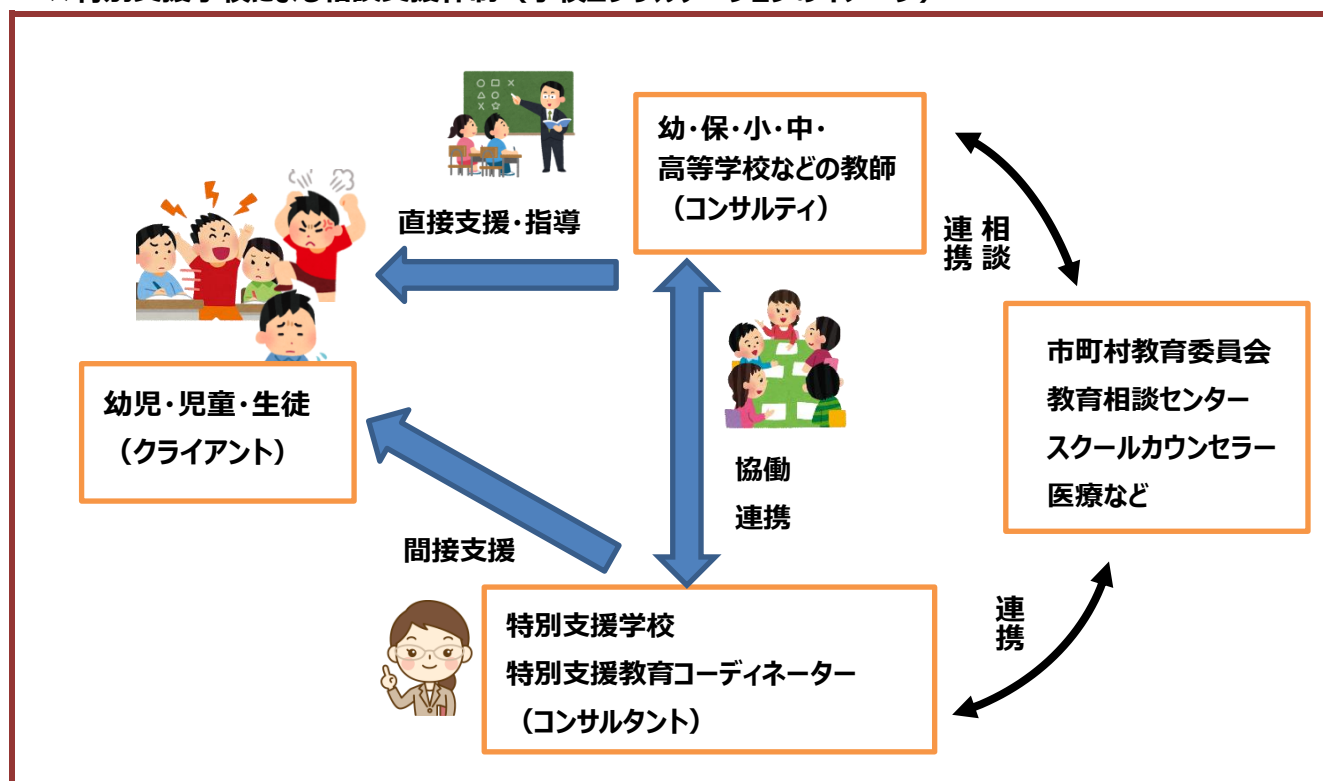
特別支援学校による近隣の小・中・高等学校への支援は以前から行われていましたが、平成19年4月の改正学校教育法の施行に当たり、平成19年4月1日付け文部科学省初等中等教育局長名による「特別支援教育の推進について（通知）」を機に、特別支援学校の「地域における特別支援教育のセンター的機能」の位置付けが明確になりました。

特別支援教育コーディネーターを担当した当初は、「個に対する相談」に個別に対応することや、「発達障害理解」のための教員研修を実施することなどが中心という印象でした。どちらかと言うと、「特別支援教育専門の先生による助言」というとらえられ方が主だったようです。

現在は「学校コンサルテーション」の考え方をもとに、違う立場の専門家同士（児童・生徒を直接支援する専門家である小・中・高等学校の教師と特別支援教育の専門家である特別支援学校の教師）が協働で問題を解決していくという視点に立って相談支援も行っています。相談のきっかけは「個への支援」であっても、それを学校主体で組織的に取り組んでいただくことにより、学校全体の特別支援教育の推進につなげていくことを目指しています。

また、市町村教育委員会や相談センター・医療などの他機関とも連携しながら相談を進めています。

☆特別支援学校による相談支援体制（学校コンサルテーションのイメージ）



第2章 実務編

Ⅲ

初めての 特別支援学級担当の 先生へ

A large, symmetrical decorative flourish in a dark brown color, resembling stylized leaves or scrolls, framing the central text.

実務編は平成21年度に示された学習指導要領に則り、具体的な事例をあげて作成されています。特に注目して欲しいポイントとなる部分は吹き出しや注などで示しています。

1 特別支援学級の一年間（例）

通常の学級の一年とは異なるところがたくさんあります。教育支援プラン A・B の作成・評価・見直しや交流の計画が入ることが特徴です。

学期	月	主な学級経営	校内啓発 職員会議（☆） 校内研修（○）
一学期	4	☐ 引き継いだ教育支援プラン A・B 等文書の確認 ☐ 出席簿・指導要録の作成 ☐ 時間割の作成及び交流学級担任との情報共有（交流の計画） ☐ 全職員との共通理解 ☐ 教室環境整備 ☐ 始業式及び入学式の参加の仕方について確認 ☐ 学級経営案の作成 ☐ 引き継いだ教育課程の見直し ☐ 年間指導計画の作成 ☐ 保健関係書類の作成 ☐ 授業参観・懇談会の計画 ☐ 家庭訪問の計画	☆特別支援学級の児童生徒の配慮事項について ○講義：支援プラン AB について
	5	☐ 保護者面談を踏まえて教育支援プラン A・B の修正	
	6	☐ プール指導の準備 ☐ 校外学習の事前指導や参加の仕方の確認	○事例検討
	7	☐ 通知表の記入 ☐ 教育支援プラン B の 1 学期評価・見直し ☐ 夏休みの課題の作成	
	夏休み	☐ 教育支援プラン B の 2 学期の作成	○講義：実態に合わせた指導について
二学期	9	☐ 運動会・体育祭の参加の仕方の確認 ※	
	10	☐ 社会科見学、修学旅行等学校行事の事前指導や参加の仕方の確認 ※	
	11	☐ 次年度に向けた個人面談① ☐ 特別支援学校高等部入学選考志望者のまとめと報告(中学校)	○研究授業
	12	☐ 通知表の記入 ☐ 教育支援プラン B の 2 学期評価・見直し ☐ 冬休みの課題の作成 ☐ 教育支援プラン B の 3 学期作成	
三学期	1	☐ 卒業式の参加の仕方について確認	
	2	☐ 次年度に向けた個人面談②	○事例検討
	3	☐ 通知表の記入 ☐ 教育支援プラン B の 3 学期評価・見直し ☐ 指導要録の記入 ☐ 次年度に向けた教育支援プラン A・B の作成 ☐ 次年度に向けた教育課程の作成 ☐ 次年度に向けた引継ぎ資料等の準備 ☐ 新入生の受け入れ準備	☆次年度に向けて、特別支援学級の児童生徒の様子について

* 行事関係（※）は、各学校における行事の実施時期に応じて確認の時期も考えましょう。

* 小・中学校交流会、合同作品展、学習発表会及び卒業生を送るつどい等、各地域により学校間の特別支援学級に関わる行事が入ってくると思われます。他校との連携を密にしながら、見通しを持って取り組んでいきましょう。

* 校内啓発の職員会議や校内研修の内容は、参考例です。年間を通して、定期的に特別支援教育に関する内容の通信を発行したり、掲示物で特別支援学級の活動を紹介したりするなどして、共通理解を図ることも大切です。

2 教育課程編成の実際について

ここからは、小・中学校の知的障害及び自閉症・情緒障害特別支援学級で実際に編成されている教育課程の一例を紹介します。書式と項目の違いは、各市町村ごとで様式が異なることによるものです。

(1) 小学校

①知的障害特別支援学級



・知的障害のある児童を教育する場合において、特に必要がある時は、各教科等を合わせて授業を行うことができます。（22ページの日課表の中では、「日常生活の指導」や「生活単元（生活単元学習）」がそれに当たります。）

学校及び児童の実態

本学級には、3名（男子2名、女子1名）の児童が在籍している。穏やかな児童が多い。高学年の児童が優しく下級生の児童の手助けができる。

人とのコミュニケーションに関して、児童によっては、ことばのやりとりをやや苦手とする場面も見られるが、本人なりに楽しみながら生活を送っている様子が伺える。

学習に関しては、基本的に現学年の教科書の内容で取り組みそうな単元は、その児童に合った方法で取り組んだり、学級共通の課題として体験的な学習を伴う活動に取り組んだりしている。高学年の児童を中心に学習場面での規律（返事、話の聞き方、答え方等）が身に付いてきており、落ち着いた学習活動ができています。

特別支援学級の教育課程

学校名 〇〇市立〇〇小学校

障害種別 知的障害特別支援学級

1 教育目標

(1) 学校教育目標

- ・かしこく
- ・やさしく
- ・たくましく

(2) 学級教育目標

- ・努力しよう
- ・協力しよう
- ・体力を高めよう

2 教育課程の編成

(1) 編成の基本方針

本学級の児童は、物事の理解に具体的な活動を必要とすることが多く、経験を積むことにより学んだことを生活に生かしていくことができる。また、体験活動を通して見通しを持ち、より主体的に生活していくことができるようになる。このような実態を踏まえ、教科別の指導、領域別の指導、領域・教科を合わせた指導を密接に関連付け、教育課程を編成していくことが大切になる。また、それぞれの指導については、系統性、発展性を考慮するとともに、個々の児童に応じた具体的な指導内容を設定する。

(2) 指導の重点

- ・個々の課題を明確にし、教材教具の工夫に努めるとともに、頑張りを正しく認めることで達成感を味わわせる。
- ・基本的生活習慣の確立をめざし、社会で自立していくための基礎づくりを進める。
- ・一対一から小集団へとコミュニケーションの輪を広げる。場を意図的に大きくする。
- ・交流学习の場面を通して、集団への適応を図り、社会性を育てる。
- ・家庭や医療機関、療育機関との連携を密にし、共通理解のもとで指導にあたる。

3 学級編制

学 級 名		児 童 生 徒 数								
〇〇学級		男	2 名 (名)		女	1 名 (名)		計	3 名 (名)	
担任者 氏 名			本・臨採 の別	本・臨		在職 年数	教職 () 特支 () 教職 () 特支 ()			

*児童生徒数欄の()は、通常の学級に在籍していながら、この学級でも指導を受ける児童生徒(通級による指導を受けている)がいる場合に、その数を記入する。

〔備考〕 編制上の配慮事項等

4 年間授業時数 (1年生の例)

日常生活の指導		170	時間
生活単元学習		102	時間
教科別の指導	国語	102	時間
	算数	102	時間
	生活	68	時間
	音楽	68	時間
	図工	68	時間
	体育	102	時間
領域別	自立活動	68	時間
年間授業時数		850	時間

5 日課表

(1) 基本方針

- ・一日の活動に見通しがもてるよう、日課表をできるだけ带状に近い形で組む。
- ・交流学級の授業に参加している児童については、交流学級担任と打ち合わせを行い、本学級での教科の時数に偏りがないよう配慮する。
- ・道徳については、領域・教科を合わせた指導や学校生活全般の具体的な場面において指導する。
- ・学習は、学級全体での学習又は個別による学習の形態で指導する。

ポイント！

(2) 日課表（1年生の例）

	月	火	水	木	金
1 8:45～9:30	日常生活の指導(朝の会)				
2 9:40～10:25	国語	国語	国語	音楽 ★交流	自立活動
3 10:45～11:30	算数	音楽 ★交流	算数	算数	生活単元
4 11:40～12:25	体育 ★交流	生活単元	体育 ★交流	生活単元	体育 ★交流
5 13:35～14:15	図工	図工	自立活動	生活 ★交流	生活 ★交流

教科、自立活動、生活単元学習の日課を带状に設定できると良いが、交流学習との関係を踏まえると、例のような日課になることもある。

6 年間指導計画（別紙参照）→P 2 3

7 個別の教育支援計画と個別の教育指導計画（別紙参照）→P 2 4～P 2 6

6 年間指導計画（平成〇〇年度 知的障害特別支援学級 1 年生 年間指導計画例）

項目/月		めあて	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
学級行事 学校行事		・生活経験を広め、社会参加の意欲や自立のための基礎的・基本的態度を養う。	・入学式、始業式 ・1年生迎える会 ・離任式 ・定期健康診断 ・交通安全教室 ・授業参観、懇談会	・家庭訪問 ・体力テスト ・6年生修学旅行 ・プール開き	・支援学級合同遠足	・個人面談 ・校内音楽会 ・校内硬筆展 ・授業参観、懇談会 ・1学期終了式	・2学期始業式 ・避難訓練 ・引き渡し訓練 ・運動会 ・身体測定	・支援学級合同遠足 ・資源回収	・休日授業参観 ・校内持久走大会	・授業参観、懇談会 ・大掃除 ・2学期終了式	・3学期始業式 ・校内書初め展 ・身体測定	・授業参観、懇談会 ・入学説明会 ・全校長縄大会	・6年生を送る会 ・卒業式、修了式					
領域・教科を合わせた指導	日常生活の指導	・楽しく明るい生活を営む態度を育てる。 ・学校生活全般を通して基本的な生活習慣を身に付けさせる。	○基本的な生活習慣（食事のマナー、偏食の軽減、衣服の着脱と整理、正しい排泄、身の回りの整理整頓） ○健康と安全（身体の清潔、衛生指導、風邪の予防、衣服の調節、交通安全、廊下歩行） ○規則正しい生活（係の仕事、清掃の仕方、給食当番の仕事、学習の準備、室内での遊び方） ○朝の会、帰りの会（あいさつ、健康観察、盾読み、今日の天気、今日の予定、明日への意欲づけ）															
	生活単元学習	・具体的な生活経験活動を通して見通しを持って生活する力や集団で生活する力を育てる。 ・理科、社会に関する興味・関心を引き出す。 ・生活的作業を通して進んで活動しようとする態度を育てる。	・ヨモギ団子を作ろう	・お弁当を作ろう	・合同遠足へ行こう	・カレーを作ろう ・お誕生会を開こう	・山登りに行こう	・合同遠足へ行こう	・みかん狩りに行こう	・ケーキを作ろう ・お誕生会を開こう	・劇の発表をしよう	・テーブルマナー教室	・お誕生会を開こう ・1年間の思い出をまとめよう					
			○年間を通して、天気や季節の生き物等に関して学ぶ ○年間を通して、学年の社会科見学に合わせてながら、簡単な学習を行っていく。 ■じゃがいもの収穫															
			 ●さつまいもの苗植え															
教科別の指導	国語	・日常生活に必要な言語の理解及び表現力を育成する。	▽短い詩の暗唱（口伝、視写）（年間を通して） ▽絵本の読み聞かせ（年間を通して） ▽ひらがな・カタカナをの学習（年間を通して）															
	算数	・日常生活に必要な数量や図形についての知識を身に付けさせる。	・自己紹介をしよう ・あいさつを覚えよう	・友達の名前を覚えよう	・硬筆展の練習をしよう	・硬筆展の練習を伝えよう	・思い出を言葉で伝えよう	・お手紙を書こう	・年賀状を書こう	・書初めをしよう	・劇の台詞を覚えて言えるようにしよう	・1年間の思い出を文に表そう						
	図工	・作品製作を通して表現する喜びや豊かな情操を育てる。	・物のやりとり ・簡単な分類遊び（食べる物、飲む物、着る物等）	・形や色のマッチング	・数唱(1～10) ・上下、左右、前後	・具体物と数のマッチング	・具体物と数のマッチング ・大小、長短、高低、広狭を比べる。	・半具体物と数のマッチング	・数の大小(多少) ・時計を読むも(〇時)	・数の合成分解(10まで)	・1桁＋1桁(繰り上がりなし)	・1桁－1桁(繰り下がりなし)	・数量について1年間のまとめをしよう					
領域別の指導	自立活動	・障害による学習上又は生活上困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を身に付けさせる。	健康の保持増進 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション ・基本的な生活習慣の確立（衣服の着脱、食事の仕方、トイレトレーニング） ・生活、学習のリズムを確立させる（帯状日課、授業及び場の構造化） ・見通しを持たせる ・ルールのある遊び、集団活動への参加、ソーシャルスキルトレーニング ・注視及び注聴を促す ・体力づくり(ランニング、なわとび、ダンス) ・指先の運動 ・場面に応じた話し方の習得 ・コミュニケーションゲーム															
	道徳	・豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成を目指す。	年間を通し、場を捉え、教育活動全体で取り組む。															
	特別活動	・学校、学級の一員として友達と仲良く活動しながら、生活を進んで楽しめるようにさせる。	・学校、学級生活への適応、基本的な生活習慣の育成、係活動、保健・安全指導、学校給食、学校図書館に関する指導を行う。 ・全校児童集会(縦割り班活動)、児童会の行事に参加する。 ・儀式をはじめ、学芸的、健康安全・体育的、勤労生産・奉仕的な行事及び遠足に参加する。															
交流及び共同学習	生活	・身近な人や物に関心を持たせる。 ・身近な自然に親しませる。	がっこうだいすき		なつだ あそぼう		いきものとなかよし		たのしいあきいっぱい		つくろうあそぼう		じぶんでできるよ		ふゆをたのしもう		もうすぐ2ねんせい	
	音楽	・音楽活動を通して表現する喜びや豊かな情操を育てる。	・校歌(歌) ・大きな歌(歌)	校内音楽会の練習	校内音楽会の練習	・キャンパドホイ(歌) ・かえるの合唱(器)	・運動会の歌(歌) ・秋の子(歌)	・秋の子(歌) ・線路は続くよどこまでも(器)	・もみじ(歌) ・パフ(器)	・ゆき(歌) ・生命のいぶき(器)	・お正月(歌) ・生命のいぶき(器)	・劇の歌(歌) ・生命のいぶき(器)	・卒業式の歌(歌)					
	体育	・よく見て真似をする力を伸ばす。 ・何事も頑張っており組もうとする意欲を育てる。 ・共に活動する気持ちを育てる。	▽基礎体力作り、短縄跳び(年間を通して) ・集合・並び方・遊具の使い方 ・集合・並び方・遊具の使い方 ・新体力テストにむけて ・水遊び(水中散歩、もぐりっこ等) ・運動会の練習 ・水遊び(水中散歩、もぐりっこ等) ・ホール遊び(投げ、捕る) ・吸盤キャッチ ・運動会の練習 ・ホール遊び(投げ、捕る) ・リレー遊び(いろいろなリレー) ・サーキット運動(歩、走、跳の色々な動き) ・ボール蹴り遊び(ドリブル、シュート、円陣パス) ・サーキット運動(歩、走、跳の色々な動き) ・集合・並び方・遊具の使い方 ・新体力テストにむけて ・集合・並び方・遊具の使い方 ・水遊び(水中散歩、もぐりっこ等) ・新体力テストにむけて															
			ラジオ体操						持久走大会に向けて			長縄跳び(長縄大会に向けて)						
学校行事等			全校朝会・児童集会・学年集会・縦割り集会・校外学習															

意図的に体験活動や地域とかかわることができる内容を入れると良い。

7 個別の教育支援計画と個別の指導計画

教育支援プランA（個別の教育支援計画）

ふりがな		性別	生年月日	取扱注意	
本人氏名	〇〇 〇〇	〇	平成〇年〇月〇日		
ふりがな		住所	〇〇市〇〇		
保護者氏名	〇〇 〇〇	TEL	〇〇〇—〇〇〇—〇〇〇〇		
対象期間	平成 年 月 日（ ）から平成 年 月 日（ ）まで3年間				
作成年度	学 校 名	校長名	学部・学年・組	記入者名	
1 平成〇年度	〇〇市立〇〇小学校	〇〇 〇〇		〇〇 〇〇	
2					
3					
特別な教育的ニーズ	児童は現在、①基本的な生活習慣（主に食事、排泄、衣服の着脱）で一部支援を要する。②活動開始までに時間を要する。といった状況にある。従って、①生活の中に意図的に基本的な生活習慣を必要とする場面を設定し、②失敗を気にせず取り組めるようにする等の支援が必要である。支援にあつては、①児童の模範能力を最大限に発揮させるために教師が正しい動きを意識的に見せる。動きのヒントになるような絵や写真を用意する。②楽しい雰囲気の中で本人のやる気を引き出す。等の配慮が必要である。				
（追加）					
本人・保護者の願い	・基本的な生活習慣を身に付けてほしい。 ・みんなと仲良く過ごしてほしい。				
合理的配慮の実施内容	排泄面での自立が定着するよう、洋式便座のあるトイレの近くに教室を整備する等、自主的に動ける環境を整備する。				
（追加）					
教育機関の支援	目標・機関名	支 援 内 容		評 価	
	所 属 校	・友達とかかわる力を身に付ける。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。		・個別の学習指導 ・保護者との連携を図る	特別支援学級の中では、友達とかかわり合いができてきた。好きなことでも時間で切り上げることができるようになってきた。
	（追加）				
	就学支援委員会の助言内容	市就学支援委員会		特別支援学級で個別の課題に沿って学習することが望ましい。	ゆっくりだが自分の課題に最後まで取り組もうとする姿勢が見受けられるようになった。
	（追加）				
	支援籍、交流及び共同学習				
関係機関の支援	機 関 名	支 援 内 容			
	医療・保健	〇〇病院	・半年に1回 定期検診 ・週に1回 発達教室参加		
	（追加）				
	福祉・労働	〇〇学童保育	・放課後から夕方までを学童で過ごす。		
	（追加）				
	家庭・地域				
本人のプロフィール	（追加）				
	障害の状況	ダウン症候群			
	これまでの支援内容	生育歴	P50「教育支援プラン A・B の作成・活用について」を参考に		
		療育歴			
		教育歴			
相談歴	田中ビネー検査【平成〇年〇月実施】IQ:〇〇				
その他					

教育支援プランB（個別の指導計画）

本人氏名	〇〇 〇〇	学校名	〇〇市立〇〇小学校	取扱注意
学部・学年・組	〇〇〇〇学級	記入者名	〇〇 〇〇	
指導方針	・見通しを持って一日の生活ができる。 ・基本的生活習慣を身に付けさせる。 ・学習規範を身に付けさせる。 ・いろいろな活動に楽しく参加できる。			
(追加)				
指導に結びつく実態				
1 健康の保持 (日常生活面、健康面など)	・衣服の着脱は始めの支援が必要。 ・食事はスプーンフォークを使用して食べることができる。 ・排泄（大）は拭き取りに支援を要する。			
(追加)				
2 心理的な安定 (情緒面、状況の理解など)	・手遊び等、人とかかわりながら遊ぶことができる。			
(追加)				
3 人間関係の形成 (人とかかわり、集団への参加など)	・人とかかわることが好きで、集団の中で活動することができる。			
(追加)				
4 環境の把握 (感覚の活用、認知面、学習面など)	・先生やお友達の名前を覚えることができる。			
(追加)				
5 身体の動き (運動・動作、作業面など)	・粗大運動の模倣ができる。			
(追加)				
6 コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など)	・簡単な言葉のやりとりができる。 ・発音が不明瞭な部分も見られるが、お話は好きである。			
(追加)				
7 その他 (性格、行動特徴、興味関心など)	・様々な活動に自分から参加することができる。 ・友達の様子を見て、一緒に活動することを好む。			
(追加)				
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法・手だて	評価	
生 活	【1学期】友達や先生の名前、教室の名前を覚えることができる。	・交流学級に参加。グループ活動の中で、周りとの関わり方を学ばせ、校内の様子を把握できるようにする。	・「はじめましてカード」にスタンプやシールをもらったことで、相手に対する関心がとても高まった。	
国 語	【1学期】友達の名前を覚える。いくつかのひらがなを覚え、硬筆の練習に参加できる。	・写真カード、文字カード等を使用しながら、興味を持たせるように工夫する。 ・プリントに関しては本人の力だけでも短時間で終了できる程度の量を提示する。	・5月の時点で、自クラスだけでなく交流学級の友達の名前も覚えることができた。 ・手本を見て、硬筆の練習ができた。	
算 数	【1学期】分類遊び、色や形のマッチング等に取り組むことができる。	・歌や遊び、具体物を取り入れることで集中して学習に参加できるようにする。	・導入の数字の歌を歌うことで学習する気持ちが整い、取り組むことができた。	
音 楽	【1学期】リズムに乗って、身体を動かすことができる。	・交流学級に参加。声を出すことよりも、自由に身体で表現することを優先しながら指導する。	・「かえるの歌」の場面では、みんなが歌っている間、かえるの真似をしながら体を動かすことができた。	

図工	【1学期】様々な道具を用いて、自由に描いたり作ったりすることができる。	・できるだけ広い作業スペースで、多くの道具を用意し、のびのび創作活動に取り組める環境づくりを心がける。	・自由画では、目を重ねるごとに友達の顔を描くことが増えてきた。 ・こいのぼり作りでは、鱗の部分をちぎった色紙で表現する等工夫が見られた。
体育	【1学期】先生の動きをよく見て、動きを真似することができる。	・交流学級に参加。動きの提示は、できるだけ近くでゆっくり行うようにする。 ※首に過度の負担がかからないように気をつけながら取り組ませる。	・集団行動は、ゆっくりだが真似をしてついていくことができる。 ・水泳学習では、水を怖がらずに積極的にもぐることができていた。
自立活動	【1学期】活動に見通しを持って集団活動に参加することができる。	・活動の流れを絵や写真で示したり、見本を示すことで内容を分かりやすく伝える。	・初めての場所や活動でも、カードや友達の活動を見ることで、参加することができた。
日常生活の指導	【1学期】学校に着いたらカバンの片付け、着がえ、トイレを済ませることができる。朝の会の流れを覚え、参加することができる。	・絵や写真を使って、簡単なカードを作り、流れを確認できるようにする。 ・朝の会において手遊びを多く取り入れる。	・6月に入り、トイレまで自分でできる日が増えてきた。励ましに応えようと頑張る姿がとても立派である。 ・上級生のやり方を見て、少しずつ参加の仕方が分かってきた。 ・手遊びを期待して、他の活動も頑張ることができている。
生活単元学習	【1学期】自分のできる活動を集中して取り組むことができる。	・調理学習等の場面で、提示された中から自分のやりたい作業を選ばせる。	・調理学習では、調理工程を写真カードで提示することで、自分から活動を選び、泡だて器を使って卵を混ぜることができた。

P50「教育支援プラン A・B の作成・活用について」を参考に

(1) 小学校

②自閉症・情緒障害特別支援学級



・知的障害を伴う児童には、特に必要がある時は、領域・教科を合わせた指導を行う。(29ページの日課表の中では、「日常生活」(日常生活の指導)、「生活単元学習」がそれに当たります)

学校及び児童の実態

本学級には4名の児童が在籍している。このうち3名の児童が知的な遅れを併せ持っている。そのため、交流及び共同学習は「生活」「総合的な学習の時間」など体験的な学習や「音楽」「体育」などの技能科が中心である。自学級では、教科別の指導、領域別の指導、領域・教科を合わせた指導をおこなっている。個々の発達段階はそれぞれ違うが、課題は気持ちのコントロールやこだわりの強さ、対人関係やコミュニケーションなどが共通した課題である。また、通常の学級からの弾力的運用で、2名の児童が週3時間程度指導を受けている。

本校は全学年3学級の中規模校である。市の中心地に位置し、周囲は店舗や交通量の多い道路も多い。子供達は、放課後や休日は、友達同士あるいは家族で出かけたりする家庭も多い。反面、学区内に児童養護施設があり、複雑な家庭環境を持つ児童も在籍している。様々な児童が在籍しているといえる。近隣に高校も2校あり、小学校との交流も行われている。

特別支援学級の教育課程

学校名 _____

学校長名 _____

障害種別 自閉症・情緒障害特別支援学級

1 教育目標

(1) 学校教育目標

- ・かしこい子
- ・やさしい子
- ・たくましい子

(2) 特別支援学級の目標

- ・学習に取り組もうとする子
- ・友達のことも考え、行動できる子
- ・進んで行動できる子

2 指導の重点

- ・社会性をのばし、自主及び自立の精神を養う。
- ・基礎学力の向上に努め、それを日常生活に生かす能力を養う。
- ・健康・安全で幸福な生活のために必要な習慣を培う。

3 学級編制

学 級 名		児 童 生 徒 数								
〇〇学級		男	3 名		女	2 名		計	5 名	
			(名)			(名)			(名)	
担任者 氏 名		本・ 臨採 の別	本・臨		在職 年数	教職 () 特支 ()				
			本・臨			教職 () 特支 ()				

*児童生徒数欄の()は、通常の学級に在籍していながら、この学級でも指導を受ける児童生徒(通級による指導を受けている)がいる場合に、その数を記入する。

〔備考〕 編制上の配慮事項等

4 年間授業日数

(1) 特別支援学級の授業日数 ○日

(2) 学校全体の授業日数との比較 同上

(特別支援学級の授業日数が、学校全体の授業日数と異なる場合は、その理由)

医療機関で診断された障害名を記入する。

5 児童の障害の状況等 (在籍する児童)

No.	学年	氏 名 (生年月日)	年 齢	性 別	障害の状況 ① 障害の種類 ② 検査の結果 ③ その他 手帳の有無	指導の重点	週授業時数			
							学 級	特 別 支 援	級 通 常 の 学	合 計
1					手帳=障害者手帳 埼玉県が交付する手帳⇒ 「障害者手帳」(紺色) ※「身体障害者手帳」「療 育手帳(みどりの手 帳)」「精神障害者保健 福祉手帳」の体裁が平成 27年10月より統一 ※さいたま市、他都道府県 公布の手帳は体裁が異 なる ▼29ページ参照	「障害の状況」②検査の結果には、主に発達検査の結果を 記す。 発達検査は、児童生徒がどんなことが得意か、また、どんな ことが苦手か等、実態把握をする際に客観的な指標となる ものであり、児童生徒を診断するためのものではない。 ①知的障害を伴う自閉 症スペクトラム。 ②WISC-IV検査(全検 査 IQ、言語理解、知 覚推理、ワーキング メモリ、処理速度) 平成 年 月実施 ③パニックを起こした 時にはしばらく時間 をおいてクールダウ ンし、気持ちを受け 止めることで集団に 戻ることができる。 ・ひらがなの読み書き は 40 文字程度でき る。カタカナは半分 程度。文章は一文字 ずつ読む。言葉集め は自分で考えて書く ことができる。 ・算数は 10 以上の計 算は指を使って数え るため時間がかかる が、サクランボ計算 のやり方が理解でき るようになってき た。 ・集団行動はとれる。 ・新しいことに対する 抵抗が強く最初は見 て参加する。 ▼29ページ参照	・自分の気持ちや思 いを、言葉で伝えら れるようになる。 ・これからやること、 約束、ルールを言葉 や文字で示し、約束 を守って行動でき るようになる。 ・いろいろな集団に 参加できるように なる。 ・基礎学力を身に付 ける。 ▼29ページ参照	16	10	26

略

<参考>

・WISC-IV知能検査・・・全体的な認知能力を表す全検査IQと、4つの指標得点（言語理解、知覚推理、ワーキングメモリ、処理速度）を算出し、個人内差をつかむことができる。

検査結果から推察されること

言語理解が弱い	「言葉での複雑な意味理解が苦手」「言葉での説明が苦手」「語彙や知識の不足」等
知覚推理が弱い	「イメージしながら考えるのが苦手」「図形や量を比べることが苦手」「見たことを関連付けて推理することが苦手」等
ワーキングメモリが弱い	「集中力が短い」「注意の継続が苦手」「聞いたことをすぐ忘れる」等
処理速度が弱い	「不器用」「物事を素早く処理することが苦手」等

6 日課表 2 学年児童の日課表（例）

時間	月	火	水	木	金
8:15 8:30	朝読書	全校朝会 学級時間 学年朝会 児童集会	学習タイム (国語・算数)	朝の会	業前運動
	朝の会				
8:40 1 9:25	日常生活	生活 ★交流	体育 ★交流	体育	体育
9:35 2 10:20	体育 ★交流	国語	図工 ★交流	国語	国語
	業間休み				
10:40 3 11:25	算数	算数	算数	体育 ★交流	生活 ★交流
11:35 4 12:20	自立活動	書写	算数	自立活動	図工 ★交流
12:20 13:10	給食 ※ 歯磨き				
13:10 13:25	昼休み				
13:25 13:50	清掃				
13:50 5 14:35	生活 ★交流	生活単元学習 ※合同	音楽 ★交流	音楽 ★交流	自立活動 生活単元学習 ※合同
14:35	帰る会				
15:00	下				

週時数時間（ただし1単位時間は45分）

★交流及び共同学習

※知的障害特別支援学級と合同学習

この児童は知的障害を伴うため、日課の中に生活単元学習を設定している。
(前ページ「障害の状況」参照)

児童の実態（前ページ▼部分）からどの授業を「交流及び共同学習」にするかを検討する。

<例>「障害の状況」集団行動はとれる。

「指導の重点」約束を守って行動できるようになる。



集団行動の中で、競技等のルールを理解した上での活動が主になる「体育」の授業を「交流及び共同学習」で行う。

7 年間指導計画（平成○年度 ○○市立○○小学校 自閉症・情緒障害学級 2年 ○○○○）

			4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事			入学式・始業式 身体測定 1年生を迎える会 家庭訪問	家庭訪問 新体力テスト 避難訓練	フリー参観 プール開き 硬筆制作会 開校記念日 引渡訓練	授業参観 終業式 夏季休業	写生会 校外学習	選手を励ます会 運動会	フリー参観 持久走	授業参観 終業式 冬季休業	始業式 書初め制作会 避難訓練	ありがとう集会 授業参観	6年生を送る会 卒業式 修了式
領域別の指導	自立活動	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 健康の把握 身体動きのコミュニケーション	・情緒の安定と基本的な生活習慣の確立を図る。 ・自分の「好きな遊び」に集中して取り組む。	・友だちと一緒に遊び、友だちの気持ちも考えられるようになる。 ・「楽しい遊び」を見つけて遊ぶ。	・場面・状況に応じられる力を身に付ける。 ・社会科見学会に落ち着いて参加する。	・休暇時や余暇に時間など、他教員や他児との交流を深める。 ・「外遊び」で友達と関わる。	・情緒面での安定を図り集団への適応を高める。 ・運動会に安定して参加する。	・状況の変化にも落ち着いて対応できるようにする。	・集団の中にも参加できるようになる。 ・音楽鑑賞会、持久走大会に参加する。	・体育や音楽にスムーズに参加できるようになる。 ・「外遊び」で数人と関わる。	・情緒の安定を図り、相手や場に応じた対応ができるようになる。	・安定した生活が遅れるようになる。 ・安定した気持ちで授業に向かう。	・大勢の人の前でも落ち着いて行動できるようになる。 ・次年度への希望を言葉で表すことができる。
	特別活動	学級活動	新しいお友だち作り	学級の係決め			運動会の係決め	生活科見学		お楽しみ会への参加	学級の係決め 給食習慣	お楽しみ遠足の話し合い	6年生を送る会
		交流活動	1年生を迎える会				応援合戦					送る会練習	
	道徳		道徳の指導計画に従い、領域・教科を合わせた指導や学校生活全般で各項目をする。・礼儀・友情・思いやり・規則の尊重・生命尊重・動物愛護・公聴心・助け合い										
	外国語活動		ゲーム等を通して、楽しく英語に接する。（児童の実態に応じて参加を考える）										
合領域・教科を指導	日常生活の指導		靴のはき方・衣服の着脱・あいさつ・返事・持ち物の整理整頓・食事のマナー・配膳の後片付けの仕方・手洗い・歯磨き・清掃の仕方・トイレの使い方・交通安全等を朝の会・帰りの会・給食・学級指導・清掃等の時間も活用し年間を通じ指導する。										
	生活単元学習		・新しいお友だち・教室になれよう ・春を探そう	・こどもの日・母の日・父の日を祝おう。 ・調理をしよう。	・梅雨を楽しもう。 ・交流会をしよう。（近隣小学校・中学校） ・調理をしよう	・七夕会をしよう。 ・友だちになろう。（共同学習）	・運動会を音に合わせて楽しもう	・秋を探そう。 ・交流会をしよう。（中学校と）	・劇遊びをしよう。 ・調理をしよう（習） ・交流会をしよう（近隣小学校）	・お楽しみ会をしよう。（共同学習）	・作品展に参加しよう。	・寒さに負けなようにしよう。	・お楽しみ遠足に行こう。 ・進級の準備をしよう。
			・いろいろな野菜を育てる。・金魚や虫などの生き物の世話をする。・草花・パセリ・赤かぶ・じゃがいも・枝豆などを育てる。										
教科別の指導	国語		・教科書を読む。・内容を知る。・相手の話に耳を傾ける。・ひらがな、かたかな、簡単な漢字を書く。（1年生の教科書を中心に）										
	算数		・1桁同士の足し算、引き算のやり方を覚える。100までの数の学習。時計の読み方を覚える。長さ、重さ、水の量などの単位を知る。箱の形を知る。三角形と四角形などの図形を知る。 ・基礎的な力の学習と平行して、興味・関心を持った単元に取り組む。（1年生の教科書を中心に）										
交流及び共同学習	図画工作		たのしいなおもしろいな ひみつのたまご 絵に表す	マグネット・マス コット（工） きれいな歯（絵）	ゆらゆらうきうき （工） ゆめのぼうけん ものがたり（絵）	ぶかぶかゆらゆら （工）	楽しかったよ きどきしたよ 郷土の絵を描こう わっかで変身	まどをひらいて 見て見ておはなし	すてきなものでいっぱい たのしくつて	ともだちハウス	だんだんだんボール ときめきコンサート つないでつるして	はさみのアート ストローでこんにちは	わくわくすごろく ともだち みつけた
	体育		体ほぐしの運動 運動遊び	跳の運動遊び 鬼遊び	多様な動きを作る 運動遊び 鉄棒を使った遊び	水に慣れる遊び 浮く・もぐる遊び	リズム遊び 走の運動遊び	ボール投げゲーム 鉄棒・走運動遊び	多様な動きを作る運動遊び	跳び箱を使った運動遊び	ボールけりゲーム	跳の運動遊び 鬼遊び マットを使った運動	体ほぐしの運動 表現遊び
	音楽		歌で友だちの輪を広げよう ロンドン橋 子犬のピンゴ かくれんぼ	拍のまとまりを感じ取ろう 音の高さの違いを感じ取ろう	はしの上で、トルコ行進曲、たぬきのたいこ、かっこう、かえるのがっこう、ドレミのうた、ドレミのまねっこ、ドレミであそぼ	歌で友だちの輪を広げよう ロンドン橋 子犬のピンゴ かくれんぼ	拍子を感じてリズムをどうよう・いろいろな音を楽しもう・様子を思い浮かべよう	日本の歌	歌やゲームを通して、英語に親しみ、英語でコミュニケーションをどうようとする。	歌やゲームを通して、英語に親しみ、英語でコミュニケーションをどうようとする。	歌やゲームを通して、英語に親しみ、英語でコミュニケーションをどうようとする。	歌やゲームを通して、英語に親しみ、英語でコミュニケーションをどうようとする。	歌やゲームを通して、英語に親しみ、英語でコミュニケーションをどうようとする。
	生活		春だ今日から2年生 野菜を育てよう 筍の皮むき	大きくなった私の野菜 どきどきわきわく町探検計画	どきどきわきわく町探検 生き物を探しに行こう 捕りに行こう	生き物を育てよう 野菜を収穫しよう 生き物のことを伝えよう	動く動く私のおもちゃ 冬野菜の種まき 〇小フェスティバル	図書館に行こう もっと仲良し町探検計画を立てよう	町の人と仲良くなろう 仲良くなった人の紹介をしよう	繋がる広がる私の生活伝えたい な、町の素敵を伝えよう	明日ヘジャンプ 大きくなった自分のことを伝えよう	大きくなった自分のことをまともめよう	ありがとう発表会を開こう 素敵な3年生になろう
	学校行事等		全校朝会・児童集会・学年朝会・縦割り集会・教科学習（図画工作・体育・音楽・外国語活動）・校外学習										

8 個別の教育支援計画と個別の指導計画

教育支援プランA（個別の教育支援計画）

ふりがな		性別	生年月日	取扱注意
本人氏名	〇〇 〇〇	〇	平成 〇年 〇月 〇日	
ふりがな		住所	〇〇〇〇〇〇〇	
保護者氏名	〇〇 〇〇	TEL	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	
対象期間	平成 年4月1日（小1）から平成 年3月31日（小3）まで3年間			
作成年度	学 校 名	校長名	学部・学年・組	記入者名
1 平成〇年度	〇〇小学校	〇〇〇〇	年 組	〇〇〇〇
2 平成〇年度	〇〇小学校	〇〇〇〇	〇〇学級	〇〇〇〇
3 平成 年度	小学校			
特 別 な 教 育 的 二 一 二	本児は、①初めて取り組むことに対する抵抗や不安が大きく、自分でこうすると決めると、変更することは難しい面がある。また、②当該学年の学習内容は理解が難しく、本人がいらいらしてしまうことがある。 したがって本児には、①感情コントロール力を身につけ、不安や気持ちの切り替えに対処できるようにする。②基礎学力を身につけ、学習に対する意欲が持てるようにする。などが必要である。 支援にあたっては、①本人の不安や抵抗を取り除き、安心して取り組む環境を考慮する。②本人の課題やペースに合った学習を進めていく。などの配慮が必要である。			
（ 追 加 ）				
本人・保護者の 願 い	本人のペースに合った学習を進めてほしい。学校に喜んで通ってほしい。			
合 理 的 配 慮 の 実 施 内 容	指示、説明はわかりやすい言葉で短く伝える。不安な時は選択させるなど本人の意思を尊重する。本人のペースに合わせた学習を用意する。学校生活全般を通して、楽しかったという経験を積ませる。			
（ 追 加 ）				
教育機関の支援	所 属 校	目標・機関名 ①落ち着いて学習に取り組む。 ②友達と関わって楽しく遊ぶ。 ③学習の基礎となる力をつける。	支 援 内 容 ① 学校や学級の約束やルールをわかる言葉で伝え、守らせるようにする。 ② 友達とペアを組ませるなどして関わりを増やす。 ③ 鉛筆の持ち方に気を付け、本人に合った、マス目の中に書く。できた、分かったという気持ちを持てる学習を用意する。	評 価 ① 学校生活の約束や日課などをよく理解し、それに沿って行動できた。変更があると気持ちが乱れることが見られる。 ② 本人の好きな友達と組むことで、関わりを広げることができた。 ③ 鉛筆の持ち方の補助具の活用や大きなマス目の利用をし、少しずつ意識は高まっている。
	（ 追 加 ）	落ち着いて学習に取り組む。 友達と関わって当番活動や係活動を行う。 基礎学力を身に付ける。	① 視覚支援や具体的な説明により見通しを持ちやすくし、不安を軽減する。 ② グループングや座席に配慮したり、担任が仲立ちとなったりして良い関係づくりをする。 ③ 本人の実態や段階に応じた	① 事前に丁寧でわかりやすい説明をすることで、見通しを持って取り組むことが増えてきた。 ② 少人数での環境により落ち着きが増し、皆と一緒にできることが増えてきた。

			学習内容や学習量を設定していく。	③ 本児の発達段階に応じた学習内容の選定により、意欲的に取り組もうとすることが増えた。		
就学支援委員会の助言内容	市就学支援委員会 (年 月 日)	保護者の意向を尊重し、通常の学級で支援しながら、様子を見ていくことが望ましい。				
(追加)	市就学支援委員会 (年 月 日)	自閉症・情緒障害特別支援学級入級が望ましい。				
支援籍、交流及び共同学習						
(追加)	在籍校 交流学級 ・交流学級の友達と一緒に学習や行事に取り組むことができる。	・担任、交流学級担任の連絡を密にしたり、本児の特性を伝えたりすることで、適切な関係づくりができるようにする。	交流学級での学習や行事に楽しみな気持ちを持って参加することが多く見られた。			
関係機関の支援		機 関 名	支 援 内 容			
	医療・保健	〇〇クリニック	〇歳時、自閉症スペクトラムと診断される。			
	(追加)					
	福祉・労働					
	(追加)					
	家庭・地域					
本人のプロフィール	障害の状況	知的障害を伴う自閉症スペクトラム。初めてのことに對する不安が大きいため、見通しを持てるよう事前の説明や視覚的な支援が効果的である。当該学年の学習内容の理解は難しいため、全体指示後の個別指示や休み時間等の補習学習を行っている。				
	生育歴 療育歴 教育歴	民間の療育機関〇〇〇〇へ通う。(年 月～ 年 月) 〇〇幼稚園(年～ 年)				
	相談歴 諸検査	① WISC-IV(全検査 IQ 、言語理解 、知覚推理 、ワーキングメモリ 、処理速度) (平成 年 月実施 〇〇市〇〇クリニック)				
	その他	実施日や、検査を行った機関名を記入しておく。				

(注)療育手帳 ④ の記号については、[挿入]→[記号と特殊文字]で表示される。

P50「教育支援プラン A・B の作成・活用について」を参考に

教育支援プランB（個別の指導計画）

本人氏名	〇〇 〇〇	学校名	〇〇小学校	取扱注意
学部・学年・組	〇〇学級	記入者名	〇〇 〇〇	
指導方針	・落ち着いて、生活が送れるようになる。 ・自分の気持ちを言葉で伝える。相手の言うことに耳を傾けられるようになる。 ・学習の基礎となる力をつける。			
(追加)				
指導に結びつく実態				
1 健康の保持 (日常生活面、健康面など)	・身のまわりのことは、一人でできる。 ・一度マスクを付けると、なかなかはずせないなどのこだわりがみられる。			
(追加)				
2 心理的な安定 (情緒面、状況の理解など)	・初めてのことや場所に対する不安や恐怖心が強い。中に入れない、参加を拒む、泣き叫ぶなどの行動がみられる。泣き出すとしばらく泣き止まない。			
(追加)				
3 人間関係の形成 (人とのかかわり、集団への参加など)	・人と一緒にいるが、仲のよい友達はいない。名前を言える友達は数人である。 ・初めてのことや、何をやるかわからないと、不安から集団に参加できない。			
(追加)				
4 環境の把握 (感覚の活用、認知面、学習面など)	・自分の思いを一方向的に話す。相手の話はさほど聞いていない。 ・決められて本人がわかることは、真面目に取り組む。(具体的場面があると)わかりやすい) ・パソコン操作は苦手ではない。できない時は助けを求める。失敗すると人のせいにする。算数は本人の中で得意、国語は苦手意識をもっている。			
(追加)				
5 身体の動き (運動・動作、作業面など)	・体を動かすことは好きである。姿勢が崩れやすい。 ・指先の細かい操作は苦手である。鉛筆を上の方で持つため、余計に力が入らない。大きなマス目でも、その中に文字を収めることは難しい。			
(追加)				
6 コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など)	・対大人には一方的に自分の好きなことを早口で話す。友達との会話は少ない。 ・語彙数が少なく、おしゃべりしていることはいつも自分の好きなないようなことである。周りの状況をまだよく理解できていない。言葉で伝えることが苦手である。			
(追加)				
7 その他 (性格、行動特徴、興味関心など)	・決められたこと、時間をきちんと守る。それが崩れるというらいらしてくる。 ・集団の中にいることは嫌ではない。ただなんとなく一緒にいる。 ・自然や動物が好きで話はつきない。パソコン、アイパッドを使った学習も好きで集中して取り組む。操作がわからない時は、聞いてくる。失敗すると怒り出す。			
(追加)				
P50「教育支援プラン A・B の作成・活用について」を参考に				

学期ごとに評価を行い、次学期の学習目標、指導内容の設定につなげる。

1 学 期

	指導内容・方法・手だて	評 価
自立活動	・新しいことや、大きな集団の中でも、落ち着いて参加できる。 ・時間割に合わせて行動できる。 ・1日の予定を書く。 ・わかる言葉、語彙数を増やし、自分の思いや気持ちを言葉で伝える。 ・友達と一緒に遊ぶ中で関わり方を知る。	・自学級から交流学級へ入ることへの抵抗がなくスムーズに入ることができた。縦割り活動は不安をのぞかせたが、みんなで一緒に行くことで、参加できた。 ・黒板に予定を貼り、それを自分で写すことで、1日の自分の動きを覚えた。交流学級に行く時間も覚えていた。 ・嫌な時は大きな声で訴えた。嫌なことをされた時、言葉で表現することができず、態度で表すことがあった。
日常生活の指導	・自分のことを自分で行う。 ・日直の仕事、当番の仕事をやる。 ・腰骨を立てる。 ・詩の暗唱をする。 ・はしを使って食べる。 ・正しい姿勢を保つ。 ・黙って清掃に取り組む。	・人に手伝ってもらうことは好まず自分のことは自分でやろうとした。 ・登校後、針が数字のどこを指していたか、担任に知らせた。 ・係の仕事は意欲的に取り組めた。 ・腰骨を立てることはできたが、保持できる時間は短く、体が動いてしまった。 ・音読、詩の暗唱は真面目に取り組めると校長室で聞いてもらうのを、楽しみにしていた。 ・給食は手で仕分けする。姿勢は崩れるが静かに食べた。 ・清掃は褒めるとより取り組めた。
生活単元学習	・友達と一緒に、いろいろな経験をし、生活に生かせるようにする。 ・自分の役割を知り、見通しを持って活動に参加する。	・友達と一緒に活動できるように支援していく。 ・本人が興味・関心があり、生活に生かせる内容を用意する。 ・取り組む内容を絵や写真、具体物を使い本人にわかるように伝える。 ・畑の仕事、種まき、収穫、調理などを計画し、積極的に参加させる。
国語・算数	・語彙数を増やす。 ・相手の顔を見て話す。 ・ひらがな、カタカナの習得をめざす。友達の名前や生活に使う漢字を知り、書こうとする。 ・興味・関心のある内容の本を読み、感想を言う。 ・1年生の内容で未定着な内容に取り組む。	・国語の時間はこれをするとして示すことで、課題に取り組めた。音読は読む場所を示すことで読めた。ひらがな、カタカナは時々思い出せない文字があった。漢字は生活に必要な漢字から練習した。書ける文字は数個である。 ・算数は2年生の教科書を使い、本人のペースに合わせて学習することで、定着が見られた。
音楽・図工	・音楽を楽しむ。 ・音楽を体全体で表現する。 ・鍵盤ハーモニカを使って簡単な曲を吹く。 ・絵の具、クレヨン等を使い、課題の絵を描く。 ・いろいろな材料を使って、自分でイメージして作る。	・自分から交流学級に出かけた。鍵盤ハーモニカは指1本だが、テンポに合わせてふくことができた。 ・図工は交流学級に行くのを嫌がることもあった。行かないことを話に行かせる、自学級で取り組む等工夫し作品を完成させた。
体育	・集団行動がとれるようになる。 ・色々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを知る。 ・新体力テストに参加する。	・交流学級に参加した。何をやるのかたずねてくることがあった。内容を伝えることで安心したようだった。学習したことを覚えていて、聞くと答えた。
生活	・みんなといっしょに春を探し、野菜植えをする。 ・町探検に出かける。 ・英語の授業に参加する。	・交流学級に参加した。みつけたよカードは自学級へ戻り書くこともあった。 ・英語は苦手といいながらも、なんとか交流学級に出かけた。

(2) 中学校

①知的障害特別支援学級



・領域・教科を合わせた指導の「作業学習」は、中学校での指導がほとんどです。

学校及び児童の実態

本学級の生徒は、5名（男子3名、女子2名）で、知的障害の程度は重い生徒もいるが、比較的軽い生徒が多い。感覚過敏やこだわりが強い、パニックを起こす生徒もいて、コミュニケーションが課題となっている。学校の雰囲気は穏やかで、交流及び共同学習での活動も、取り組みやすい状況である。

そこで、領域・教科を合わせた指導を設定するが、教科別の指導を多めに組んでいる。体育、音楽、美術に関しては、交流及び共同学習で学習する生徒が多い。

特別支援学級の教育課程

学校名 〇〇立〇〇中学校

学級種別 知的障害

1 教育目標

(1) 学校教育目標

よく考え 働く生徒

- ・ 躍る心
- ・ 輝く瞳
- ・ 光る汗

(2) 学級目標

- ・ 仲よく
- ・ かしこく
- ・ 元気よく

2 指導の重点

個に応じた指導・支援の充実を図る

- └ 集団の中で自ら学習する力を伸ばす。
- └ できる状況をつくってできるようにし、自信をつける。
- └ いきいきと活動できる関係や場をつくる。

3 学級編制

学 級 名		児 童 生 徒 数								
組		男	3名		女	2名		計	5名	
			(名)			(名)			(名)	
担任者	〇〇 〇〇	本・臨採 の別	Ⓐ・臨		在職 年数	教職 (〇〇) 特支 (〇〇)				
氏 名			本・臨			教職 () 特支 ()				

4 年間授業日数

- (1) 特別支援学級の授業日数 ○日
(2) 学校全体の授業日数との比較 同じ

5 児童生徒の障害の状況等（在籍する児童生徒）

（ただし1単位時間は50分）

No.	学年	氏 名 (生年月日)	年 齢	性 別	障害の状況 1. 障害の種類 2. 障害の程度 3. 検査等の結果 4. その他	指導の重点	週授業時数		
							特別 支援 学級	通常 の学級	合 計
1	1			女	1. 知的障害 2. パターン化した計算や漢字は書けるが、それを使うことは難しい。周りの人が気になって、集中が長続きしない。 話をわかっているようでわかっていない。 3. WISC-Ⅲ（全検査 IQ○、言語性 IQ○、動作性 IQ○）（平成○年○月○日実施） 4. 療育手帳○	・自分でできたという体験を積み重ね、自信をつける。 ・体力をつけ、運動への苦手意識を払拭する。 ・ソーシャルスキルトレーニングに取り組む。	23	6	29
2	1			男	1. 知的障害（自閉的傾向有） 2. ひとり言を言ったり、落ち着かなくなってしまう。 1 番にこだわってしまう。 自分の思い通りにならないとテンションが上がりパニックになってしまう。 3. 4. 療育手帳○	・生活に見通しを持たせ、落ち着いて取り組ませる。 ・成功体験を積み重ね、自信をつける。 ・気もちのコントロールやコミュニケーションのソーシャルスキルトレーニングに取り組む。	23	6	29
3	1		12	女	1. 知的障害 2. 口蓋裂のため発音が不明瞭。 感情のコントロールがうまくできず、投げやりになることがある。 集中が続かず、作業が雑でミスが多い。 3. 4. 療育手帳○	・自分でできたという体験を積み重ね、自信をつける。 ・音読の練習にとりくむ。 ・細かい作業に慣れさせる。 ・感情のコントロールなどのトレーニングに取り組む。	23	6	29

（ 略 ）

6 日課表

ある学級の日課表。生活単元学習や作業学習、職業・家庭、総合的な学習の時間には、行事や季節の取り組みが入ることもある。

市町村によって、学級の日課表と個人の日課表の両方を提出する場合もある。

時間	行事や季節の取り組みが入ることもある。			木	金	
8：15 8：20	登 校					
8：20 8：30	朝 読 書					
8：30 8：40	朝の会（出席点呼、健康チェック、今日の予定）生活ノート					
8：45 9：35	1	生活単元学習	保健体育	生活単元学習	保健体育	保健体育
9：45 10：35	2	国語	国語	国語	国語	国語
10：50 11：40	3	数学	数学	数学	数学	数学
11：50 12：40	4	技術	社会・理科	音楽	美術	技術
12：40 13：45	給 食 昼休み					
13：45 14：35	5	英語	作業学習	家庭	総合的な学習 の時間	作業学習
14：45 15：35	6	清掃	作業学習	家庭	総合的な学習 の時間	作業学習
15：35 15：55		帰りの会	清 掃			
15：55 16：15			帰りの会			

週時数時間 2 Aさんの時間割 (位時間は50分)

時間		月	火	水	木	金
8:15 8:20		登 校				
8:20 8:30		朝 読 書				
8:30 8:40		朝の会（出席点呼、健康チェック、今日の予定）生活ノート				
8:45 9:35	1	生活単元学習	保健体育	生活単元学習	体育★交流	保健体育
9:45 10:35	2	国語	国語	国語	国語	自立活動
10:50 11:40	3	体育★交流	自立活動	数学	数学	音楽★交流
11:50 12:40	4	美術★交流	社会・理科	音楽	美術	技術
12:40 13:45		給 食 昼休み				
13:45 14:35	5	英語	作業学習	体育★交流	総合的な学習の時間	作業学習
14:45 15:35	6	清掃	作業学習	家庭	総合的な学習の時間	作業学習
15:35 15:55		帰りの会	清 掃			
15:55 16:15			帰りの会			

週時数時間 29時間（ただし1単位時間は50分）

7 年間指導計画（〇〇年度 知的障害特別支援学級 年間指導計画 2年 〇〇〇〇）

			4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
領域 教科を 合わせた 指導	日常生活の指導		①登校（時間、交通安全） ②朝の準備（着替え、整理整頓、提出物） ③朝の会（挨拶、健康観察、一日の予定、連絡） ④日直の仕事・係りの仕事 ⑤休み時間の過ごし方 ⑥給食（準備、好き嫌い、マナー、片付け、歯磨き） ⑦清掃（整理整頓、用具の使い方、手順） ⑧帰りの準備（着替え、整理整頓、持ち帰るもの） ⑨帰りの会（一日の反省、明日の予定） ⑩下校（挨拶、交通安全） *全校朝会、表彰朝会、生徒会朝会										
	生活単元学習		生活ノート・日記（年間通して毎日行う）（月日、曜日、天気、気温、学習の予定、生活点検、時間、時刻、一日の生活、家庭での生活、作文など）										
	作業学習		除草→種まき、移植（トウモロコシ、綿） 移植（さつまいも） 収穫（ジャガイモ） 除草→種まき（バジル）収穫（トウモロコシ、さつまいも、綿） 堆肥づくり（落ち葉集め） 土おこし 植えつけ（チューリップ、パンジー、たまねぎ、ジャガイモ）										
	農耕園芸												
教科 別の 指導	国語		自己紹介 詩、朗読 報告・届け 硬筆 作文 つなぎ言葉 敬語、電話（丁寧に話す） よびかけ（文化祭発表） 読書（音読、黙読） 面接（はっきりとした受け応え） 年賀状・手紙の書き方 書初め 進級文集 案内状 漢字練習、音読練習、聞き取り（聴写）練習、朝読書（毎日10分間）										
	数学		四則計算 到達度テスト 時間・時刻 時、分 午前、午後 温度計 読み方 温度比べ 買い物 お金 値段にあわせて支払う 長さ・高さ mm、cm、m、km 重さ g、kg どちらが重い、体重計 かさ、量 表、グラフ 表の見方 図形 円、三角形、四角形 百珠そろばん、個々のレベルに合わせた問題を継続的に行う。（九九、四則計算、暗算）										
	社会		地図の見方 市 都道府県 関東地方 古代、中世 近世、近代 人権、憲法 お金、経済										
	理科		植物、押し花 スライム 息を使う実験 顕微鏡 ガスバーナー ペットボトル ロケット 冷却剤 アイスクリュー 電池、電流、磁石 物質の三態、結晶 にぼしの解剖 ホッカイロづくり おもちやをつくらう 裁縫（手縫いの雑巾づくり、ボタン付け） 情報（タイプ練習、ワープロの入力）										
	体育		整列、準備体操 スポーツテスト 運動会練習 卓球、バドミントン 卓球、バドミントン 持久走 サッカー バスケットボール										
	技術家庭		調理実習（カレーライス、ラーメン、みそ汁、飯盒炊き、おにぎり） 裁縫（手縫いの雑巾づくり、ボタン付け） 情報（タイプ練習、ワープロの入力）										
	英語		AETの国を知ろう、AETと話そう、歌、ゲーム 挨拶、The ABC's song、自己紹介、アルファベット、色、食べ物、I like～ 身体部位の名、Let's count. Big、Small、12ヶ月、時計 買い物、色、単語カルタ										
交流 及び 共同 学習	体育		体づくり ダンス リレー 水泳、マット運動 ハードル走 長距離走 サッカー 剣道 バスケットボール										
	音楽		校歌 楽器（ベル、打楽器、鍵盤楽器） 歌唱、合唱、鑑賞、リズム、ダンス 音楽祭合唱練習 交流会練習 合唱、合奏、リズム 交流会練習（三年生を送る会） 卒業式歌										
	美術		押し花 母の日カード うちわのデザイン 陶芸（絵付け） 水彩画 紙漉き 染物（しぼりぞめ） 紙工芸 作り方、計画、制作、作品発表 ちぎり絵 合同作品										
	美術												
領域 別の 指導	自立活動		健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション										
	特別活動		自己紹介 目標、係決め 食事のマナー 衛生・清掃 梅雨の過ごし方 衣替え 一学期の反省 夏休みの過ごし方 夏休みの反省 目標、予定 集団生活 衣替え 交通安全 進路にむけて 二学期の反省 冬休みの過ごし方 冬休みの反省 目標、予定 レクリエーション 一年のまとめ 春休みの過ごし方										
	道徳		教育活動全体を通して行う。重点項目1－(1)(2)、2－(1)(2)(3)、3－(1)、4－(4)(5)										
	道徳		総合的な学習の時間 コミュニケーションゲームで遊ぼう 心とからだのコントロールを身につけよう こえを相手にとどけよう ソーシャルスキルを身につけよう 劇の発表をしよう										

8 個別の教育支援計画と個別の指導計画

教育支援プランA（個別の教育支援計画）

ふりがな		性別	生年月日	取扱注意	
本人氏名	〇〇 〇〇	〇	平成 〇年 〇月 〇日		
ふりがな		住所	〇〇〇〇〇〇〇〇		
保護者氏名	〇〇 〇〇	TEL	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇		
対象期間	平成〇年〇月〇日(中1)から平成〇年〇月〇日(中3)まで3年間				
作成年度	学 校 名	校長名	学部・学年・組	記入者名	
1 平成〇年度	〇〇市立〇〇中学校	〇〇 〇〇	〇〇学級	〇〇 〇〇	
2 平成〇年度	〇〇市立〇〇中学校	〇〇 〇〇	〇〇学級	〇〇 〇〇	
3					
特別な教育的ニーズ	・計算のやり方や、漢字などは、よく身についている。しかし、状況に応じた対応や、持っている知識を活用して、対応するところまでは、育っていない。 ・したがって、状況を把握する力、それに応じた対応をする力を実践的に身につけていく必要がある。社会常識やソーシャルスキルを身につける練習をする必要がある。				
本人・保護者の願い	・将来、社会での自立を強く願っている。そのために、ソーシャルスキル、生活に必要な力を身につけ、将来の就業につながるよう考えている。当面は、そこにつながる進学先に進学できる力をつけることを願っている。				
合理的配慮の実施内容	・集中して取り組めるように、座席を配慮する。余計な情報が目に入らないようにする。 ・大事な情報は、視覚的に示すとともに、自分でもメモを取るよう指導する。 ・本人に合わせた課題で、やりとげられるよう個別の支援を行う。				
教育機関の支援	目標・機関名	支 援 内 容		評 価	
	所 属 校	・基本的な力を着実につける。 ・状況を把握できるようにする。 ・実践的な対応力をつける。 ・表現力やコミュニケーション力をつける。		・スモールステップで、課題に取り組ませる。 ・体験活動と、その練習から、身につけた知識を、実践的に使うことで力をつける。 ・ソーシャルスキルトレーニングに計画的に取り組む。	・少しずつ自信をつけ、新しい課題に挑戦できるようになった。 ・一人でコンビニに買い物に行けるようになった。 ・まとめの発表会で、劇とダンスの発表をがんばった。
	(追加)				
	就学支援委員会の助言内容	市就学支援委員会	・特別支援学校において、学習を行うことが望ましい。		
	(追加)				
	支援籍、交流及び共同学習	・親学級の授業への参加(音楽・美術・体育) ・学校行事への参加(運動会・音楽祭・持久走大会・宿泊学習など) ・部活動(家政部)	・集団での学習に参加し、交流を深めるとともに、集団での活動を体験する。無理なく、意味のある交流になるよう支援する。 ・自主的に参加し、活動が楽しめるようにする。	・交流の授業と行事にしっかり参加することができた。 ・行事では、学習、練習の成果を発揮することができた。 ・意欲的に活動し、様々な作品を完成することができた。	
(追加)					
関係機関の支援	機 関 名	支 援 内 容			
	医療・保健	・小児医療センター ・〇〇こどもクリニック	・発達の相談 ・小2から発達の相談		
	(追加)				
	福祉・労働				
	(追加)				
本人のプロフィール	障害の状況	・知的障害			
	これまでの支援内容	・発達支援センター(小1～6) ・〇〇小学校特別支援学級。			
	生育歴 療育歴 教育歴 相談歴 諸検査 その他	WISC-Ⅲ 全検査 IQ〇〇、言語性 IQ〇〇、動作性 IQ〇〇(平成〇年〇月〇日)			

P50「教育支援プラン A・B の作成・活用について」を参考に

教育支援プランB（個別の指導計画）

本人氏名	〇〇 〇〇	学校名	〇〇中学校	取扱注意
学部・学年・組	〇〇学級	記入者名	〇〇 〇〇	
指導方針	・スモールステップで成功体験を積み重ね、自信と意欲を育てる。 ・生きる力の基本となる体力を身につける。 ・コミュニケーションのゲームやソーシャルスキルトレーニングに取り組み、相手に伝わるコミュニケーションを身につける。 ・集中力をつけ、気が散らないようにする。			
(追加)				
指導に結びつく実態				
1 健康の保持 (日常生活面、健康面など)	・健康面で特に問題はない。 ・身の回りのことがしっかりできる。			
(追加)				
2 心理的な安定 (情緒面、対人関係など)	・周りの人が気になってしまう。			
(追加)				
3 人間関係の形成 (人とのかかわり、集団への参加など)	・自分から積極的に、あいさつをしたり、話しかけたりすることができる。			
(追加)	P50「教育支援プラン A・B の作成・活用について」を参考に			
4 環境の把握 (感覚の活用、認知面、学習面など)	・視覚やパターンに強い。 ・漢字や計算がよくできる。			
(追加)				
5 身体の動き (運動・動作、作業面など)	・運動は、得意でない。 ・字がていねいに書ける。			
(追加)				
6 コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など)	・自分の意見を主張できる。			
(追加)				
7 その他 (性格、行動特徴、興味関心など)	・明るく元気である。			
(追加)				
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法(手だて)	評価	
自立活動	・体力をつける ・相手に伝わるコミュニケーションを身につける。	・体力づくりに取り組むとともに、ボディイメージを形成する。 ・ソーシャルスキルトレーニングやコミュニケーションのゲームに取り組む。 ・呼吸のコントロール、音読練習、会話練習に取り組む。	・体力づくりに意欲的に取り組めた。持久走のタイムが向上した。 ・コミュニケーションのゲームに意欲的に取り組んだ。 ・最後の発表がしっかりできた。 ・友だちに前向きな声かけができるようになった。	
国語	・やさしい文章が理解できる。 ・自分の考えを文章で伝えることができる。 ・覚えた漢字を使いこなせるようにする。	・文章の読み取りの練習、視写の練習をする。 ・毎日、日記をつける。 ・カードやプリントを活用する。 ・漢字の意味を理解する。	・漢字は得意で、意欲的に使っていた。 ・作文が自分なりに書けるようになった。	
数学	・何分後や何時間かかるなどの時間がわかる。 ・お金の出し方とおつり	・時計とお金は、毎時間練習をする。 ・百玉そろばんで数の感覚を身につける。	・パターンで処理することは、よくできた。 ・お金や時間への理解、定着は難しかった。	

P50「教育支援プラン A・B の作成・活用について」を参考に

	・がわかる。 ・四則計算ができる。 ・長さや重さがわかる。 ・やさしい文章題ができる。	・教材のお金を活用する。 ・計算練習に取り組む。 ・量として把握できるようにする。 ・文章題を絵や図を使って理解する。	
音楽	・楽しく歌うことができる。 ・合奏を楽しむことができる。	・音程をきにせず、元気に歌うことから始める。 ・ハンドベルやリコーダーの演奏に楽しく取り組む。	・元気よく歌うことができた。 ・楽器の演奏が上手にでき、交流会での発表がしっかりできた。
美術	・自分の持つイメージを表現することができる。	・簡単で楽しい技法を使い、楽しい作品を仕上げる。	・作品を仕上げることができた。
体育	・体力をさらにつける。 ・スポーツを楽しむことができる。	・持久走や縄跳びに取り組む、体力をつける。 ・様々な運動を体験し、楽しく取り組める技術を身につける。	・持久走とダンスに意欲的に取り組み、体力がついた。 ・体を動かすことがいやではなくなった。
技術	・パソコンが操作できる。	・タイピング練習に取り組む、タイピングを身につける。	・ローマ字の入力がすばやくなった。
作業学習	・農園芸の作業のやり方を身につける。 ・最後まで、粘り強く取り組むことができる。 ・カッターを使った切り絵の作品を完成させる。	・基本的な作業を、体験を通して身につける。 ・意欲的に取り組ませ、やりとげさせる。 ・細かい作業に集中して取り組ませる。	・ジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシの植え付けや収穫がしっかりとできた。 ・カッターの扱いに慣れてきた。
総合的な学習の時間	・行事に参加し、力を発揮する。 ・身体と言葉の表現力をつける。	・行事に向けて、準備と練習に取り組む。 ・コミュニケーションのゲームや劇などの活動に取り組む。	・行事に意欲的に参加できた。 ・コミュニケーションのゲームに意欲的に参加できた。

(1) 中学校

②自閉症・情緒障害特別支援学級



・知的障害を伴う児童には、特に必要がある時は、領域・教科を合わせた指導を行う。(43 ページの日課表の中では、「生活単元学習」「作業学習」がそれに当たります)

学校及び児童の実態

本学級には8名の生徒が在籍している。このうち半数の生徒は知的に大きな遅れは見られない。よって、交流及び共同学習により通常の学級で国語、数学、理科、社会、英語の授業を受けている生徒がいる。一方で半数の生徒は知的障害を伴い、教科別の指導や領域別の指導、そして領域・教科を合わせた指導をおこなっている。

本校は全校生徒が900名を超える大規模校であるため行事などに活気と迫力がある。しかしながら、本学級の生徒にはそれが刺激となり時には集団参加を難しくしている状況がある。また、通常の学級、本学級、知的障害特別支援学級(2学級)を合わせると25学級となり、体育施設を始めとする特別教室の使用の調整や、通常の学級に教科を学びに出る生徒のスケジュール調整などに苦慮している。本学級の生徒が全員揃う時間はほとんどない。

このような状況であるが、生徒たちは日々友達や教員とかかわりながら元気に学校生活を送ることができている。

特別支援学級の教育課程

学校名 ○○市立○○中学校

学級種別 自閉症・情緒障害特別支援学校

1 教育目標

(1) 学校教育目標

- ・自ら考えよく学ぶ生徒
- ・心豊かで思いやりのある生徒
- ・心身ともに健やかな生徒

(2) 特別支援学級の目標

- ・活動に集中して最後まで取り組むことができる生徒
- ・周りの人の気持ちことを考えることができる生徒
- ・健康な体を持ち、自分の気持ちをコントロールすることができる生徒

2 指導の重点

- ・わかりやすく、見通しをもちやすい活動を設定し、自分ができることで達成感を味わえるようにする。
- ・日々の生活や学習において、仲間の存在を意識できる機会を設定する。また、ルールのもつ意味やそれを守ることの大切さについて日頃から話題に多く挙げるようにする。
- ・楽しみながら体をしっかり動かす活動を設定する。また、情緒の安定を図る活動を多く取り入れ、穏やかな気持ちで日々の生活を送ることができるようにする。

3 学級編制

学 級 名		生 徒 数								
自閉症・情緒障害		男	6 名		女	2 名		計	8 名	
担任者	〇〇〇〇	本・ 臨採 の別	(本) ・ 臨		在職 年数	教職〇年 特支〇年				
氏名	〇〇〇〇		本 ・ (臨)			教職〇年 特支〇年				

〔備考〕編制上の配慮事項等

- ・特になし

4 年間授業日数

(1) 特別支援学級の授業日数

1年198日、2年198日、3年192日

(2) 学校全体の授業日数との比較

1年198日、2年198日、3年192日

5 日課表

		月	火	水	木	金
		登校・朝の支度・着替え・朝読書				
	8:15	朝の会				
	8:25	朝読書				
	8:35	移動				
1	8:45 9:35	国語 ◎課題別	国語 ◎課題別	自立活動	体育	美術
2	9:45 10:35	自立活動	作業学習 (木工) *合同	数学 ◎課題別	総合的な 学習の時間	体育
3	10:45 11:35	音楽 ★交流		生活単元 学習 *合同	美術	国語 ◎課題別
4	11:45 12:35	数学 ◎課題別	自立活動		音楽	数学 ◎課題別
給食 時間	12:35 1:10					
5	1:35 2:25	国語 (漢字・連絡帳)	作業学習 (畑)	体育	学活	作業学習 (畑)
6	2:35 3:15	2:35清掃	国語 (漢字・連絡帳)	国語 (漢字・連絡帳)	国語 (漢字・連絡帳)	国語 (漢字・連絡帳)
			3:25 清掃	3:25 清掃	3:25 清掃	3:25 清掃
帰りの 会		3:00	4:00	4:00	4:00	4:00

週時数 29 時間 (ただし1単位時間は 50 分)

★交流及び共同学習

*知的障害特別支援学級と合同学習

◎課題別の学習

6 生徒の障害の状況等

No.	学年	氏名 (生年月日)	年齢	性別	障害の状況 1. 障害の種類 2. 障害の程度 3. 検査等の結果 4. その他	指導の重点	週授業 時数		
							特別 支援 学級	通常 の学級	合計
1	1	〇〇〇〇 (平成〇年〇月〇日)	〇	〇	1. 知的障害を伴う自閉症スペクトラム 2. 学習面においては間違いを指摘されることを特に苦手としているので学習が先に進まないことがある。 好奇心が旺盛でいろいろなことを知りたがる。手先が器用で形をしっかりと捉えてものづくりができる。その一方で、集中することに課題があるので、常時安全面においても配慮が必要になる。 友達の失敗を喜び、拍手をするのでトラブルになることがある。好きな友達には一方的に話をしてかかわろうとする。 頭をかいいたり、鼻をいじったりしていることが多いため他者が不快に思うことについて指導する必要がある。 3. WISC-IV検査(全検査〇、言語理解〇、知覚推理〇、ワーキングメモリ〇、処理速度〇)(平成〇年〇月) 療育手帳〇(平成〇年〇月更新)	・生活に必要な数や言葉の力をつける。 ・すべきことに集中できる力をつける。 ・事実を受け止めて気持ちをコントロールする力をつける。 ・集団生活のスキル(人のかかわり方)を獲得できるようにする。 ・エチケットを意識できるようにする。	28	1	29
		(略)							

7 年間指導計画(別紙参照)→P 4 5

8 個別の教育支援計画と個別の指導計画(別紙参照)→P 4 6～P 4 9

7 年間指導計画（平成○年度 ○○市立○○中学校 自閉症・情緒障害学級年間指導計画 1年 ○○○○）

公共施設の利用や、教育活動の成果物を頒布する機会を通して地域との交流体験を深める。

			4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	
学校行事・学級行事			始業式 入学式 1年校外学習 生徒総会 文化部発表会 終業式 始業式 体育祭 合唱コンクール 競書会 終業式 始業式 3年生を送る会 卒業式 修了式 学級校外学習 プラネタリウム（市内合同行事） バザー 学級校外学習 作品展（市内合同行事） 卒業生を送る会（市内合同行事）									
領域別の指導	特別活動	学級活動	自己紹介 目標 係決め 掲示物作成 校外学習に向けて				体育祭に向けて 夏休みの生活 校外学習に向けて 冬休みの生活				卒業生を送るつどいに向けて 3送会に向けて 一年間の反省	
		交流活動	学年集会参加 1年校外学習参加 〇〇小学校〇〇学級と交流会①				体育祭参加 合唱コンクール参加 〇〇小学校〇〇学級との交流会②				3年生を送る会に参加 〇〇小学校〇〇学級との交流会③	
	自立活動		～1 健康の保持、2 心理的な安定、3 人間関係の形成、4 環境の把握、5 身体の動き、6 コミュニケーション 全教育活動において個別または集団で指導する～ フォルメン線描（直線・斜線） ソーシャルスキルトレーニング 清潔とエチケット フォルメン線描（直線・斜線）（曲線・楕円・半円）									
領域・教科を合わせた指導	日常生活の指導		～衣服の着脱、持ち物の整理整頓、給食、片付け、掃除、係活動、朝や帰りの活動、あいさつ、礼儀、人との対応、登下校の安全、身の回りの衛生、清潔、衣服の調節等を毎日の生活の中で、繰り返し習慣化できるように指導する～									
	生活単元学習		レシピを見て作ろう（調理）【通年】				季節の飾りを作ろう、贈ろう【通年】				好きな本を見つけよう（図書館利用）【通年】 卒業・進級を祝おう	
	作業学習	畑	種子まき・苗の植え付け 除草・追肥・収穫		作物の管理 大根・小松菜・ミズナ		種子まき ハーブ		除草・追肥・収穫 土寄せ堆肥作り		畑の管理 タマネギ ジャガイモの植え付け さつまいも・ピーマン	
		木工	作業の基本姿勢（返事、あいさつ、相談、報告） バザーに向けて（値段設定、販売準備、販売練習、会計） 頒布会実施 安全について 木工製品（鉛筆立て、鍋敷き、マグネット、フック、花台、動物おもちゃ 等）作り【通年】 ⇒ ⇒ ⇒ 新製品を考える									
教科別の指導	国語		文の読解（詩、説明文） 感想を書く 漢字練習【通年】 校外学習の作文				長文の読解（物語） 書写（書き初め、硬筆展課題） 暑中見舞いの手紙 校外学習の作文				百人一首 年賀状の書き方 お礼状の書き方	
	数学		計算【通年】 生活でつかう数学 金銭・時間・長さ・重さ・温度・計算機の扱い方【通年】 平面パズル作り				調理に関する材料計算				立体模型作り	
	美術（切り絵）		切り絵の基本（道具類の扱い・使い方） 切り方の練習				基本的な図形の切り取り（直線中心）				基本的なデザインの切り取り	
	音楽		市民歌 校歌【通年】 季節の歌【通年】				体育祭の歌 合唱コンクールに向けて ⇒ ⇒ ⇒ ミュージックベル【通年】 鑑賞【通年】				卒業生を送るつどいの歌 3送会の歌 卒業式の歌	
	体育		運動に慣れよう 身体操作を身につけよう 縄とび【通年】 ボール遊び【通年】				プールで泳ごう 体育祭に向けて 体力を向上させよう ジョギング【通年】 ストレッチ【通年】				筋力を向上させよう 球技を楽しもう	
総合的な学習の時間（演劇活動）			発声・発音の練習（基本：ことば遊び・作りを中心に） ・強弱・高低・音程・順番・動作などを考慮して 発声・発音の練習（応用：ことば・作り遊びを中心に） 3年生を送る会での劇発表 シナリオ読み・立ち稽古									
交流及び 共同学習	音楽	明るい声で歌おう「校歌」 詩と旋律や音の重なりを感じとろう「赤とんぼ」「浜辺の歌」 学年合唱 自由な表現をしよう 響きのある歌声で歌おう フレーズのまとまりを感じとろう「喜びの歌」「オーラリー」 旋律に表現をつけよう「朝の風に」 日本の音楽を感じとろう「ふるさと」 鑑賞「春」 リズムを創ろう 鑑賞「魔王」 打楽器アンサンブル 鑑賞「（合唱コンクールクラス曲）」 日本の楽器 自由な表現をしよう										

8 個別の教育支援計画と個別の指導計画

教育支援プランA（個別の教育支援計画）

ふりがな		性別	生年月日	取扱注意
本人氏名	〇〇 〇〇	〇	平成〇年〇月〇日	
ふりがな		住所	〇市〇〇 〇〇	
保護者氏名	〇〇 〇〇	TEL	〇〇〇(〇〇〇)〇〇〇〇	
対象期間	平成 年 月 日 () から平成 年 月 日 () まで3年間			
作成年度	学 校 名	校長名	学部・学年・組	記入者名
1 平成〇年度	〇市立〇〇中学校	〇〇〇〇	自閉症情緒障害学級1年	〇〇 〇〇
2				
3				
特別な教育的ニーズ	特定の教科にかかわるニーズではなく、学校生活全般にかかわるニーズを記入する。 ・好奇心旺盛で気になることについてはほとんど知ろうとする。一方で、注意力が散漫になることがあり、すべきことに集中できる力が必要である。 ・間違いをきらい、自分のミスを受け入れられないことがある。事実を受け止めて気持ちをコントロールする力が必要である。 ・特定の友だちに一方的にかかわったり、友だちが失敗した場面で拍手をしたりするなどそのかわり方に課題が見られる。集団生活のスキルを獲得する必要がある。 ・鼻いじりや頭をかくなど衛生面、エチケット面での課題が見られる。将来的に就労をめざすことを意識し、まわりから不快と思われる行動を減らしていく必要がある。			
(追加)				
本人・保護者の願い	・学習面では少しずつレベルアップをしてほしい。 ・生活面では自分のことは自分でできるようになってほしい。 ・人とのかわりにおいて相手の気持ちを考えられるようになってほしい。嫌がっていたらやめられるようになってほしい。 ・生活力の向上。 ・卒業後は特別支援学校高等部への進学を考えている。中学校でも作業の力を身につけてほしい。			
合理的配慮の実施内容	課題や内容に応じた様々なグルーピング P50「教育支援プラン A・B の作成・活用について」を参考に			
(追加)				
教育機関の支援	目標・機関名	目標・機関名	目標・機関名	評価
	所 属 校	・すべきことに集中できる。 ・生活に活かせる基礎学力をつける必要がある。 ・事実を受け止めて気持ちをコントロールすることができる。	・教室の刺激を減らしたり、座席の位置を工夫したりする。名前を呼ぶ・目の高さで話をするなど意識を相手に向けられるよう促す。 ・もっている力をベースに生活場面で活かすことができるような題材や具体物を教材として用意する。 ・本人の気持ちを聞きながら、「よいことはよい」、「いけないことはいけない」ことを伝えていく。	・教員の個別の言葉かけがあれば一定時間活動に集中できるようになってきた。 ・間違いを嫌うためノートや課題プリントでの取り組みはあまり進まないが、具体物を使った課題では思考を繰り返しながら課題解決に取り組めるようになりつつある。 ・自分の間違いに気づき、気持ちが乱れた時には全体の場から教員と移動し、一対一で話しながらクールダウンをすることで自分の状況を振り返り落ち着けられるように

		・集団生活のスキルを獲得する。 ・エチケットを意識して行動できる。	・SSTを取り入れながら友だちや集団とのかかわり方を学べるようにする。 ・本人の行動を指摘するだけではなく、イラストや写真などで客観的にエチケットについて学習できるようにする。できていることを即時評価する。	なった。 ・相手がどう思っているか、感じているかを教員が丁寧に説明することで、自分がとるべき行動について考えようとするようになってきた。 ・エチケットを意識する必要性は理解したものの、無意識に爪かみや鼻いじりは見られる。今後も指導を継続していく。
	(追加)			
	就学支援委員会の助言内容	市就学支援委員会	自閉症・情緒学級での教育的支援が望ましい。	本人の課題を明確にし、特別支援学級の担任・保護者共通理解の元、指導・支援を行うことができた。
	(追加)			
	支援籍、交流及び共同学習	交流学級 1年〇組〇〇学級	1年校外学習、体育祭で交流。 1年〇学級と音楽の授業を受ける。	体育祭では35人リレーに参加できた。音楽の授業では歌唱への参加は難しかったが観賞には周りの生徒と共に興味をもって臨むことができた。
	(追加)			
関係機関の支援		機 関 名	支 援 内 容	
	医療・保健	〇〇医院(〇〇Dr)	成長の確認と多動の薬の処方。	
	(追加)			
	福祉・労働	放課後等デイサービス「〇〇〇」利用	週2回利用。生活経験の拡充。	
	(追加)			
	家庭・地域			
(追加)				
本人のプロフィール	障害の状況		自閉症スペクトラム 知的障害 療育手帳〇	
	これまでの支援内容	生育歴 療育歴 教育歴	〇〇にて療育(〇歳～) 就学前:〇〇保育園(〇歳～〇歳) 小学校:〇〇小学校特別支援学級6年間	
		相談歴 諸検査	WISC-Ⅳ検査(全検査〇、言語理解〇、知覚推理〇、ワーキングメモリ〇、処理速度〇) (平成〇年〇月・〇〇クリニック) 療育手帳〇(平成〇年〇月更新)	
		その他		

教育支援プランB（個別の指導計画）

本人氏名	〇〇 〇〇	学校名	〇〇市立〇〇中学校	取扱注意
学部・学年・組	〇〇〇〇学級	記入者名	〇〇 〇〇	
指導方針	・生活に必要な数や言葉の力をつけられるようにする。 ・すべきことに集中できる力をつける。 ・事実を受け止めて気持ちをコントロールする力をつける。 ・周りの人とかかわる時に相手の気持ちに気づいて適切な言動ができるようにする。 ・将来の就労生活や社会人としての生活を考え、エチケットを意識できるようにする。			
(追加)				
指導に結びつく実態				
1 健康の保持 (日常生活面、健康面など)	・頭をかいいたり、鼻をいじったりしていることがあるのでエチケットについての指導をしていく必要がある。			
(追加)				
2 心理的な安定 (情緒面、状況の理解など)	・間違いを指摘されることが苦手。 ・気持ちをコントロールすることに時間を要する。			
(追加)				
3 人間関係の形成 (人とのかかわり、集団への参加など)	・特定の友だちに一方的にかかわる。 ・友だちの失敗に嬉しそうに拍手をするなど相手の気持ちや状況の把握に課題が見られる。			
(追加)				
4 環境の把握 (感覚の活用、認知面、学習面など)	・好奇心が旺盛である。 ・学習面においては間違いを指摘されることを特に苦手としているので学習が先に進まないことがある。			
(追加)				
5 身体の動き (運動・動作、作業面など)	・手先が器用で形をしっかり捉えてものづくりができる。			
(追加)				
6 コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など)	・嫌なことについては強く拒否する。 ・簡単な言葉で起きたことを大人に話すことができる。			
(追加)				
7 その他 (性格、行動特徴、興味関心など)	・いろいろなことを知っていたり、考えたりすることができるが、集中することに課題がある。安全面においても配慮が必要になる。 ・気持ちを乱したときには大きな声を出したり、ものを投げたりするので教員が1対1で指導する必要がある。			
(追加)				
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法・手だて	評価	
国語	生活に身近な漢字の読み書きができる。	繰り返し取り組むことで着実に身につけられるようにする。	漢字の読み方の習得は順調に進んだが(小2程度)、書きについては間違った場合の教員からの指摘を受け入れられないことが多かった。(小1程度)	
	文章を読み解く力をつける。	ポイントとなるところを細かく区切り、何を質問されているのか理解できるようにする。	個別に言葉をかけて前後の関係を確認することで文章の内容について本人なりの考察を進めることができた。	
数 学	生活に必要な数の知識をつけることができる。 P50「教育支援プラン A・B の作成・活用について」を参考に	具体物を用いて数のイメージをもてるようにする。	プリント学習は苦手としていたが調理実習で使用する材料計算や立体図形の模型を作成する等本人が好きな活動を題材にすることで正誤にこだわらず学習することができた。	
生活単元学習	レシピを見ながら簡単な調理ができる。	簡単なレシピを用意する。	調理活動には常に意欲的に取り組むことができた。衛生面に関する課題は残るので今後も指導を継続する。	

	公共のマナーを守ることができる。	図書館に行く機会を多く設け、場に応じた過ごし方を学べるようにする。	図書館などでは静かに過ごせた。気になることがあると興味がいき、見知らぬ人に話しかけたり道を渡っている途中で立ち止まったりすることもある。今後も校外でのマナーや安全面での指導を継続する必要がある。
体 育	運動を通し体力と筋力をつける。	グループングを工夫し、活動に集中できるようにしながら運動量を確保する。	近くにモデルとなる生徒がいれば様々な活動に取り組めたが一人では難しかった。
美 術	道具を適切に扱いながら制作に集中して取り組むことができる。(切り絵)	カッターやカッター板、課題の扱い方や刃の角度や切る作業の順番などを指示する。複雑なデザイン画や静物画、風景画に取り組む。	カッターを正しく扱い、細かな形でも紙を回しながら形を切り取ることができた。時間いっぱい集中して活動に取り組めた。
音 楽	周りと一緒に合唱や合奏(ミュージックベル)、鑑賞に取り組むことができる。	親しみのある曲を取り上げる。ミュージックベルでは一人一音を担当するようにし、視覚的にベルを鳴らすタイミングを示す。	一曲のうち部分的に歌えた。楽譜通りに音を伸ばすことには課題が見られた。ミュージックベルは自分だけでなく人が鳴らし間違えることも嫌い参加が難しかった。鑑賞は楽器の特徴などにも関心をもって取り組めた。
音楽(交流)	通常学級の仲間と共に音楽活動に取り組むことができる。	座席を前から2番目にし、周りの生徒の動きをモデルにできるようにする。	周りと調和しながら歌唱することは難しかったが、観賞には興味をもってのぞむことができた。
作 業 (木工)(畑)	【木工】教員の名前を呼んで報告や相談ができる。	名前を呼ばないで一方的に話を進めたときは教育的無視をし、何がいけないのか考えられるようにする。できたときには十分にその働きかけに答える。	1年間をかけて担当教員の名前を意識して挨拶ができるようになった。作業については細かな点にも注意を払い、不良品を見つけるたびに報告できた。
	【畑】時間いっぱい周りの人と共に屋外の活動に取り組める。	作業の意味と見通しをもって活動できるように活動をルーティーン化する。	活動内容は理解できたが虫や鳥に注意がいくことが多かった。時間いっぱい活動に参加することは今後も課題として取り組む必要がある。
日常生活の指導	相手にしっかり伝わる返事とあいさつができる。	他のことに気をとられている時にはモデルを示してやり直しをする。	呼名に対しての返事や朝や帰りの挨拶はできるようになってきた。お礼の言葉については自分の要求を満たすことに注意がいき、言えないことが多かった。
	エチケットや衛生面を意識した行動をとることができる。	視覚的によい行いとよくない行いをいつも目にする場所に示す。	よくない行動をしている時に個別に指摘をするとすぐにやめることができた。また、その理由も理解できた。しかしながら、少しするとまた同じ行動をしていることがあった。今後も継続した指導が必要である。
自 立 活 動	一定時間気持ちを落ち着けて活動(線描)に集中して取り組む。	刺激が少ない環境を設定する。否定する言葉は用いないでリラックスできる状況をつくる。	教員のゆったりとした語り口調を聞きながら時間いっぱい集中して取り組むことができた。
	気持ちをコントロールすることができる。	意図的に勝敗がつくゲームなどに取り組む。その際、勝ったとき、負けたときの行動のとり方について事前に考える活動を入れる。	事前に考えることで心の準備をしてその結果を受け入れられることが少しずつ増えてきた。その日のコンディションによるところもある。
総合的な学習の時間	周りと調整しながら考え、判断して活動に取り組む姿が見られる。(演劇活動を題材に行う)	発声や発音にかかわることばを覚え、動きなども加えて、楽しみながら練習ができるようにする。	1年間順序立てて繰り返し取り組むことで周りの動きに気づき活動に入ることができるようになってきた。一人で言う場面では教員の個別の言葉かけが必要になった。

埼玉県・・・個別の教育支援計画＝教育支援プランA

個別の指導計画＝教育支援プランB

<<作成について>>

内容に変更があったら、随時書き足していく。

プランBの「指導に結びつく実態」を先に作成すると、児童生徒の課題やニーズが見えてくるため、プランAの「教育的ニーズ」が作成しやすい。

<<活用について>>

プランAとプランBは、面談の時に資料として保護者に提示して、内容を確認する。

進級、進学の際には、児童生徒の引継ぎ資料として活用する。また、交流の際には情報提供の資料として活用できる。

教育支援プランA（個別の教育支援計画）

ふりがな		性別	生年月日	取扱注意
本人氏名		住所		
ふりがな		TEL		
保護者氏名				
対象期間	平成 年 月 日（ ）から平成 年 月 日（ ）まで3年間			
作成年度	学 校 名	校長名	学部・学年・組	記入者名
1				
2				
3				
特別な教育的 ニ ズ				
（追加）				
本人・保護者の 願 い				
合理的配慮の 実 施 内 容				
（追加）				
教育機関の支援		目 標 ・ 機 関 名	支 援 内 容	評 価
	所 属 校			
	（追加）			
	就学支援委員会 の助言内容			
	（追加）			
	支援籍、交流及 び共同学習			
（追加）				
関係機関の支援		機 関 名	支 援 内 容	
	医 療 ・ 保 健			
	（追加）			
	福 祉 ・ 労 働			
	（追加）			
	家 庭 ・ 地 域			
（追加）				
本人のプロフィール	障害の状況			
	これまでの支援内容	生育歴		
		療育歴		
		教育歴		
	相談歴			
	諸検査			
	その他			

当初立てた計画から変更があった場合、（追加）の欄に書き足す。※記入年月日を入れる。

障害名、手帳の種類（取得年月日）、発作服薬の状況 等を記入する。

生育歴・療育歴・教育歴は、できるだけ細かく期間も記入する。

検査については、実施日、実施機関も記入する。

教育支援プラン B（個別の指導計画）

本人氏名		学校名		取扱注意
学部・学年・組		記入者名		
指導方針				
(追加)				
指導に結びつく実態				
1 健康の保持 (日常生活面、健康面など)	プラン A の「特別な教育的ニーズ」及び、プラン B の「指導に結びつく実態」については、肯定的な表現とする。	児童生徒の変容は、(追加)欄に書き足す。		
(追加)				
2 心理的な安定 (情緒面、状況の理解など)				
(追加)				
3 人間関係の形成 (人とかかわり、集団への参加など)				
(追加)				
4 環境の把握 (感覚の活用、認知面、学習面など)				
(追加)				
5 身体の動き (運動・動作、作業面など)				
(追加)				
6 コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など)				
(追加)				
7 その他 (性格、行動特徴、興味関心など)				
(追加)				
学期ごとに評価を行い、記入する。				
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法・手だて	評価	

「目標」は行動を客観的に評価しやすい記述が望ましい。
 ×「楽しく」「楽しむ」「自分なりに」

↓
 何を以て、児童生徒が「楽しい」と感じているのか。明確な判断基準を示すようにする。

3 学習指導案例

(1) 教科別の指導 (小：国語・中：音楽)

小学校 知的障害特別支援学級

〇〇〇学級 教科別の指導「国語」学習指導案

ここに注目!!

●絵カード、文節カードの使用など、活動に興味をもつ工夫。

●児童の実態に合わせた工夫。個別プリントの用意など。

※80ページの様式参照。



〇〇年〇月〇日() 〇校時
在籍児童数 3名
指導者 〇 〇 〇 〇

1 題材名 文作りパート2「だれがなにをした」

2 題材について

(1) 児童観

本学級は、4年生1名・5年生2名(うち1名難聴児童)からなる知的障害特別支援学級である。教師の話の聞こうとしたり、学習に臨もうとしたりする態度が身につけており、一斉学習を行うことの可能な集団である。児童の言語活動の様子を見ると、「話すこと」は、互いの会話は多いが1～2語文が多い。また、助詞が使用されず名詞が多いことが見受けられる。日常生活の中では、そういった会話に加え、身振り手振りやしぐさでコミュニケーションを図っている。

「書くこと」では、「～をしました」という日記形式の文を書ける児童もいるが、1～2文で終わってしまい、教師が話を聞き出すなどの支援が必要である。また、促音・拗長音を含む単語は、読むことができて、記述は誤りが見られることが多い。

反面、生活の中での「聞くこと」での理解はある程度できている。また、平仮名の読み書き・簡単な漢字の読み書きは、どの児童もある程度習得できており、短い文を読むこともできる。文章表現力より文章理解力が勝っているといえる。よって、3文節・4文節の構文の学習をいろいろなやり方で進めるとともに、3～4語文の形で言うことに慣れたり、文章に表現する場を多く持つことにより、日常生活での言語がさらに豊かになるのではないかと考え、本題材に取り組むこととした。

(2) 教材観

この「文作り」の題材では、文のパターンを学ぶことを念頭に置き、いくつかの内容や方法で学習することとしている。パート1では2語文を取り上げ、主に「～は～です。」「～が～します。」の文について、自分のことについて書いたり絵を見て文を言ったりする活動をした。本単元のパート2では、①文を読み、動作化する②動作の様子を見て、文で表す③文カードと絵カードを用意し、文と絵をマッチングする④ばらばらの単語カードや文節のカードを組み合わせて文を作る⑤単語を1つ(ないし2つ)入れて文を書く⑥文を見て正しく書き写したり、教師がゆっくり読むのを聞いて正しく書く⑦したことや自分のことを見本を見て簡単な文に書く、などである。これらを繰り返し行っていく中で、徐々にヒントや教師の支援を少なくしていき、自力で取り組めるようにすることもねらいとした。

①の動作化は、互いが実際にいろいろな仕草を行うことで、楽しみながら興味を持って取り組めると考える。②は①の動作化と共に行い、文のパターンに合わせて言う練習をしていく活動である。③④の活動では、絵で表されたものと実際の文とを結びつけていく練習である。⑤⑥⑦の文を書く活動については、児童の状況を見て取り入れ、今後も継続指導していきたいと考えている。

(3) 指導観

本学級での国語の学習形態は、集団で活動する時間と個人の課題に取り組む時間とを取り入れている。また、いくつかの内容を組み合わせ、1単位時間の授業を構成している。本単元でも、文作りのみ行うのではなく、児童の語彙力を伸ばしたり、楽しんで聞いたり考えたりできる短い学習を取り入れて、興味関心が持続するようにした。「文作り」の指導にあたっては、ヒントとなるもの(絵カード・用具類)を多く用意し、実際の場面を想定しながら、自然に文作りができるようにしていきたい。また、課題として与える文や個別のプリントは、個々の文章理解や文章表現力に合ったものを用意し、意欲を持って取り組めるようにしたい。そして順番に行い、友達の活動を見合うことで、学習したことを確認したり、互いに賞賛して認め合う雰囲気を作ったりしていきたい。

3 題材の目標

- (1) 文作りに興味を持ち、文で書かれた内容を理解したり、文で表現したりしようとする。
- (2) したことや自分のことを、簡単な文章に表すことができる。

4 題材の指導計画（5時間扱い）本時 5 / 5

時 間	主 な 学 習 活 動	ね ら い
1	- 絵カードを見て動詞の確認をする。 - 絵を見て2語文とマッチングする。 2語文を読み、動作化する。 - 動作化した文を書き写して、読む。	- 動作で表したり、具体物を使ったりし、実生活に即した文を作ることができる。 - 互いに見合ったり、教え合ったりしながら、良いところを見つけることができる。
2	- 文節カードを組み合わせて、絵に合った文を作る。 - 文を見て正しく書き写したり、教師がゆっくり読むのを聞いて書く。	- 絵を見て文に表したり、見本を正しく書き写したりできる。 - 表記の間違いを教師と一緒に読みながら確認して訂正できる。
3	3語文を読み動作化し、動作の様子を見て、文で言う。 3語文カードと絵カードを見てマッチングする。 - 文節カードを組み合わせて、絵に合った3語文を作る。	- 課題文を取るゲーム的な活動として取り組み、楽しく活動できる。 - 間違えた場合は、他の児童に問いかけたりもう一度確認したりして正しく行うことができる。 3語文を読むことや表現することに慣れる。
4	3語文を読み動作化し、動作の様子を見て、文で言う。 - 絵を見て、3語文を書く。 - したことや自分のことを見本を見て簡単な文に書く。	- 実態に合わせたプリントを選択し、記述することができる。 - 友達に手紙としてあげることで、目的意識を持って書くことができる。
5	3、4時間目の内容を繰り返して行う。 - したことや自分のことを見本を見て簡単な文に書く。	- 前時までの活動を想起しながら、取り組むことができる。 - 前時までに取り組んだプリントや内容を理解しさらに高次の内容に挑戦する。

生活単元学習「〇〇会をしよう」
〇〇会の招待状を書いたり、終了後の感想を書いたりする活動に取り組む。

日常生活の指導
帰りの会の「今日のできごと」や一言作文等で話型の学習。

5 本時の指導

(1) 共通目標

- 文作りに意欲的に取り組み、3語文の内容を理解したり、3語文で表現したりしようとする。

②個人目標

氏名	本題材に関わる実態	本時の目標
A	- 絵と動詞を結びつける課題は約7割正答できる。 - 絵を見て「～が～します」の文作りは主語を教師が提示し、述語を答えるやり方で完成した。 「いつ」「どこで」等の問いに答えられることもあるが、曖昧なこともある	- テーマに沿った物の名前を考えることができる。 - 楽しみながら、文作りの活動に取り組むことができる。 - 日記を書くことができる。
B	- 動詞の理解が不十分で、絵と動詞を結びつける課題は約5割の正答である。 - 絵を見て「～が～します」の文作りは主語述語のみの文（お姉さんが洗う等）を書いている。 - したことを話すときは単語と身振りで伝える。	- テーマに沿った物の名前を考え、進んで発表する。 - ゆっくりはっきりした発音を心がけながら、文を読んだり作ったりできる。 - 適切な動詞の活用について知る。 - 日記を書くことができる。
C	- 絵と動詞を結びつける課題はほぼ正しく答える。 - 絵を見て「～が～します」の文作りは	- テーマに沿った物の名前を考え、進んで発表する。 - これまでの学習を想起しながら、自分

	目的語の入った文を書いた。 ・短い文章を読んで「いつ」「どこで」「誰が」の問いに答えることができる。 ・したことを文で話すことは苦手な答えを促したり選択肢を与えたりしている。	から文を作ったり書いたりする活動に取り組むことができる。 ・修飾語のついた文や4語文について内容を理解したり表現したりできる。 ・自信を持って答えたり進んで発表したりできる。 ・日記を書くことができる。
--	---	--

(2) 展開

学 習 活 動	○教師の支援 ・留意点 ＊評価			資料等
	A	B	C	
1 挨拶をする。 2 「国語の歌」を歌う。 3 今日の学習内容を聞く。 4 『パッと言う』をする。 5 しりとりをする。 6 『だれがなにをした』の文作りをする。 ①書かれた文を読み、動作化する。他の児童は文で言う。	○姿勢を確認し、背筋をのばして挨拶するよう声がけする。 ○歌の途中に入れる単語を（○のつく言葉）一人ずつ考え楽しい雰囲気の中で歌えるようにする。 ○カードを提示し、見通しを持ちやすくする。 ・「食べ物」「乗り物」「動物」などの項目を提示し、順番に答えさせるようにする。 ○教師と掛け合いの形で行い、雰囲気を盛り上げるようにする。 ○なかなか思いつかないときは、カードの裏の絵をヒントとして見せたり、友達の言ったものを答えたりしてもよいことを告げる。 ＊テーマに沿った言葉を考えて言うことができたか。 ○互いに教え合って答えることも認めるようにする。 ・個々に箱を用意し、実態に応じた課題文（窓をあける等）の紙を入れておく。 ・順番に、課題文を見て動作化をさせる。他の児童はそれを見て「～が～した（する）」の文で表せるよう見本をみせる。			C D ラジカセ カード カード（裏に絵） <

7 日記を書き、ポストを使ったやりとりをする。	・作った文をみんなで読んだり、絵と見比べて確認したりする。 ○全文書く・主語や述語など一部を書くなど個々のプリントを用意する。 ○必要に応じ、「誰がしているのか」等聞いたり、ヒントとなる絵の箇所を指し示したりして支援する。			ヒント 個別の手紙プリント お手紙ポスト
	・「今日の給食」「今日の勉強」などのテーマを与え、見本を見て簡単な文を書かせる。 ○意欲化を図るために友達にあげる形式にし、書いたものには友達の名前を書いて、お手紙ポストに入れる。			
8 まとめをする。 9 挨拶をする	○書くことが思い浮かばない時には予定表や献立表を見て思い出したり選択したりできるようにする。 ○主語と目的語の部分を書く形式を用意する。 * 日記を書くことができたか。	○知っている漢字は使うように言葉がけをする。 ○書いたものをゆっくりはつきり読み返し、確認をさせる。 ○主語・目的語・述語を書く形式を用意する。 * 日記を書き、習った漢字を使うことができたか。	○知っている漢字は使うように言葉がけをする。 ○気持ちを表わす文は質問したり選択肢を与えたりして書き易くする。 ○読み返し、脱字の確認をするよう促す。 * 日記を書き、習った漢字を使うことができたか。	
	・本時の学習を振り返り、がんばったことを発表させる。 ・互いにがんばったことを認め合い、賞賛できるようにする。 ○日直の号令で、大きな声で挨拶するよう声がけする。			

6 評価

(1) 共通目標に関わる評価

- ・文作りに興味を持って取り組むことができたか。
- ・3語文の内容を理解したり、表現したりすることができたか。

(2) 個別の評価

氏名	個人目標に関わる評価
A	・課題文を読み、動作化することができたか。 ・友達の様子を文で表そうとしていたか。 ・日記を書くことができたか。
B	・課題文を読み、動作化することができたか。 ・友達の様子に動詞を当てはめ、文で言うことができたか。 ・日記を書き、習った漢字を使うことができたか。
C	・課題文を読み、動作化することができたか。 ・友達の様子を文で正しく言うことができたか。 ・日記を書き、習った漢字を使うことができたか。

〇〇〇学級〇グループ 教科別の指導「音楽」 学習指導案

ここに注目!!

- 演奏している実感を得られるミュージックベルの合奏指導。
- 「仲間が鳴らす音を感じる」
～他者を意識して合わせる合奏指導～
- ※ 80ページの様式参照。



日 時 〇〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
場 所 特別支援学級教室 2
指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 題材名 「冬の曲を演奏しよう (ミュージックベルによる合奏)」

2 題材について

(1) 学級及び生徒の実態

本グループは知的障害学級に在籍する1年生2名、2年生1名、3年生1名で編成されている。個々の実態は様々であるが、いずれも健康であり、自分ができることは一生懸命に取り組もうとすることができる。また、互いを意識し、人のことを気遣ったり、遊びに誘ったりするなど良好な関係を築くことができる。言語理解や表出、集中の持続に課題はあるが、「できる状況作り」をすることで活動に参加できる。

(2) 題材について

本校の特別支援学級全体では週1時間音楽専科の教師とのティームティーチングで音楽の授業を行っている。そこで扱う題材は歌唱が中心である。校歌や市民歌、コンクールに向けての合唱曲、卒業式の歌などの行事にかかわる歌唱を行う。これらの取り組みは行事に向けたものとして必要不可欠であり、有意義である。しかしながら本グループの生徒には、中学校で扱う曲のリズムやメロディーを意識して歌うことが難しい、言語表出の困難さが起因してみんなで歌う達成感を感じるなどが難しいなどの課題がある。

そこで今年度は、本グループ独自の音楽の授業を設け、自分たちでメロディーを奏でることができるよう、ミュージックベルに取り組むようにした。

うまく言語表出ができない生徒には参加が難しい歌唱に比べ、ミュージックベルは教師が示すタイミングに合わせ1本または2本のベルを鳴らすことで容易に誰もが活動に参加できる。心地よい音色の中で自分自身が演奏している実感を得られると同時に、仲間が鳴らす音を感じることで他者のことも意識することができる。また、合奏をする際に常にまわりの音や教師の指示に注目する必要があるので集中力を養うことができる。うまくできたのか、あるいはできなかったのかという結果もわかりやすい。はじめはタイミングをうまく合わせるができなかった生徒も集中して取り組むことでできるようになり、親しみのある曲をみんなで演奏できる本題材を楽しみにするようになってきた。

(3) 指導・支援について

指導にあたっては生徒個々の実態を的確に把握して行う。ベルは生徒の実態に応じて一人一音もしくは二音を鳴らせるようにする。一つの音を一人の生徒が担当し、自分が音を鳴らすことで曲が成立するという実感をもてるようにしたい。また、楽譜は色の弁別ができれば理解できるものにし、曲によっては五線譜を用いて一般的な「音楽」のイメージを意識できるようにする。準備や片付け、ベルの交換は自分で全てできるように、役割分担を明確にしたり、色を統一するなど視覚的な支援を行うようにしたりする。メンバー全員が教員や仲間の助けを必要とせずに主体的に活動できるようにする。

3 題材の目標

- (1) 表現の能力を培い、音楽についての興味や関心を深める。
- (2) 他者の音を意識することで、仲間と音楽を演奏する楽しさを知ることができる。

4 指導計画

教科別の指導「音楽」(ミュージックベル)

【ミュージックベルを鳴らしてみよう「練習曲」】

ベルの操作の仕方、授業のルール、楽譜の見方、準備片付けの確認

【曲に挑戦してみよう「鐘の音」】

担当ベルの確認、演奏

【ミュージックベルでお祝いしよう「ハッピーバースデー」】

担当ベルの確認、リズムの確認、演奏

【夏の曲を演奏しよう「遠き山に日は落ちて」】

担当ベルの確認、リズムや早さの確認、演奏

【長い曲に挑戦しよう「アメージンググレイス」「ふるさと」】

担当ベルの確認、楽譜の見方の確認、演奏

教科別の指導「音楽」

音楽専科とティームティーチングで歌唱を中心に学習

合唱コンクール参加
△△総合文化センターにて発表

過程	学習内容	ねらい	時間
I	冬の曲を演奏しよう 担当音の確認	・季節の曲を確認できる。 ・自分が担当するベルや準備片付けの担当を確認し、活動に見通しをもつ。	1
II	冬の曲を練習しよう 練習曲 きらきらぼし あわてんぼうのサンタクロース	・周りテンポを合わせることでうまく演奏ができることがわかる。(きらきらぼし) ・曲調を感じることができる。(あわてんぼうのサンタクロース)	5 本時 5/5
III	発表しよう	・発表をし、評価を受けることで達成感を感じることができる。	1

教科別の指導「音楽」でミュージックベルを継続して学習

教科別の指導「音楽」で歌唱

生活単元学習「〇〇学級と交流しよう」でミュージックベルを発表

5 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 表現する能力を培いながら、みんなで曲の最後まで合わせることができる。
- ② 準備・片付けの活動に仲間と協力をしながら、主体的に参加することができる。

(2) 生徒の実態

No.	学年	名前	本題材に関する実態
1	1	A	・色別の楽譜（音ごとに色を塗り分けたもの）を用意することでその意味を理解して演奏ができる。言葉かけがあれば準備片付けをすることができる。 ・音楽を楽しむ習慣がついている。ピアノを習い週に1回レッスンに通っている。帰宅後はダンスのビデオを観ては室内で音楽に合わせて踊っている。
2	1	B	・教員の指示を概ね理解できる。教師が頻繁に言葉をかけることで活動に集中する。言葉かけがあれば準備、片付けを最後まで行うことができる。 ・音楽の授業（歌唱）によく取り組んでいる。リズムはうまく合わせられる。
3	2	C	・個別の支援（言葉かけや合図、手をとって一緒に鳴らすなど）があればベルを鳴らすことができる。授業の準備や片付けを率先して行う。 ・日頃から音楽に親しんでいる。「きらきらぼし」が好きである。
4	3	D	・ミュージックベルには3年間継続して取り組んできた。曲によっては4本のベルを操作することができる。授業の準備は率先して行なうことができる。 ・音楽の授業（歌唱）では歌詞を覚えることに数ヶ月かかり、苦手意識がある。

(3) 個別の指導内容及び目標

No.	学年	名前	具体的な指導内容	個人目標
1	1	A	・ベルを全体に合わせて鳴らす。 ・自分の役割（準備、片付け）を果たす。	・遅れることなくベルを鳴らすことができる。 ・言葉を受けて分担されている用具の準備や片付けができる。
2	1	B	・曲の最後まで集中してベルを鳴らす。 ・準備、片付けに気付いて自分から行動する。	・1曲を通して教員の指示に集中し、拍に合わせてベルを鳴らすことができる。 ・自分で気づいて机を並べることができる。
3	2	C	・テンポの変化に応じてベルを鳴らす。 ・自分の担当の仕事をやりきる。	・教員の指示を見て聞いて、ベルを鳴らすことができる。 ・他の人の仕事ではなく、自分の仕事（楽譜の用意）に専念することができる。
4	3	D	・周りの音をよく聴く。 ・リーダーとしての役割（号令、準備、片付けを進んで行う）	・周りの音を聴いて、タイミングよくベルを鳴らすことができる。 ・リーダーとして周りを見ながら準備や片付けができる。

(4) 展開

時間	学習内容	○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示・発語等 ※支援の手だて *評価の観点				資料等
事前	1 準備をする。	A	B	C	D	・指示棒 ・ベル ・楽譜 ・メトロノーム ・カード ・マット ・掲示物
		□次はベルの時間であることを告げる。 ○自分の仕事分担にとりかかる。 ◎休み時間の活動を続ける。 ※マットを持ってくるよう伝える。 *言葉を受けて全員のマットを運んで配ることができたか。 ◎休み時間の活動を続ける。 ※仕事分担は何か考えられるような言葉かけをする。 *全員分の机を並べることができたか。 ◎他の人の道具も用意しようとする。 ※自分の分だけをすることを告げる。 *自分の仕事だけ行えたか。 ◎ベルを用意する。 ※仕事にとりかかっていない生徒がいれば声をかけるよう伝える。 *周りへの声かけができたか。				
1分	2 あいさつをする。	□着席を見届け、リーダーDに号令を促す。 ○リーダーDの号令で授業を始める。 ※教師に視線を向け、声を出すよう言葉かけをする。				
3分	3 本時の流れを知る。	□曲名を板書、目標「最後までみんなであわせよう」を掲示し、注視を促す。 ○黒板を注視し、今日の授業の内容を理解する。 ※曲名は平仮名で表記し、目標はイラスト入りの掲示物を用意する。				掲示物 「最後まで…」
10分	4「練習曲」 (1)ベルを用意する。 (2)演奏をする。 合奏 ↓ 4人が順々に独奏 ↓ 合奏	A	B	C	D	楽譜 掲示 メトロノーム
		□自分のベルは自分で用意しよう。 □みんなの音、メトロノームの音を意識して息を合わせて演奏しよう。 ○自分の担当のベルを用意し、教師の指揮で演奏する。 ◎Bに促されて自分のベルを用意する。少し遅れがちになるが指示棒に合わせて演奏する。 ※視線で合図をして鳴らすタイミングを示す。 *自分でベルを用意できたか。教師の合図を見ることができたか。 ◎カードを見ながら自分のベルを用意する。演奏は集中が途切れて遅れがちになる。 ※本人の番になったら名前を呼んで注意を促す。 *教師の呼びかけで集中して演奏できたか。 ◎ベルを用意するよりも先に楽譜の掲示をしようとする。ソロパートの演奏は時々ベルを鳴らせない。 ※すべきことを本人に考えるように促す。 *自分のベルを用意できたか。 ◎速やかにベルを用意し、教師にそれを見せる。教師の指揮に合わせて演奏できる。 ※できていることをその場で「さすがリーダー」と評価する。 *リーダーとしてその後に好ましい行動ができたか。				

15分	5「きらきらぼし」 (1) ベルを用意する (2) 演奏 J=72 ↓ J=132 までテンポを徐々に上げ、それに合わせて演奏する ↓ J=56 に合わせて演奏する	A ☐ カードを見てベルを交換しよう。(支援の手立てと評価の観点「練習曲」と同じ) ☐ テンポの変化を意識して演奏しよう。 ☐ 自分の担当のベルを用意し、教員の指揮で演奏する。	B ☐ テンポが上がると鳴らすタイミングが遅れる。 ※直前に合図を送る。 *合図に気づいて曲の途中でタイミングを修正することができたか。	C ☐ 時々鳴らし忘れることがある。 ※集中が途切れていることを指摘する。 *教員の指摘を理解して再度集中を意識することができたか。	D ☐ テンポが上がると鳴らせないことがある。 ※直前に合図を送る。できた時にその場で評価し、自信をもてるようにする。 *タイミングを合わせられたことに自分で気づいたか。	楽譜揭示
14分	6「あわてんぼうのサンタクロース」 (1) ベルを用意する (2) 演奏 練習(座ったまま) 本番(立つ)	☐ カードを見てベルを交換しよう。(支援の手立てと評価の観点「練習曲」と同じ) ☐ 楽しい感じの曲調を意識して演奏しよう。 ☐ 最後は今日の本番です。立って演奏しよう。 ☐ 自分の担当のベルを用意し、教員の指揮で演奏する。	☐ 周りに合わせて演奏できる。 ※四分音符の担当にする。個別に合図を送る。 *タイミングよくベルを鳴らせたか。	☐ 集中が途切れて鳴らし忘れが目立つ。 ※授業後半に集中が続かなくなることがあるのを個別に言葉かけをする。「集中」の掲示物を掲示する。 *掲示物を見て気持ちを引き締めることができたか。	☐ 楽しい曲調にのって先走ってベルを鳴らしてしまう。 ※連続(JJJ)で鳴らす音の担当にする。鳴らす直前に合図を送り、できたときはその場で評価する。 *曲に合わせてリズムよくベルを鳴らせたか。	楽譜揭示 掲示物 「楽しい音」 「集中」
2分	7 本時の振り返りをする。 次時の内容を知る。	☐ 最後までみんなで曲をあわせることができましたか。 ☐ 次の時間は保護者会で見せるためにビデオ撮影をします。 ☐ 教員の話聞き、次時の見通しをもつ。 ※どの曲も最後までみんなで演奏できたこと、それぞれの目標に対する評価を行う。				

1分	8あいさつをする。	☐ 着席を見届け、リーダーDに号令を促す。 ☐ 挨拶のあとはそれぞれの担当の片付けをするよう伝える。 ☐ リーダーDの号令で授業を終える。 ※教員に視線を向け、声を出すよう言葉かけをする。			
4分	9片付けをする。	A	B	C	D
		○自分の仕事分担にとりかかる。			
		◎周りを見て片付けを始める。 ※具体物を通して言葉をかける。 *言葉を受けて全員のマットを片付けることができたか。	◎座席をもとに戻す。 ※できていることをその場で評価する。 *全員分の机を元の通りに並べることができたか。	◎他の人の道具も片付けようとする。 ※自分の仕事は何かを考えられるような言葉をかける。 *自分の仕事だけを行えたか。	◎ベルを全部片付ける。 Cに道具を片付けるように言う。 ※リーダーとして活躍していることを本人と周りに伝える。 *リーダーの自覚ができたか。

6 評価

(1) 共通目標に係る評価

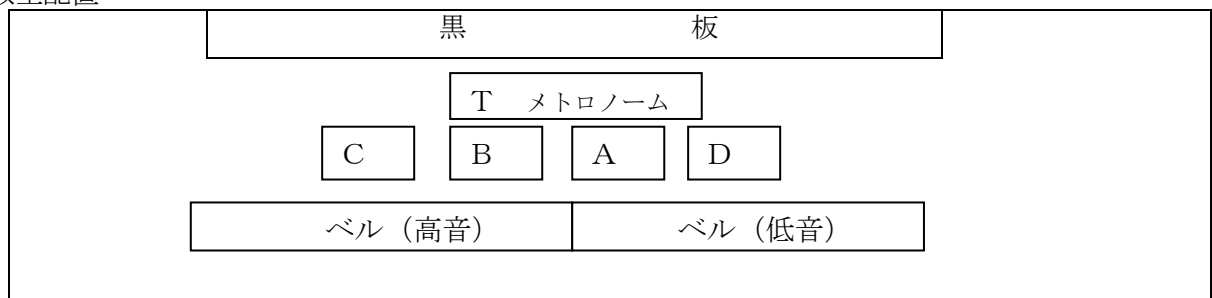
- ① それぞれが活動に集中し、各曲の最後まで通して演奏することができたか。
- ② 準備、片付けに主体的に取り組むことができたか。

(2) 個人目標に係る評価

No.	学年	名前	評価
1	1	A	・周りの音をよく聴いたり、教員の合図をよく見たりして遅れることなくベルを鳴らす姿が見られたか。 ・自分が使用するベルを用意することができたか。
2	1	B	・教員の言葉かけを受けて曲の最後まで集中して演奏を続けようとする姿が見られたか。 ・自分で気づいて休み時間のうちに机を並べる（片付ける）ことができたか。
3	2	C	・教員の言葉かけや合図を意識して先走らないように演奏しようとする姿が見られたか。 ・自分の仕事を言われたとおりに行うことができたか。
4	3	D	・「みんなで合わせよう」の意味を理解して、メトロノームや教員の指示をよく見聞きして合わせようと努力する姿勢が見られたか。 ・準備、片付けではリーダーとして仲間に声をかけることができたか。

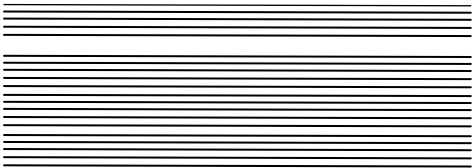
7 教室内環境図等

①教室配置



②板書計画

(楽 譜)



1 れんしゅう
2 きらきらぼし
8 あわてんぼうのサンタクロース

さいごまでみんなであわせよう

楽しい音

集中

③準備物

ミュージックベル2セット、楽譜（息を合わせる練習、きらきらぼし、あわてんぼうのサンタクロース）、マグネット、マット4枚、音カード、スティック、メトロノーム、生徒用机4、生徒用机4、掲示物、指示棒

8. 教材・教具



ベルの色とリンクした色別の楽譜



板書（掲示物）



色別のベル・高音にはチェック柄のシール



めくり式のカード（曲ごと）



カードの色はベル、楽譜と同じ

〇〇〇学級「自立活動」学習指導案

ここに注目!!

- 個別で行う自立活動の指導。
- 年間を通した計画に基づく、実態に合わせた指導。
- ※80ページの様式参照。



日 時：〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)
 第〇校時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
 場 所：〇〇〇
 授業者：教諭 〇〇 〇〇

- 1 主題名 「コミュニケーション力を高めるための学習」
 2. 心理的な安定 (1) 3. 人間関係の形成 (1)
 6. コミュニケーション (5)

- 2 対象児童 小学校〇年 男子

3 児童の実態

本児は、自閉症・情緒障害特別支援学級に入級し、3年目となる。自立活動（時間における指導）は、週3時間行っている。

語彙が少ないことから、自分なりの解釈をしてしまい、失敗してしまったり、できなかったりすることが多い。また、言葉での指示だけでは何をすればよいのか分からないことがあるため、具体物や体験を通して、理解することができる。

友達と楽しく遊びたい、話をしたいという思いがあるが、言葉のやりとりの中で状況や相手の意に添わないような言動をとり、相手を怒らせてしまったり、言い合いになってしまったりすることがある。やり取りの形が決まっている場合や大人とのやり取りでは、トラブルになることは少ない。

話を集中して聞くことが難しく、教師の説明を最後まで聞けずに、途中で離席をしてしまったり、聞く姿勢が崩れてしまったりする。そのため、端的に伝えること、本児が集中できる時間に合わせて、学習形態を変えながら活動をする、落ち着いて取り組むことが多い。

4 指導観

授業中や教師や大人とのやりとりでは、本児も聞き方や話し方について気を付けながらできるようになってきているが、休み時間の友達とのやりとりでは、まだ相手の気持ちを察することができないような発言をしてしまったり、時折手が出てしまったりすることがある。そのため、学級の児童とのトラブルにつながっていることが多い。そこで、友達とのやり取りを一对一で望ましい形でできるようにしていきたい。その後、3人程度の小グループで友達の話の聞いたり、自分の考えを話したりすることを目指したい。

また、集中できる時間はしだいに長くなり、切り替えも少しずつできるようになってきている。しかし、新しいことに対しての抵抗感や不安も見られ、初めての活動にはスムーズに入れないこともある。今後も継続して見通しが持てるようにすることや課題設定を工夫することで、安心して生活ができるようにしていきたい。

そこで、自立活動の時間における指導では、ソーシャルスキルトレーニングのための絵カードを活用しながら、その場面を想像し、本児の考えを聞く。場面を想像しにくい場合は、教師が補助的に説明を加えながら、やり取りをする。そして、教師と本児で一对一のやり取りができるようになってきたら、学級の友達とのやり取りを通して、日常生活でも意識して取り組ませる。

また、さまざまな学習活動を展開することで、本児が集中して取り組み、できることを増やす。そのことによって自己肯定感を高め、自信をもたせる。時間における指導では、学習の流れを毎回同じ展開し、本児が見通しをもって安心して活動できる。

5 指導目標

- ・場に応じた言動を考えることができる。
- ・見通しを持って課題に取り組むことができる。

6 教材観【*数字は、自立活動の内容】

○あいさつ【2 (1)・3 (1)・5 (1)・6 (1) (2)】

姿勢を整え、適切な声の大きさであいさつをすることをねらいにしている。

○課題の確認【2 (1) (2)・3 (3)】

本時のスケジュールを書き、見通しを持つことをねらいにしている。

○バランスボール【4 (1)・5 (1) (3) (5)】

動きの緩急やバランスをとることなどボディ・イメージを整えることをねらいにしている。

○迷路【2 (1)・3 (3)・4 (5)】

見通しや衝動性を抑えることをねらいにしている。

○ソーシャルスキルトレーニング【2 (1)・3 (1) (2) (3)・6 (1) (3) (5)】

場に応じた状況判断や言動を考えることをねらいにしている。

○パズル【2 (1)・3 (3)・4 (5)】

切り換えや集中力を高めることをねらいにしている。

○ふりかえり【2 (1)・3 (1) (2) (3)・6 (1) (3) (5)】

課題について自己評価することをねらいにしている。

7 本時について

(1) 本時の目標

- ・自分の考えを言うことができる。
- ・スケジュール通りに課題に取り組むことができる。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	学 習 内 容	指導上の留意点 *支援 ◎評価	教材・教具
2	1 声の大きさに留意して、号令をかける。	・挨拶の仕方	*立ち位置に足型を置く。 *視覚的にわかりやすいようにボイスルーラーを活用する。 ◎適切な声の大きさであいさつすることができる。	足型 ボイスルーラー
3	2 本時の流れを確認し、プリントに書く。	・学習の見通し	*書きやすいマスの大きさにする。 ◎見通しを持つことができる。	スケジュールボード プリント
8	3 体の中心や姿勢を意識してバランスボールに取り組む。	・姿勢の整え方	*見本となる絵や動きを示す。 *静止する動きでは、わかりやすいようにお手玉を頭の上に押せ、動かないことを可視化する。 ◎見本通りの動きができる。	バランスボール お手玉
10	4 速さに留意し、プリントに取り組む。課題が終わったら、「できました。」の報告をする。	・課題への取組 (プリント学習)	*「ゆっくり書く。」ということを、「壁にぶつからないように。」と置き換えて伝える。 ◎壁にぶつからないように書くことができる。	プリント
7	5 本児童なりの理由を聞きながら話し合う。	・自分の考えの伝え方	*児童の意見を聞きつつ、正しい言動に導いていく。 ◎自分の意見を言うことができる。	ソーシャルスキルトレーニングのための絵カード等
7	6 決められた時間で終わりにできるように、タイマーをセットし、途中でも切り替える。課題が終わったら、「できました。」の報告をする。	・課題への取組 (パズル)	*時間の確認を一緒に行う。 ◎途中でもやめることができる。	パズル タイマー
5	7 本時の課題について、自己評価を行う。	・学習の振り返り	*自己評価しやすいように基準を明確にする。 ◎自己評価できる。	プリント
3	8 立ち位置を決める。 ボイスルーラーを見ながら、声の大きさを考えて行く。	・挨拶の仕方	*立ち位置に足型を置く。 *視覚的にわかりやすいようにボイスルーラーを活用する。 ◎適切な声の大きさであいさつすることができる。	足型 ボイスルーラー

(3) 評価

○児童の評価

- ・自分の考えを言うことができたか。
- ・スケジュール通りに課題に取り組むことができたか。
- ・1つ1つの課題について、自己評価することができたか。

○指導方法や教師の手立てについての評価

- ・環境設定や支援の仕方は適切であったか。
- ・目標に対しての有効な内容であったか。

○本時の目標の妥当性についての評価

- ・児童の実態から見て、目標設定は妥当であったか。

8 教材教具の紹介

スケジュールボード



足型



タイムタイマー



ボイスルーラー



〇〇〇学級「自立活動」学習指導案

ここに注目!!

- 集団でソーシャルスキルトレーニングを行う自立活動の指導。
※80ページの様式参照。



日 時 平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
生徒数 男子9名 女子3名 計12名
場 所 〇〇学級教室
指導者 〇〇 〇〇 (T1)
〇〇 〇〇 (T2)
〇〇 〇〇 (T3)
〇〇 〇〇 (T4)

- 1 主題名 「あたたかいことばかけ」(ソーシャルスキルトレーニング)
人間関係の形成(2)(4)、コミュニケーション(2)(5)

2 主題について

(1) 学級及び生徒の実態

本年度から生徒数が増え、知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級学級の2クラス体制となった。知的障害特別支援学級は8名(広汎性発達障害、肢体不自由を併せ持つ生徒を含む)と、自閉症・情緒障害特別支援学級4名の計12名である。共通した実態として、集団の中では①相手の話を聞くことが難しい、②友だちとの適切な関わりが難しい、③コミュニケーションが一方的になってしまう、など「人間関係の形成」と「コミュニケーション」に課題をかかえている。そのため、「冷たいことばかけ」で、ちょっかいを出すようなかわりが多く、それによってパニックを起こす生徒もいるので、この主題を設定した。

(2) 主題について

相手にどのような言葉をかけるかというスキルは、相手の気持ちを肯定的に受けとめ、他者との関係を深めていくものである。自分の発することばが相手にどのような影響を与えていくかを知り、「あたたかい言葉かけ」が相手を元気にすることに気づき、「ほめる」「励ます」「気づかう(心配する)」「感謝する」などの「あたたかい言葉かけ」ができる力を身に付けさせたい。

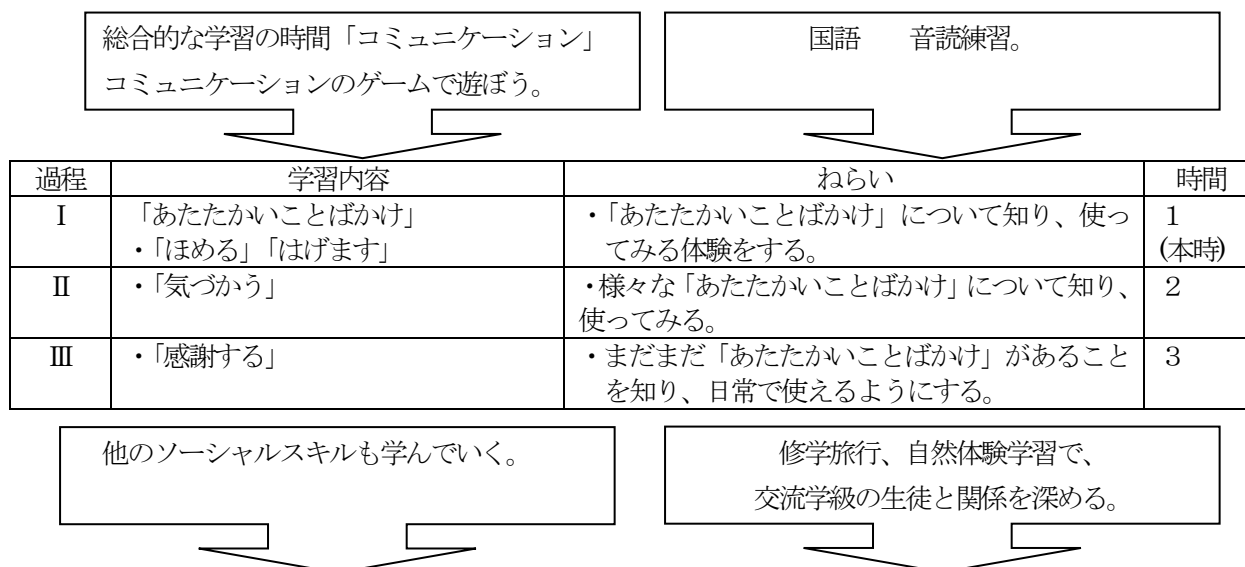
(3) 指導・支援について

「ソーシャルスキルトレーニング」の流れに沿って、「インストラクション」→「モデリング」→「ロールプレイ」→「フィードバック」を行う。見本を見せることで、やり方を理解させて、実際に体験をさせる。「あたたかいことばかけ」をする側と、かけられる側の両方を体験することで、「あたたかいことばかけ」の効果を実感し、使い方を学ばせたい。基本のことばを用意することで、ことばを自分で考えるのが難しい生徒にも体験できると考えた。また、ことばでのコミュニケーションが難しい生徒には、ことばでのやりとりの練習としたい。

3 題材の目標

- (1) 「あたたかいことばかけ」を状況に応じて使えるようにする。
(2) 相手にからだを向け、きちんと見て、笑顔で、聞こえる声で、ことばをかける。

4 指導計画(全3時間)



5 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 「あたたかいことばかけ」がお互いに心地よいことに気づく。
- ② 「あたたかいことば」を相手に伝える。

(2) 生徒の実態及び目標 (別紙 ※授業後回収)

(3) 展開

時間	学習内容	○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示、発語等 ※支援の手立て *評価の観点				資料等
2分	1 はじめのあいさつ 2 本時の活動を知る。	□授業を始めます。大きい声であいさつをしましょう。 ○日直の号令で授業を始める。 □この時間にやることを説明します。 ○集中して、説明を聞く。 ※学習の流れを視覚的に提示し、見通しと意欲を持たせる。				・課題を書いたカード
13分	3 ウォーミングアップ・ゲーム 「ハイタッチ」「私、あなた」 4 インストラクション	グループⅠ (ACG)	グループⅡ (BEH)	グループⅢ (DKL)	グループⅣ (F I J)	・カード
		□ウォーミングアップのゲームをしましょう。 ○かんたんなコミュニケーションのゲームをする。 ※全員が参加できるよう声かけをする。 □「あたたかいことばかけ」「つめたいことばかけ」について説明する。 ○「あたたかいことばかけ」「つめたいことばかけ」の説明を聞く。				
15分	5 モデリング	□「運動会で2位だった」をやってみせる。(T2 T3) ○「つめたいことばかけ」はどんな気持ちになったか考え発表する。 ◎いやな気持ち。感じ悪い。傷つく。がっかり。 ○「あたたかいことばかけ」はどんな気持ちになったか考え発表する。 ◎いい気持ち。心が温かくなる。よかった。うれしい。元気になる。 ○どんな態度や表情で言うといいか、発表する。 ◎からだを向ける。相手を見る。笑顔で。聞こえる声で。				
15分	6 ロールプレイ	□グループに分かれて「学習のつづき」をやってみましょう。 ○役を決め3回読み合う。見ないでやる。本番。役割の交代。 ※Aに自信を持っていわせる。 *楽しくできたか。 ※Cに自分のことに集中させる。 *非言語も集中してできたか。 ※Bに興味をもたせ、積極的にとりくませる。 *積極的にできたか。 ※Eにしっかりことばをかける。 ※Dに落ち着いて、ことばをかけさせる。 *あたたかいことばかけができたか。 ※Kにシナリオに沿ってことばかけをさせる。 ※Fに非言語も含めてあたたかいことばかけをさせる。 *自分のことばでできたか。 ※Iにシナリオに沿ってことばかけをさせる。				・せりふ ・やり方 ・机 ・いす

		※Gが早口にならないようゆっくり言わせる。 *ことばでのやりとりができたか。	*相手にしっかりとことばをかけたか。 ※Hを相手に向き合わせる。 *相手に向き合っ てことばをかけられたか。	*はっきりしたことばで、声かけできたか。 ※Lに非言語も含めて、あたたかいことばかけをさせる。 *自分のことばでできたか。	*ことばでのやりとりができたか。 ※Jに相手に向かってことばかけをさせる。 *相手に向かって声かけできたか。	
		☐「みんなの前でやってくれる人」にやってもらう。 ○役を決め、思いついた「あたたかいことばかけ」をいう。				
5分	7 ふりかえりをする。 8 終わりのあいさつ	☐席について、プリントをやりましょう。 ①「あたたかいことばかけ」 ②気づいたこと、感想 ○②を発表する。 ☐これで終わりにします。元気よくあいさつをしましょう。 ○日直の号令で、元気にあいさつ。				・ワークシート

6 評価

(1) 共通目標に係る評価

- ① 体験から「あたたかいことばかけ」がお互いに心地よいことに気づけたか。
- ② 「あたたかいことば」を相手に伝えることができたか。

(2) 個人目標に係る評価

No.	名前	評 価
1	A	・楽しんでロールプレイに取り組めたか。 ・自信を持ってことばがけができたか。
2	B	・積極的にロールプレイに取り組めたか。
3	C	・集中してロールプレイに取り組めたか。 ・表情や相手をみるなど、非言語のコミュニケーションができたか。
4	D	・落ち着いて、あたたかいことばかけができたか。
5	E	・決まった役で、シナリオを見ずに相手にしっかりとことばをかけたか。
6	F	・シナリオをもとに、自分のことばであたたかいことばがけができたか。 ・表情や相手をみるなど、非言語のコミュニケーションができたか。
7	G	・早口になることなく、ことばがけができたか。
8	H	・相手に向き合っ てことばをかけられたか。
9	I	・シナリオに沿って、あたたかいことばがけできたか。
10	J	・相手に向き合っ てことばをかけられたか。
11	K	・シナリオに沿って、はっきりした発音でことばがけできたか。
12	L	・シナリオをもとに、自分のことばであたたかいことばがけができたか。 ・表情や相手をみるなど、非言語のコミュニケーションができたか。

7 資料

ロールプレイの進め方^{すす かた}

○役を決める^{やく き}

①シナリオを読みあう。3回練習^{よみあう かいれんしゅう}

②シナリオを見ないで、相手を見て練習^{あいて み れんしゅう}

③本番^{ほんばん}

動作や表情^{どうさ ひょうじょう}をいれる。

自分のことばにかえてよい^{じぶん}

続きを^{つづ}考えてつづけてよい^{かんが}

○役を交換^{やく こうかん}

<学習のつづき>

休み時間に学習している友だちがいます。
提出のプリントがもう少しで完成するの
でがんばっているのです。

◎あたたかいことばかけ

友だち 「よしっ、あともう少しだ。^{すこ}

がんばるぞ。」

わたし 「〇〇さん、がんばって。」

友だち 「うん、ありがとう。」

わたし 「終わったらいっしょに^お

あそぼう。」

友だち 「うん。」

(よーし、がんばるぞ)

NO.

取扱注意

(2) 生徒の実態及び目標

	学年	名前	本題材に関する実態	個人目標
知的障害	1年男	A	・脳性麻痺による体幹機能障害。 ・会話好きであり、明るく意欲的に友達と関わることができる。	・楽しく、あたたかいことばかけをすることができる。
	1年女	B	・興味をもてるような関わりをすることで、学習に向かうことができる。	・積極的にあたたかいことばかけをすることができる。
	2年女	C	・視覚優位であるため、周囲の様子が気になってしまい、集中することが難しい ・やるべきことが分かったと、友達に指示をすることができる。	・気持ちを集中して、非言語も含めてあたたかいことばかけができる。
	2年男	D	・静かに落ち着いてかかわると安心して活動することができる。	・落ち着いて、非言語も含めてあたたかいことばかけができる。
	2年男	E	・自分の思いを言葉にすることが苦手である。 ・緊張する場面になると、自分の緊張を和らげるために、周囲を	・非言語も含めて、しっかりとあたたかいことばかけができる。
	2年女	F	・口蓋裂である。 ・人との望ましいかかわりをすることができるが、自信を持つことが難しい。	・非言語も含めて、自分のことばであたたかいことばかけができる。
	3年男	G	・表情や行動で自分の思いを伝えることができる。 ・ゆっくり話すよう声をかけると発音がはっきりする。	・シナリオに沿って、あたたかいことばのやりとりができる。
	3年男	H	・体を相手に向けて話すよう指示すると、視線を合わせて活動できる時がある。 ・サ行の発音がタ行になる。	・相手に向かって、あたたかいことばかけができる。
自閉症・情緒障害	1年男	I	・言葉を使つてのやり取りが苦手である。 ・一音ずつ話すため、語としてとらえにくい。	・シナリオに沿って、あたたかいことばのやりとりができる。
	1年男	J	・口数が少ない。 ・予定を知らせておくことで落ち着いて活動できる。	・混乱せずに、非言語も含めてあたたかいことばかけができる。
	1年男	K	・自分の思いを事前に形にしておく、安心して話をするができる。 ・見通しが持てるとできる。	・シナリオに沿って、あたたかいことばのやりとりができる。
	2年男	L	・自分の気持ちを相手に伝えることが苦手である。	・非言語も含めて、自分のことばであたたかいことばかけができる。

〇〇〇学級 生活単元学習 学習指導案

ここに注目!!

● 児童の特性に応じた教室環境の
整え方がわかる。● 作業の手順の写真がわかりやすく
参考になる。

※ 80 ページの様式参照。



日 時 平成 年 月 日 () 第 校時

指導者 T1 〇〇 〇〇

T2 〇〇 〇〇

児童数 2 名

1 単元名 「小さな秋を届けよう」

2 単元について

(1) 学級及び児童の実態

本学級は、1 年生男子 1 名 (A 児) と 6 年生女子 1 名 (B 児) の 2 名が在籍している知的障害特別支援学級である。本校は小規模校のため A 児は 11 名の中の一人、B 児も 11 名の中の一人として交流学級との交流を続けている。特に B 児は 3 年生まで通常の学級に在籍していた。A 児はじっとしていることが苦手だが興味があることに対しては周りの動きを上手にとらえ、動作を模倣することができる。B 児は非常に穏やかで、日常会話も十分にできる。また、与えられた課題にも一生懸命取り組むことができる。4 月当初は、A 児の行動に周りが左右されている傾向にあったが、現在では、課題によっては、2 人で同じ課題に取り組むことができるようになってきている。

(2) 単元について

この数ヶ月間で特に興味をもって取り組んでいた活動には、春の押し花作りと折り紙を使った壁画作り、お店屋さんごっこがあった。それぞれ生活単元学習や図工、算数の時間など別々の学習時間に取り組んだものだが、今回、これらの活動を学校行事とからめた一連の単元にまとめてみた。

本単元での活動のほとんどが、事前に取り組んだことがある内容なので、あまり抵抗感無く取り組めるのではないかと考える。また、今回は、1 年生が育てたアサガオの種を含め、作った物を学校行事である収穫祭の日に合わせて販売する計画も立てている。両児童にとって販売活動は初めての経験となるので、十分な準備期間をとって臨ませたい。事後は、一連の活動を絵や文で表現させることで、児童の興味関心や内面的な成長を見ていきたい。

「埼玉県特別支援教育教育課程編成要領(2) 小学校及び中学校 特別支援学級・通級による指導編」の生活単元学習の中で「単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるものであること」とある。本単元は正に児童一人一人が主体的に取り組む、他教科での学習をより実践的に学ぶことができるよい機会であると考えている。

(3) 指導・支援について

入学当初から比べ A 児は、学習の場面でも非常に落ち着いてきた。場の設定をしっかりとすれば、教師の説明を見ようとすることもできると考える。現在、A 児はひらがなとカタカナに興味があるので、教室内の掲示物を含めて、本活動に関わる資料以外の文字刺激を適宜コントロールしていきたい。B 児に関しては、自己決定することがやや苦手な面があるので、折り紙を組み合わせて作品を作る際には、できるだけ豊富な材料を用意することで「自分で選ぶ」という場面を意図的に作り出していきたい。

3 単元の目標

- 自分の仕事に最後まで取り組むことができる。
- 一つ一つの作業を丁寧に進めることができる。
- 自分から周りに関わろうとすることができる。
- 体験したことを文や絵に表すことができる。

4 指導計画

- ・ 秋の草花を探しに行こう 2時間
- ・ アサガオの種を集めよう 1時間
- ・ お店屋さんの準備をしよう（商品づくり） 8時間（本時2／8）
- ・ 売するための練習をしよう 2時間
- ・ 収穫祭でお店を開こう 1時間
- ・ 思い出を絵にしよう 2時間

5 本時の学習

（1）児童の実態及び目標

NO	学年	名前	本題材に関する実態 (◎非常に良い点 ○良い点)	個人目標
1	1	A児	○手順に沿って角を合わせるなど基本的な折り方ができる。 ◎印をもとに穴開けパンチを使うことができる。	・ 教師の方を見て話を聞こうとすることができる。 ・ 印をよく見て葉をセットすることができる。 ・ 左手で押さえながら右手で折り目をつけることができる。 ・ 声掛けで片付けを最後まで行うことができる。
2	6	B児	○穴の中にリボンを通すことができる。 ◎折った紙を組み合わせて箱を作ることができる。	・ 良い姿勢で話を聞くことができる。 ・ できあがりを考えながらきれいにリボンを通すことができる。 ・ 組み合わせを考えながら箱づくりができる。 ・ 自分の判断で片付けを行うことができる。

（2）評価

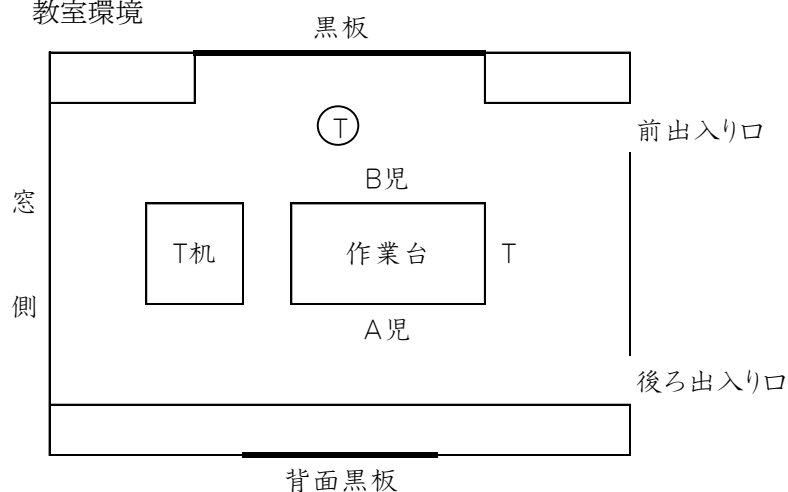
A児	B児
①教師の方を見て話を聞こうとすることができたか。 ②印をよく見て葉をセットすることができたか。 ③左手で押さえながら右手で折り目をつけることができたか。 ④声掛けで片付けを最後まで行うことができたか。	①良い姿勢で話を聞くことができたか。 ②できあがりを考えながらきれいにリボンを通すことができたか。 ③組み合わせを考えながら箱づくりができたか。 ④自分の判断で片付けを行うことができたか。

（3）展開

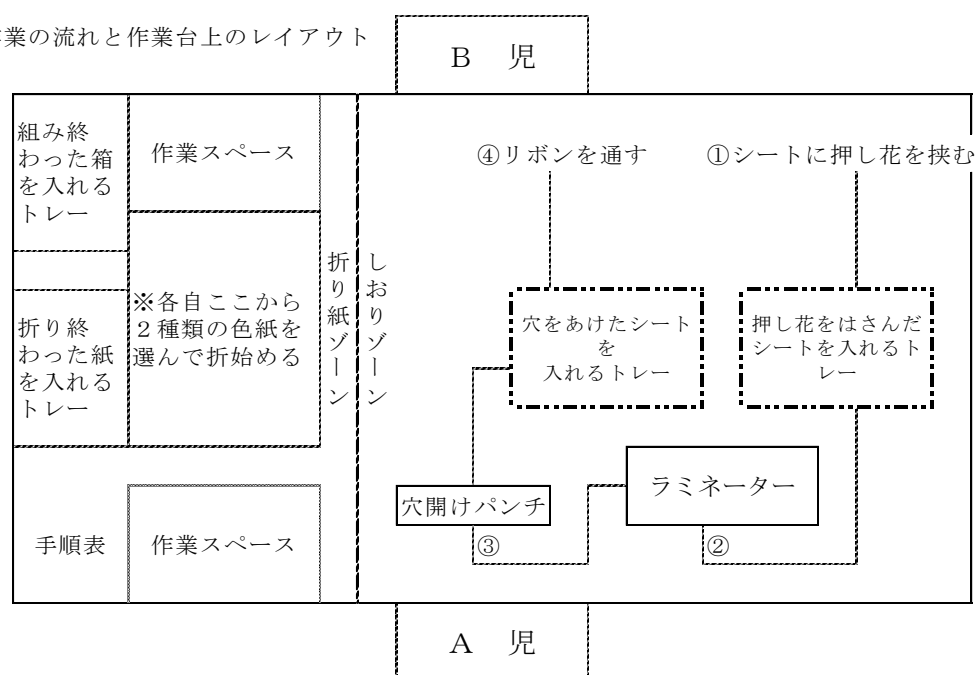
時間	学習内容	○児童の活動 ◆支援の手立て ☆評価		資料等
		A児	B児	
2分	1 はじめのあいさつをする。 2 前回までの学習を振り返る。	○B児の合図で授業を始める。 ○前回までの活動を思い出し、言葉で伝える。 ◆前回までに作った作品を見せる。		前回までの作品
2分	3 今日の活動内容を知る。	○活動内容の説明を聞く。 ◆学習の流れを写真と短い文で提示する。		
40分	4 作業を始める。 （1）葉を作る。 （目標10枚） 児童の活動は、分業にし①～④の順に作業を進める。	○②シートを機械に通す ◆シートを挿入する位置に印をつけておく。 ○③シートに穴をあける。 ◆シートを設置する位置に印をつけておく。 ◆複数の穴をあけないよう見守る。必要に応じて、声掛けをする。	○①押し花をシートに挟む。 ○④穴にリボンを通す。 ◆教師ができあがりをチェックし、評価及び必要なアドバイスをB児へ伝える。	押し花 シート 穴あけパンチ リボン ラミネート

	(2) 折り箱を作る。 (目標 3 個)	○折り紙で箱の部品を折る。 ◆手順表を見るよう促し、 難しい部分は手を添え、 支援する。	○前回の部品を組み立てる。 ○部品が無くなったら折る作業に入る。 ◆紙を組み合わせは自由に決めてよいことを適宜伝える。	色紙 手順表
	(3) 片付けをする。	○使った物を片付ける。 ◆機械類に関しては教師が片付ける。		
1 分	5 本時を振り返り次回の予告をする。 6 おわりのあいさつをする。	○本時でできあがった葉と箱を見せて頑張りを称え合う。 ○次回の予告を聞く。 ◆できるだけ短く伝える。 ○A 時の合図で授業を終わる。		

7 教室環境



作業の流れと作業台上のレイアウト



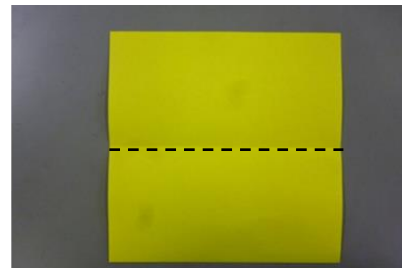
8 資料【小箱の作り方】



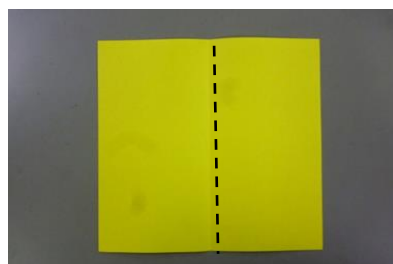
① 折り紙を一枚用意します。



② 半分に折ります。



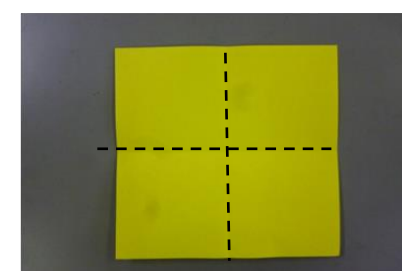
③ 元に戻します。



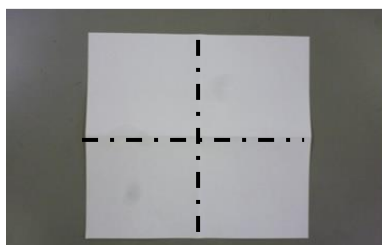
④ 紙を 90 度回転させます。



⑤ もう一度半分に折ります。



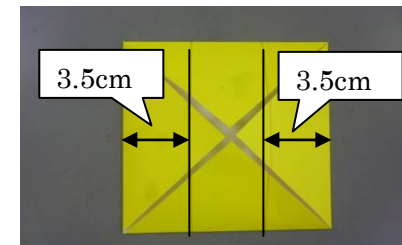
⑥ 元に戻します。



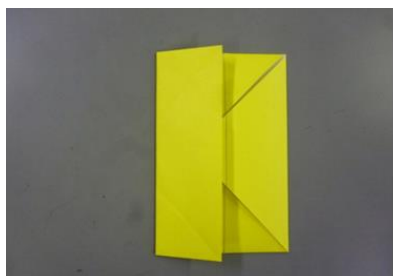
⑦ 裏返します。



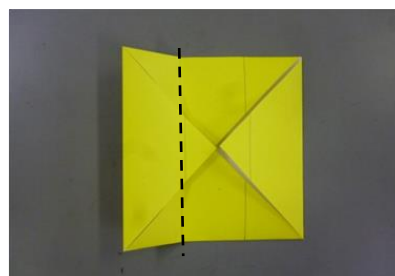
⑧ 四隅を中心に集め折ります。



⑨ 両端から 3.5cm のところに薄く線を引きます。



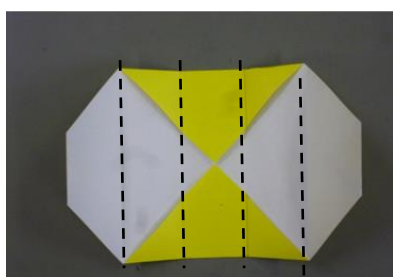
⑩ 線に沿って折ります。



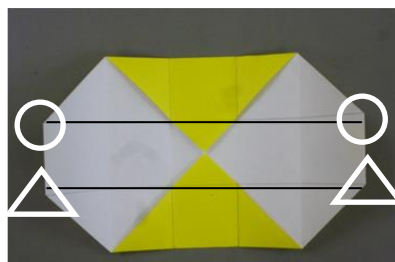
⑪ 元に戻します。



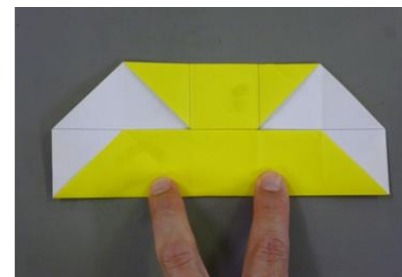
⑫ 反対側も同じように折ります。



⑬ 戻して左右に開きます。



⑭ 図のように横線を引き
ます。角をつなぎます。



⑮ 線に沿って折ります。



⑯ 折り目に沿って立ち上
がらせると

⑯以降は、折り目に逆らわず組んでいくと、箱形になります。

--- 谷折り

- - - 山折り

9 資料【升箱の作り方】



① 折り紙を一枚用意します。



② 半分に折ります。



③ 元に戻します。



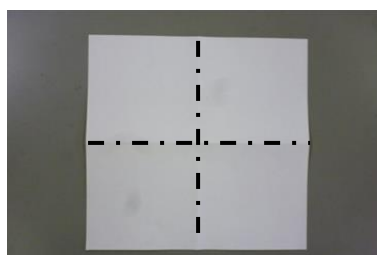
④ 紙を90度回転させます。



⑤ もう一度半分に折ります。



⑥ 元に戻します。



⑦ 裏返します。



⑧ 四隅を中心に集め折ります。



⑨ 向きを変え、中心に向かってこのように折ります。



⑩ 上半分も折ります。



⑪ このように開きます。



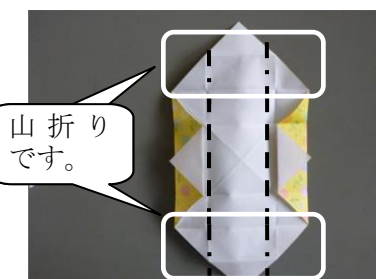
⑫ 90度回転させます。



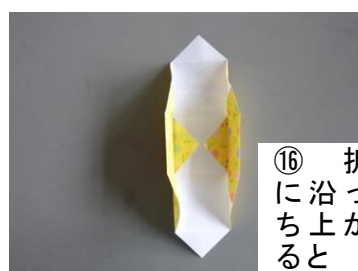
⑬ 中心に向かって、このように折ります。



⑭ 上半分もおります。



⑮ このように開きます。



⑯ 折り目に沿って立ち上がらせると

⑯以降は、折り目に逆らわず組んでいくと、柵形になります。

--- 谷折り - - - 山折り

10 資料【A君の教材教具について】



年度当初からクラスの掲示物は、いらなくなったファイルを利用してきました。A君（1年）は自分の学習プリントだけでなく、掲示係として用紙に穴を開け、ファイルに留めるという活動をずっと練習してきました。そのため、6月頃には穴開けパンチの操作の仕方自体は理解できていました。

《今回の単元を学習するにあたって工夫したこと》



しおりは普通の用紙よりもサイズが小さいため、いつもの使い方では難しかった。

そこで

左のような工夫が必要でした。
（矢印の辺に、しおりの左辺を合わせ→押し込み→穴を開ける、という手順で作業を進めました）



〇〇〇学級「生活単元学習」学習指導案

ここに注目!!

- ペアやグループでの活動を意図的に取り入れ、協力する場面を多く設定した生活単元学習の授業 ※ 80 ページの様式参照。



授業者 平成〇年〇月〇日（〇） 第〇校時
〇〇 〇〇 (T1) 〇〇 〇〇 (T2)
〇〇 〇〇 (T3) 〇〇 〇〇 (T4)

1 単元名 「バザーを成功させよう」

2 単元について

(1) 生徒の実態

本校の特別支援学級は知的障害学級が2学級ある。どちらに所属する生徒も学習や課題に熱心に取り組み、生活力が向上してきた。しかし、言葉に対する理解に困難さを抱える生徒がおり、活動においては視覚的な情報や他の生徒の動きから、その内容を理解することもある。また未熟な言語習得のために誤解を生み争いになることもあるが、調理実習をしたりみんなで一つの作品を作ったりする時には、協力し合って行う姿がある。協力し合う場面を多く設定することで、お互いの良さを認め合い、自己理解の機会としたい。本単元では、バザーに対する意欲を高めるためにも、2学級合同で学習を進めていく。

(2) 単元について

本校では毎年2学期にバザーが開催され、本学級でも「いももち」販売を通してバザーに参加している。いももち作りは毎年行っていることなので、2、3年生においては作業工程もある程度把握し、教師の少ない支援で活動できるようになっており、それを1年生に伝える力もある。しかし、でき上がるいももちの大きさや厚さはまちまちで、バザー当日に焼くのに苦労するというのも否めない。材料の割合や大きさの均一性などを意識して、よりおいしくきれいないももち作りをしようと考え、この単元を設定した。さらに、バザーは本校の生徒ばかりでなく、地域の方や保護者と接する良い機会である。生徒たちのコミュニケーション力を高めるための準備もしっかりしていきたいと考えている。

(3) 指導・支援について

この単元ではバザーの参加を通して、今までに学習してきた内容や身近なものを利用して活動する。生徒一人一人の得意・不得意もあるので、個々への支援も様々となる。特に不得意場面では教師による支援はもちろんのこと、得意とする生徒とペア、またはグループを組むなど場面によって取り入れ、生徒同士の学び合いにより個人の得意なところが発揮できるようにしたい。また調理を伴う学習なので、衛生面にも留意して指導していく。

3 単元の目標

- (1) 自分から進んで課題や役割に取り組むことができる。
- (2) バザーへの参加を通して、コミュニケーション力を高めることができる。
- (3) お互いの良さを認め合い、協力してバザーの成功に向けて活動することができる。

4 指導計画（評価の計画）

過程	学 習 内 容	ねらいと評価	時間
I	いももちを作ってみよう ・作り方の説明を聞き、役割分担をする。 ・調理実習をする。	・どんなことをするのか1年生が見通しを持てるようにする。	3
II	おいしくきれいに作るために考えてみよう ・分量について考える。 ・大きさについて考える。	・じゃがいもに対する片栗粉の割合などを知り、計算できる。 ・長さの感覚を身につけ、実際に作るいももちの筒状の形を実感する。	2 本時

Ⅲ	宣伝用のポスターを作ろう ・どんな内容がふさわしいか考える。 ・レイアウトや色を考えて作成する。	・人に知らせるために必要なことや、 絵や文字の大きさを考えて、ポスター を作成することができる。	2
Ⅳ	販売練習をしよう ・店員さんとして必要な言葉や態度を考 え、実践する。 ・調理をするときに必要なことを考える。 ・レジをするために必要なことを考え、実 践する。 ・販売に必要な用具を考え、準備する。 ・役割分担をする。	・バザーに向けて見通しを持ち、やる 気を高める。 ・店員さんとしてふさわしい言葉や態 度を知り、実際に行動に移すことが できる。 ・役割分担により、それぞれの担当に ふさわしい言葉や態度で、実際に即 した練習をすることができる。	2
Ⅴ	前日の準備をしよう ・いももちを作って冷蔵する。 ・必要な用具を確認し、準備をする。	・これまでの学習を活かして、形や大 きさを考えていももち作りをする。 ・協力して用具の準備ができる。	5
Ⅵ	バザーに参加しよう ・いももちを焼いて販売する。	・身支度を整え、仕事分担により協力 して活動することができる。	3
Ⅶ	振り返りをしよう ・活動して感じたことなどを振り返り表に まとめる。 ・売上計算をする。	・自分の言葉で活動を振り返ることが できる。 ・電卓を使って、売り上げの計算をす ることができる。	2

5 本時の学習

(1) 共通の目標

- ①食べ物のおいしさは、味に加えて見た目も大事であることを知る。
- ②コンパスまたは代用品を使って、円を描くことができる。
- ③紙で作成した筒状のものから、いももちのだいたいの大きさをイメージする。

(2) 個人の実態及び目標

No.	学年	名前	本単元に関する実態	個人目標
1	○年男	A	繰り返し同じことを行うのは苦手だが、時間を区切ると頑張れる。ものを作るのが好きで器用である。	コンパスで円を描き、丁寧に切ることができる。筒状の形の側面を作ることができる。
2	○年男	B	説明等を聞いて内容を理解できるがじっくり取り組むのは苦手である。見えづらさがあるので、切る線などを太くすれば切りやすい。	代用品を使って円を描き、はさみで線に沿ってゆっくり丁寧に切ることができる。
3	○年男	C	何事にもまじめに取り組む。言葉による説明よりも、視覚情報の方が理解しやすい。	円の描き方について聞いたり見たりして理解し、自分の力で円が描ける。
4	○年男	D	様々な道具を上手に使いこなせる。学級内ではリーダーとして活動できるが、大きな集団で力を発揮するには支援が必要である。	コンパスを使って円を描き、丁寧に切ることができる。筒状の形の側面を作ることができる。後輩の支援ができる。

～以下略～

(3) 本時の展開

時間	学習内容	○生徒の活動 ※支援の手だて					□指導者の主な指示・発語等 ※評価					資料等	
5分	1 始めのあいさつをする。	*姿勢よくあいさつできているか。										定規 折り紙 大きな円 大きなコンパス	
10分	2 前時の確認をする。	□いももちをおいしくするためにどんなことを考えましたか？ *じゃがいもと片栗粉の配分を覚えているか。 ※集中して話を聞けるよう、聞けていない生徒に声かけをする。											
	3 今日の目標を確認する。	□今日の目標は、「同じ大きさのいももちを作ろう。」です。 ○調理実習で作ったいももちの大きさを思い出す。 ○4.5cmの長さを指で示す。 ※T2、T4は指で示した長さを定規で測る。 ※T3は取り組めていない生徒がいたら補佐する。 *指で4.5cmの長さを示すことができているか。											
	4 長さについて確認する。	□今回のバザーでは、直径 5cm の大きさのいももちを作ります。折り紙を折って、その長さを確かめてみましょう。 ※T2、T3、T4は折った折り紙の長さを定規で測る。											
25分	5 直径について確認する。	□（大きな円を提示して）直径はどこになりますか？ ○直径の場所を指でさしたり、言葉で言ったりする。 *直径の場所を理解できているか。											
	6 直径 5cm の円を描く。	□直径5cmの円を描きます。コンパスは何cmに合わせますか？ ○コンパスまたは代用品を使って円を描く。 ※ペアを作って活動する。											
		A・B	C・D	E・F	G・H	I・J	コンパス 代用品となるもの （缶など）						
	7 筒状の形を作る。	*集中して行えているか。 *Aはコンパスを使って、Bは代用品を使って円を描けているか。 (T2)	*Dはコンパスを使って円を描き、Cの補佐ができているか。 *Cは円の描き方を理解し、代用品を使って円を描けているか。 (T1)	*Eは代用品を使って円を描こうとしているか。 *Fはコンパスか代用品で円を描けているか。 (T4)	*Gはコンパスを使って、Hはコンパスまたは代用品を使って円を描けているか。 (T1)	*Iは説明を理解して組み立てているか。 *Jは代用品を使って円を描けているか。 (T3)							
		□今作った円を使って、いももちと同じ形を作しましょう。 筒になるところが必要です。これは長方形になっています。 ○リボンを使って長方形の長さを測り、筒を作る。											リボン 側面となる長方形の予備
		*2人で長方形を作る	*Dが長方形を作り、Cが	*Fが長方形を作り、	*2人で協力して	*Jが長方形を作り、							

10 分	8 筒状の形の大きさを覚える。	り、協力して筒状の形にできているか。 (T2)	それを支えて筒状の形にできているか。 (T1)	EはFに協力して活動しようとしているか。 (T4)	長方形を作り、筒状の形にできているか。 (T1)	I がそれを支えて筒状の形にできているか。 (T3)	
		□いもちの形や大きさはこんなふうになります。しっかり覚えて、バザーの準備できれいに作しましょう。 ※最後に厚さも確認する。1.5cm のところに線を引く。 * Aが最後まで集中して話を聞いているか。 * いもちの大きさをイメージできたか。					定規

6 評価

(1) 共通目標に係る評価

- ①食べ物のおいしさは、味に加えて見た目も大事であることを知ることができたか。
- ②コンパスまたは代用品を使って、円を描くことができたか。
- ③紙で作成した筒状のものから、いもちのだいたいの大きさをイメージすることができたか。

(2) 個人目標に係る評価

NO	学年	名前	評 価
1	○	A	・ 集中して行えているか。 ・ コンパスを使って、円を描けているか ・ Bと協力して長方形を作り、筒状の形にできているか。
2	○	B	・ 集中して行えているか。 ・ 代用品を使って円を描けているか。 ・ Aと協力して長方形を作り、筒状の形にできているか。
3	○	C	・ 円の描き方を理解し、代用品を使って円を描けているか。 ・ Dが作った長方形を支えて、筒状の形にできているか。
4	○	D	・ コンパスを使って円を描き、Cの補佐ができているか。 ・ 長方形を作り、Cが支えを借りて筒状の形にできているか。

～以下 略～

7 備考

生徒数 10名
座席表 略

学習指導案では、児童生徒の実態に応じた展開が分かる記述が必要になります。

〇〇〇学級 教科別の指導「△△」 学習指導案

「単元、題材、主題の考え方の目安」
 単元：領域・教科を合わせた指導で用いる。
 題材：教科別の指導、領域別の指導（特別活動）で用いる。
 主題：領域別の指導（道徳、自立活動）で用いる。

日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）
 第〇校時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
 場 所 〇〇〇〇
 指 導 者 教諭 〇〇 〇〇（T1）
 教諭 〇〇 〇〇（T2）
 教諭 〇〇 〇〇（T3）

1 題材名 「〇〇〇〇〇〇〇〇」

2 題材設定の理由

（1）学級及び児童（または生徒）の実態

- ・設置学級の障害種別、在籍児童生徒数、障害の状態について記述する。
- ・障害の状態については、共通目標・個人目標・支援の手立ての手掛かりになるよう、題材のスキルの達成状況や興味・関心が高い面など、肯定的に記述する。

（2）題材について

- ・「学級及び児童の実態」「題材について」を踏まえ、工夫・配慮を行う点を記述する。
- ・教材教具の工夫、清潔や安全面への配慮等を、指導上の留意点として記述する。

（3）指導・支援について

- ・題材の特性及び教育活動を通じて、獲得しようとする指導内容、題材を構成する教科・領域、関連する他の教科別の指導、教科等を合わせた指導について記述する。
- ・題材の特性に応じて工夫・配慮した事項（学習形態、指導の手順）を記述する。

3 題材の目標

- （1）〇〇〇〇・・・ができる。
 （2）〇〇〇〇・・・が分かる。
 （3）〇〇〇〇・・・ができる。

- ・学習において、実現させたい児童生徒の変容について、到達目標として記述する。
- ・①関心・意欲・態度、②基礎的・基本的な知識及び技能、③思考力、判断力、表現力、④主体的に学習に取り組む態度などについて、目標を設定する。

4 指導計画

本題材の事前の学習活動となった教科別の指導、領域・教科を合わせた指導（場合によっては過年度の学習活動）

過程	学習内容	ねらい	時間
I	〇〇〇を・・・しよう。	・〇〇〇に見通しをもち、〇〇をしようとする気持ちを高める。 ・〇〇〇・・・	1 2
II	〇〇〇をしよう！！	・〇〇〇・・・	3

生活単元学習「〇〇をしよう」で金銭の使い方について学習

教科別の指導「〇〇」で日記の書き方について学習

教科別の指導「〇〇」で△△を制作

・「生活に結び付いた」という観点で、他の教科等との関連を図る。

5 本時の学習

(1) 共通目標

- ① ○○○・・・・・・ができる。
② ○○○・・・・・・が分かる。

・「3 題材の目標」と関連付ける。
・全体的な活動のねらいを具体的に示す。

(2) 児童の実態及び目標

NO	学年	名前	本題材に関する実態
1			○○できる。○○すると○○できる。
2			

・達成状況を中心に肯定的な表記を心掛ける。

(3) 個別の指導内容及び目標

NO	学年	名前	具体的な指導内容	個人目標
1			○○できる。○○すると○○できる。	
2				

・教科等の内容に基づいて、何を指導するのか、具体的に設定する。

(4) 展開

時間	学習内容	○児童の活動 ◎予想される児童の反応 □指導者の主な指示、発語等 ※支援の手立て *評価の観点				資料等
○分	1 はじめのあいさつをする。	☐ 昨日の学習を思い出してみましょう。 ☐ 活動表に絵カードを貼りながら、昨日の学習内容を振り返る。 ※踵を付けるように言葉をかける。 ※B, C: 手本を見せ、模倣するように促す。(T3)				
○分	2 活動表を見て、昨日の学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。 ～以下、略～	A ☐ みなさん、口を結んで、Aさんの口を見ましょう。 ☐ 日直Aさんのあいさつで授業を始める。 ◎進んで絵カードを貼ろうとする。 ※貼った後にどのような活動をしたか問い掛ける。 *昨日の活動を振り返り、説明することができたか。	B ◎自分の順番を待たずに絵カードを貼ろうとする。 ※事前に張る順番を予告する。 *順番を待つことができたか。 *他の児童の活動を注視できたか。	C ◎注意が逸れてしまい、他の児童が絵カードを貼る時に他のところを見ている。 ※児童の活動に注目するよう言葉をかける。(T2) *貼った後は、どのような行動をとったらよいか問い掛ける。	D ◎進んで絵カードを貼ろうとするが、活動の順番に沿って貼ることは難しい。 ※学習内容ごとに絵カードの形を変え、黒板の枠組みとマッチングできるようにする。 *絵カードを枠の形を合わせて貼ることができたか。	・活動表 ・絵カード ・枠組み
○分	5 今日の学習の振り返りをする。					

6 評価

(1) 共通目標に係る評価

- ・・・・・・ができたか。
○○・・・・・・が分かったか。

・目標がどの程度達成できたか、簡潔に評価できるようにする。
・個人目標では、「自己評価」を有効活用する。

(2) 個人目標に係る評価

- ・・・・・・ができたか。
○○・・・・・・が分かったか。

7 教室環境図

- (1)・・・・・・場面
(2)・・・・・・場面

・図解する。

4 就学支援・進路指導について

就学支援とは、就学時にとどまらず、障害のある子供の将来を見通し、就学前から就学後も含めて、教育・福祉・保健・医療などが一体となって、子供や保護者に対して、継続して相談・支援を行うことです。

ここでは、小学校就学までの幼稚園・保育園との連携から、高等学校又は特別支援学校高等部卒業後の進路までを含めて、就学支援・進路指導の流れを見ていきます。

(1) 小学校就学まで

<就学相談>

望ましい就学先を検討する目的で、就学前に、学校見学や就学相談に来校される場合があります。保護者の願いを受け止めながら、特別支援学級の教育課程等、保護者にとって必要な情報をていねいに説明し対応すると良いでしょう。

相談の基本的な態度：「カウンセリング・マインド」

- 「傾聴」：保護者の話を“じっくりと聴く”態度
- 「共感」：保護者が感じているように“共に感じる”態度
- 「受容」：これまでのがんばりを“肯定的に認める”態度

<就学時健康診断>

就学時健康診断は、入学後の適切な支援を行う上で大切な機会となります。

健康診断時の幼児の様子、保護者とのやりとりの様子などを観察することで支援への手がかりが得られるかもしれません。

特に、スクリーニング検査やことばの検査を実施している場合、指示されたことへの理解の様子や行動面の観察をしておくことは、集団での授業の様子につながることもあります。

<入学式に向けて>

児童や保護者との良好な関係を築いていくための第一歩です。スムーズに入学式に参加できるためにも、児童の特性を理解し、全職員で共通理解のもと、適切な支援ができるように話し合しましょう。特に、入学式の日、交流学級で過ごすことも多くなると考えられますので、交流学級担任と連携を密にとることが大切となります。

また、保護者とも当日の流れ等について、確認しましょう。必要に応じて、児童や保護者と式場の見学をしていただくことで、初めての場所への不安の軽減につながると思われます。

入学式に向けた 主な確認事項

<例>

- ・下駄箱やロッカーの位置
- ・入退場の仕方
- ・座席（本人・保護者）
- ・式の中での動き
- ・参加が難しくなった時の対応方法
- ・学級活動への参加の仕方 等

※ 入学後においても学校生活がスムーズに送れるように、準備しておくことが大切です。幼稚園や保育園から集団生活にかかる情報を得て、活かしていくと良いでしょう。

（２）中学校進学に向けて

中学校への進学にあたり、一人一人の特性を考慮し、長期的な展望に立ち、進路指導を行うことが大切です。そのため、必要な情報を本人や保護者に提供するとともに、学校見学や学校公開、学校説明会や体験入学等の機会を活かしていくと良いでしょう。学区内の中学校の状況についても、小学校と連携をし、情報を得ていくことも必要です。



<進学先>

- ① 学区内中学校 通常の学級
- ② 学区内中学校 特別支援学級
- ③ 県立特別支援学校 中学部
- ④ 国立特別支援学校 中学部
- ⑤ 私立中学校

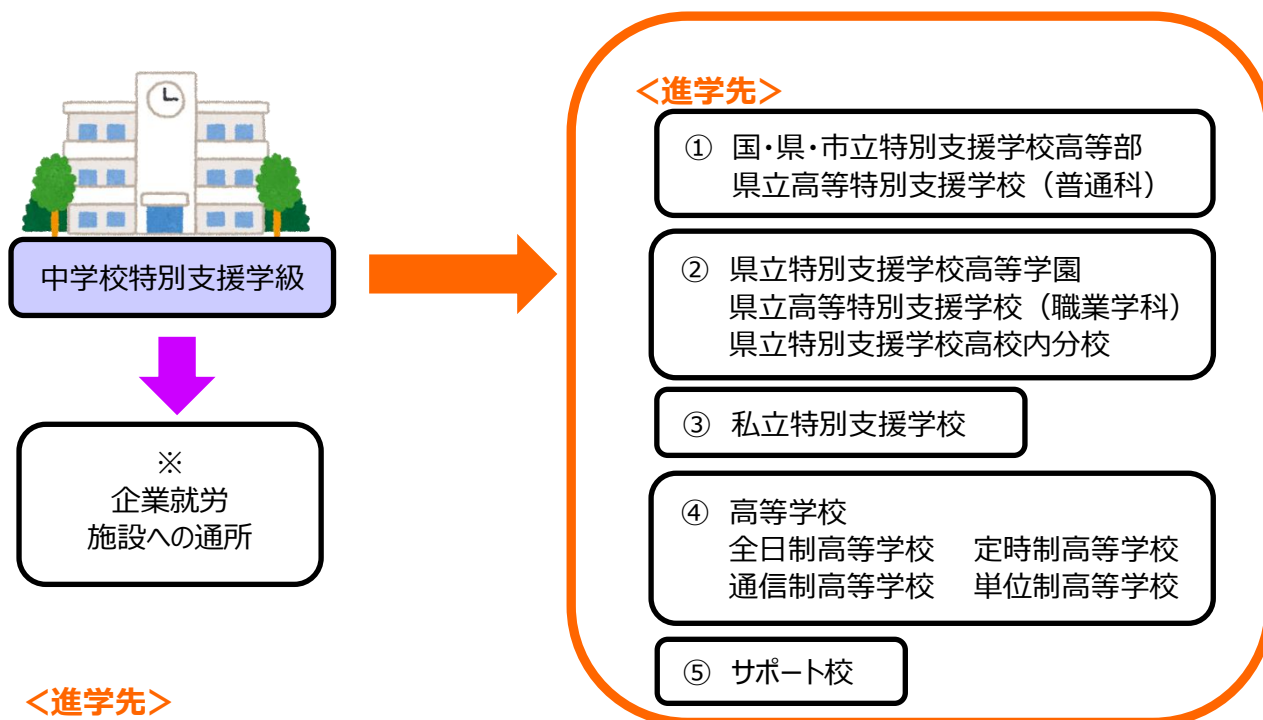
<進学先>

- ③ 県立特別支援学校中学部は、学区域が指定されており、障害種別の条件もあります。
- ④ 入学選考があります。事前にホームページの募集要項で情報収集する必要があります。
- ⑤ 県内・近県に私立の中学校もあります。各学校とも特色がありますので、詳しくはホームページなどから情報収集する必要があります。

※ 通常の学級から特別支援学級へ、または特別支援学級から通常の学級へといった教育形態の変更や特別支援学校中学部への転学といった場合、市町村就学支援委員会による総合的な判断が必要となります。いつまでに保護者と話し合い、本人や保護者の意向を確認したらよいか、また、校内委員会での話し合いを行ったらよいかを、特別支援教育コーディネーターや管理職とともに確認しておきましょう。

（３）中学校卒業後

中学校特別支援学級においては、一人一人の特性などを把握した上で、進路の自己決定に向けて支援・指導を組織的・継続的にしていく必要があります。そのためには、中学校卒業後にどんな進路選択があるか具体的に把握しておくこと、地域の担当者同士のネットワークを通じて常に情報を得ておくことが求められます。



<進学先>

- ① 特別支援学校高等部・高等特別支援学校（普通科）は、学区域が指定されており、障害種別の条件もあります。
- ② 知的障害の程度が比較的軽い者で、自力での通学が可能な者が対象です。
※ ①と②は、入学選考があり、障害種別の条件もあります。②については、療育手帳の写し（または知的障害である旨の医師の診断書）が提出書類に含まれます。また、志願する特別支援学校での事前相談も必須となるので、受検資格・条件を確認する必要があります。学校公開も毎年行われているので、生徒が 1・2 年生のころから計画的に見学を促し、進路先について自己決定できるように進路指導していくことが望まれます。
- ③ 県内・近県に私立の特別支援学校もあります。各学校とも特色がありますので、詳しくはホームページなど情報収集することができます。
- ④ 全日制高等学校（国公立）、定時制高等学校（県立）、単位制高等学校（国公立）、通信制高等学校（県私立）があります。
- ⑤ サポート校の場合、高等学校卒業の資格を得るためには合わせて通信制高等学校で単位を取得する必要があります。また、サポート校と通信制高等学校とを併設するところもあります。

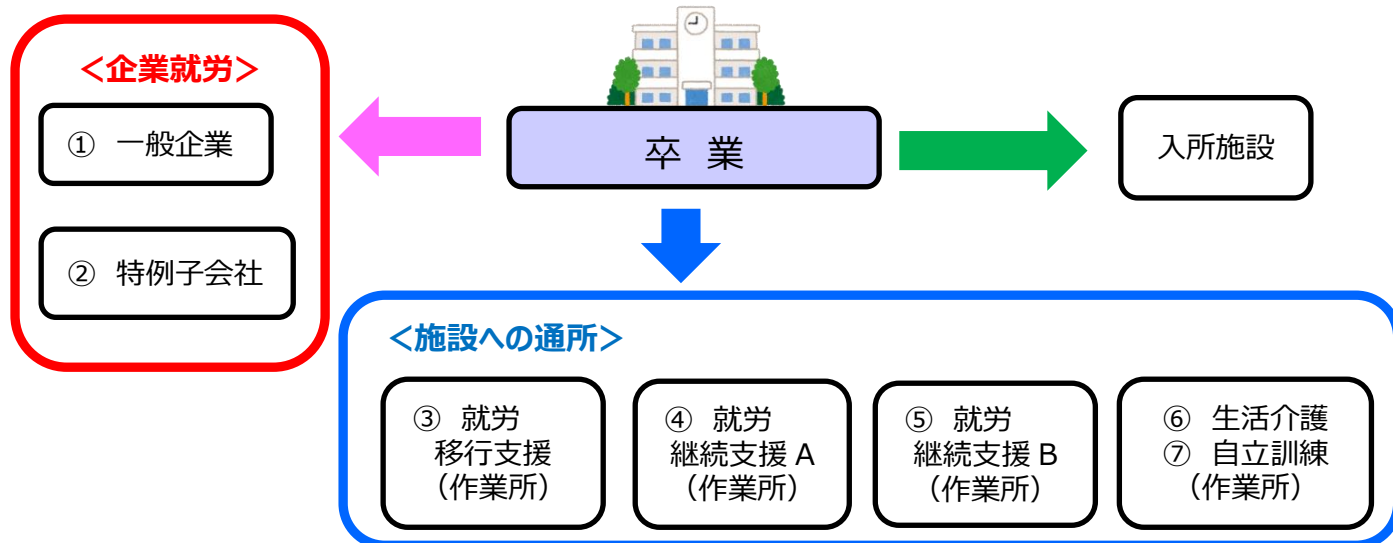
※ 企業就労・施設への通所の詳細は、85 ページにあります。

※ 高等学校でも継続して適切な支援ができるように、今までどんな支援を受けてきたのか、早い段階で情報をつなぐことが重要です。このとき、「個別的教育支援計画」や「個別的教育指導計画」が保護者を通じて引き継がれるとスムーズな移行支援につながるでしょう。

※ 進路先については、本人・保護者のニーズを踏まえ、管理職を通じて進路希望先の学校・教育委員会へ相談をすることが大切です。また、学校の入学後や卒業後のことも視野に入れながら、ご本人の障害の程度や特性を考慮し、進めていくことも望まれます。

(4) 高等学校及び特別支援学校高等部卒業後

中学校の進路指導の中では、なかなか意識することはないかもしれませんが、特別支援学級に在籍していた生徒が、その後、どのような形で社会に出ていくのか知っておく必要もあるでしょう。ここでは、特別支援学校高等部に進学した生徒が、その後どのような進路選択をしていくかを説明します。



＜企業就労＞

- ① 一般企業…雇用契約に基づいて就業します。
- ② 特例子会社…企業が障害者の雇用に取り組んでいる子会社です。支援のノウハウが蓄積されているので、障害を有する方が働きやすい職場です。

＜施設への通所＞

- ③ 就労移行支援事業所…就労に向けての訓練をし、施設内の作業や企業での実習を行います。適性にあった職場探し、就労後定着するための連絡・相談をします。2年間という利用期限があります。
- ④ 就労継続支援 A 型事業所…雇用契約を結んだ事業所で行われるため、埼玉県 lowest賃金が保証されます。利用期限はありません。
- ⑤ 就労継続支援 B 型事業所…働く場を提供するとともに、就労に向けての必要な訓練を行います。
- ⑥ 生活介護…常に介護を必要とする方が対象です。
- ⑦ 自立訓練…自立した生活が送れるように、一定期間身体機能または生活能力の向上のために必要な訓練を行います。

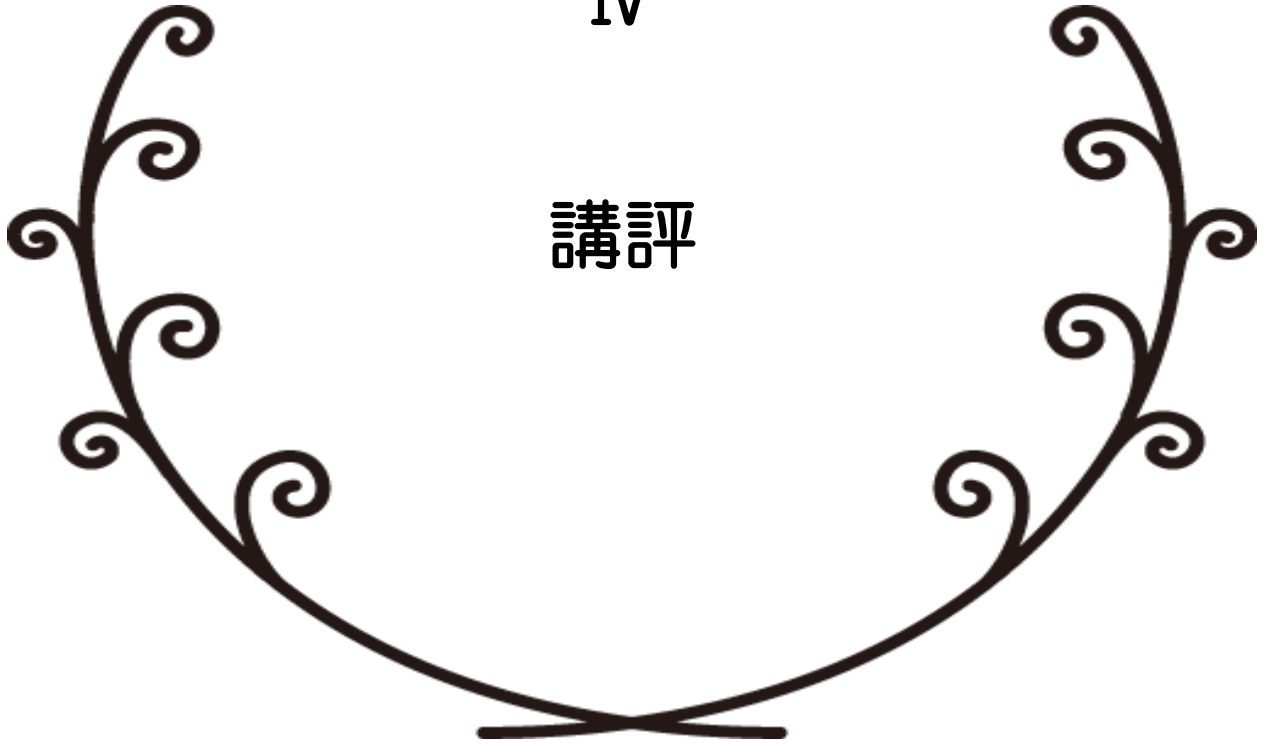
※ 中学校特別支援学級を卒業後、進学を希望しない生徒もいるかもしれません。こういったとき、特別支援学校の進路指導がどのように進められているか、どのような地域資源を活用しているのがヒントになります。学区の特別支援学校の進路担当と連携をとることも、進路指導の手がかりになるでしょう。

卒業後、就労などの相談ができる窓口として

市町村 障害者支援課（福祉課障害者支援係） 障害者就業・生活支援センター
就労支援センター ハローワーク
発達障害者就労支援センター <ジョブセンター>（川口・草加・川越・熊谷・さいたま）
地域若者サポートステーション（さいたま・川口・深谷・春日部）

IV

講評



1. 特別支援学級の動向

インクルーシブ教育システムが推進されるに伴い、特別支援学級の重要性がさらに高まっています。平成 24 年に公表された「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」では、多様な学びの場の一つとして、特別支援学級の環境整備の充実を図っていく必要があること、特別支援学級の担当教員は小・中学校における特別支援教育の重要な担い手であることが指摘されています。

また、平成 29 年に公示された新学習指導要領においては、特別支援学級において実施する特別の教育課程の編成に係る基本的な考え方について、新たに示されており、特別支援学級への注目が高まっていることが読み取れます。特別の教育課程に関する記述を見ますと、小学校学習指導要領では第 1 章第 4 の 2 の(1)のイにおいて、以下のように記述されています。

特別支援学級において実施する特別の教育課程については、次のとおり編成するものとする。

(7) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第 7 章に示す自立活動を取り入れること。

(4) 児童の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、各教科を、知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。

(ア) では自立活動を取り入れることが規定されています。(イ) では学級の実態や児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標に替えること、各教科を知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えることが規定されています。

一方で研究の概要にもありますように、特別支援学級の増加からの担当者の不足や、人事異動のサイクル等により、特別支援学級担任の特別支援教育経験年数が必ずしも多くない場合があります。また、特別支援学級に在籍する児童生徒は多様であり、例えば知的障害を対象とした特別支援学級でも、在籍する児童生徒の教育的ニーズは様々です。このような状況から、特別支援学級担任が教育課程編成や授業の実施に困難を抱えていることがあり、特別支援学級担任をサポートするための方策を講じることが喫緊の課題です。

2. 本ハンドブックの今後の展開について

本調査研究から作成された特別支援学級ハンドブックの特徴として、教育課程編成や授業の学習指導案の例が豊富に記載されている点が挙げられます。いずれも、特別支援学級に関する高い専門性を有した本研究協力員の方々が、自らの豊富な指導経験をもとに書かれたものであり、非常に質が高く、参考になる内容です。なお、特別支援学級に関するハンドブックは埼玉県に限らず様々な地域で作成されており、各都道府県や市区町村教育委

員会等の Web ページにアップされている例が多くあります。地域によって、ハンドブック作成の切り口や考えが異なりますので、比較して読んでみると特別支援学級の理解が深まるかもしれません。

本ハンドブックに記載されている教育課程や学習指導案は、あくまで例ですので、いずれの教育課程や学習指導案も、目の前の特別支援学級にそのままでは適用できないと思います。各事例が児童生徒の実態をふまえて、児童生徒にどのような力を育てたいと考えて、教育課程や授業を設定したのかを読み取り、自らが担任する特別支援学級の児童生徒はどのような実態なのか、どのような力を身につけてほしいのかを改めて考え、事例から参考にできる内容を読み取るようにすると、効果的に活用できると思います。

また、本ハンドブックに記載された事例は、平成 29 年学習指導要領が公示される前の実践をもとに記述されています。例えば、新学習指導要領においては全ての教科等が、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理され、知的障害特別支援学校の各教科も目標がこの 3 つの柱で整理されたなど、様々な改定がなされています。新学習指導要領の改訂点をふまえた上で、本ハンドブックの活用を考えると良いかと思います。

最後に、本ハンドブックの活用方法を、各学校や地域で考えていくことが重要です。例えば、本ハンドブックを用いて校内や地域において、どのような研修プログラムを組み立てることができるかなど、個人で必要に応じて本ハンドブックを参照する以外の活用方法も考えると、本ハンドブックの価値が高まるでしょう。

そして、本ハンドブックの活用を超えた特別支援学級担任の専門性向上の方策についても、学校や地域で考える必要があると思います。どの資料も同様ですが、本ハンドブックですべての特別支援学級担任の指導上の悩みを解決することは難しいと思います。例えば、特別支援学級の新担任となった際には、本ハンドブックを用いて自学や研修により特別支援学級についての理解を深め、その後は校内や地域での定期的

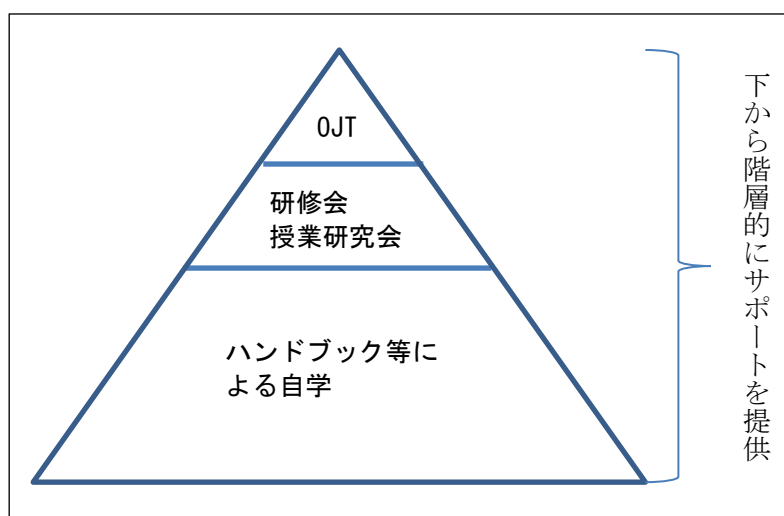


図 教員の専門性サポートの階層例

な授業研究により、特別支援学級の専門性を向上させるなど考えられます。教員の専門性向上のためには、階層的に様々な方策を各学校や地域で考える必要があるかと思います。

末筆となりましたが、「特別支援学級の教育課程編成の在り方に関する調査研究」の研究協力委員の皆様、埼玉県立総合教育センターの皆様、調査に関わられた皆様、お疲れ様でした。皆様の尽力により、素晴らしいハンドブックが完成したのだと思います。今後の本ハンドブックの展開、さらには特別支援学級に関する推進を祈念しております。

V

研究のまとめ



V 研究のまとめ

(1) 成果

本研究では、特別支援学級の担当者等が特別の教育課程を理解し、その編成に資することを目的に、先行研究の収集及び分析、市町村教育委員会の特別支援教育担当指導主事や特別支援学級の新担当教員からの情報収集により、教育課程編成上の課題の整理を進めた。その中で浮かび上がってきた課題は、特別支援学級担当者、設置校の管理職、市町村教育委員会担当者等で、各段階に応じてさまざまあることがわかったが、本研究ではまず学校現場の最先端で日々悩み奮闘している新担当となった先生方の助けとなる成果物を残すことが、特別支援学級の理解啓発の第一歩になると考え、教育課程編成の手順やポイントをまとめた『特別支援学級ハンドブック』を作成し、発信することとした。

第1章の調査研究編では「これは知っておこう」と題して、特別支援学級に関する基本的な事項を関係法令、教育課程の基本、特別支援教育コーディネーターの役割、特別支援学校のセンター的機能の4つに項立てしてまとめた。特別支援学級に携わるに当たり、最低限知っておくべき内容に絞って、必要なときに必要な事柄がすぐ目に留まるよう、図表を活用して見やすく工夫した。第2章の実務編では「初めての特別支援学級担当の先生へ」と題して、最初に学級経営の一年間の流れを示した上で、年度当初に作成する教育課程や年間指導計画、個別の教育支援計画と個別の指導計画の実例を、校種別・障害種別に掲載した。また、授業の進め方についても、実際の学習指導案を使用し、どのような実態の児童生徒に対して、どのような意図を持って題材を設定し、どのような指導・支援を進めようと考えたか、そのポイントを示した。

このハンドブックが、4月に特別支援学級に初めて配属される新担当者の手元に届き、年度当初の事務処理や学級開きの支えとなるよう活用されていくことが望まれる。

(2) 課題

当センターで実施している特別支援学級担当者対象の研修受講者のニーズから「特別支援学級の教育課程編成の在り方」を喫緊の課題と捉え、今年度の研究テーマとしたが、現在は平成29年3月告示の新学習指導要領への移行期に当たり、この『特別支援学級ハンドブック』を研修資料として継続活用していくには、平成31年3月発行予定の『埼玉県特別支援教育教育課程編成要領【小学校及び中学校特別支援学級・通級による指導編】』に合わせた見直しと、事例集やQ & Aといった内容のより一層の充実が求められる。

(3) おわりに

ある小学校の校長が、特別支援学級担当の若手教員から「明日の授業でファストフード店に行ってきます。」と言われ、具体的な指導内容を尋ねてみると「生活単元学習でハンバーガーを食べるんです。」との答えが平然と返ってきて目を丸くしたというエピソードがある。この校長は特別支援教育に長く携わっていた経歴もあり、すぐに本来の生活単元学習の在り方について指摘したそうであるが、この『特別支援学級ハンドブック』が学校現場に普及していくことで、教員自らが生活単元学習についての正しい認識のもとに、「ファストフード店に行こう」という題材の指導計画が組めるようになることを期待するものである。特別支援学級に配属された先生方が、分からないことだらけで後ろ向きな気持ちになったり、新たな取組にチャレンジすることを諦めてしまうことのないよう、当センターとしても特別支援学級の理解啓発に向けて力を注いでいく所存である。

「すべては子供の笑顔のために」

研究協力委員

(平成30年3月末日現在)

【研究協力委員】

(スーパーバイザー)

神山 努 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所研修事業部研究員

(委員長)

小林 松司 桶川市立桶川小学校校長

(副委員長)

櫻井 秀子 川口市立上青木小学校校長

黒崎 暢徳 本庄市立秋平小学校校長

(委員)

桂 朋子 川口市立戸塚中学校教諭

田原 和重 越生町立梅園小学校教諭

田近 純子 深谷市立深谷西小学校教諭

久保田悦子 本庄市立中央小学校教諭

田村 昌美 八潮市立大原中学校教諭

蓮沼 元宏 白岡市立白岡中学校教諭

栗城比菜子 県立春日部特別支援学校教諭

阿相 道子 教育局県立学校部特別支援教育課指導主事

なお、県立総合教育センター特別支援教育担当においては、次の者が研究に当たった。

原田 篤 県立総合教育センター主任指導主事

森田 陽久 県立総合教育センター指導主事兼所員

森澤 由希 県立総合教育センター指導主事兼所員

安藤 咲恵 県立総合教育センター指導主事兼所員

平井 悠一 県立総合教育センター指導主事兼所員

栃金 聡 県立総合教育センター指導主事兼所員

小柳 雄二 県立総合教育センター指導主事兼所員



平成 29 年度調査研究報告書 第 402 号

「特別支援学級の教育課程編成の在り方に関する調査研究」

埼玉県立総合教育センター
特別支援教育担当